

ScanSnap

インターフェースガイド

はじめに

ScanSnap に添付のソフトウェア（ScanSnap Manager、ScanSnap Organizer、CardMinder）は、お客様が作成したアプリケーションとの間で、連携ができるインターフェースを提供しています。

本書は、お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携するための方法について説明しています。

本書は、ソフトウェアの開発者を対象に書かれています。本書を読むにあたって、ある程度の専門知識が必要です。

ご使用の際には、本書をよくお読みになり、ScanSnap を正しくご使用くださるよう、お願いいたします。

本書が、ScanSnap を活用していただくために、皆様のお役に立つことを願っております。

2016 年	5 月	12 版
--------	-----	------

商標および登録商標

Microsoft、Windows、Windows Vista、Excel、PowerPoint、Outlook、SharePoint、Visual C++、Visual C#、および Visual Studio は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Word は、米国 Microsoft Corporation の製品です。

Apple、Apple ロゴ、Mac、Mac OS、OS X、iPhoto、および Xcode は、Apple Inc. の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、および Reader は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。

Evernote は、Evernote Corporation の登録商標または商標です。

Google、Android、Google Play、および Google ドライブは、Google Inc. の登録商標または商標です。これらの登録商標または商標の使用には Google 使用許諾が適用されます。

Salesforce、Salesforce ロゴ、Salesforce CRM は米国その他の国における米セールスフォース・ドットコム（salesforce.com, inc.）の登録商標または商標です。

ScanSnap、ScanSnap ロゴ、ScanSnap Manager、ScanSnap Organizer、および CardMinder は、株式会社 PFU の日本における登録商標または商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

開発・販売元

株式会社 PFU

〒220-8567 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-5 横浜アイマークプレイス

© PFU LIMITED 2012-2016

免責事項

添付のサンプルについて

添付のサンプルは、本書の補足資料となっています。



サンプルはそのまま、または一部を改変して動作を確認するなどの目的でご利用ください。ただし、サンプルは異常系の対処を十分に行っていないため、利用については、お客様の責任において実施してください。

ハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する損害につきましては、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても当社は一切その責任を負いません。

マニュアルの種類

ScanSnap をご使用の際には、以下のマニュアルを必要に応じてお読みください。

マニュアル	説明
ScanSnap インターフェースガイド (本書)	ScanSnap に添付のソフトウェアとお客様が作成したアプリケーションの連携方法について説明しています。
ScanSnap オペレーターガイド / ScanSnap かんたんガイド	ScanSnap の基本的な操作、ソフトウェアのインストール方法、読み取り方法、設定方法、および ScanSnap の取り扱い方について説明しています。
 ScanSnap Organizer ユーザーズガイド / ScanSnap かんたんガイド	ScanSnap Organizer の概要、特長、動作環境について知りたいときにお読みください。
CardMinder ユーザーズガイド / ScanSnap かんたんガイド	CardMinder の概要、特長、動作環境について知りたいときにお読みください。
ScanSnap Manager ヘルプ	ScanSnap を操作（項目を入力するときなど）していてわからないことがあったときにお読みください。 すべての操作手順、画面説明、操作中のトラブルと対処方法、およびメッセージについて説明しています。
 ScanSnap Organizer ヘルプ	ScanSnap Organizer を操作（項目を入力するときなど）していてわからないことがあったときにお読みください。 すべての操作手順、画面説明、メッセージについて説明しています。
CardMinder ヘルプ	CardMinder を操作（項目を入力するときなど）していてわからないことがあったときにお読みください。 すべての操作手順、画面説明、メッセージについて説明しています。

本書の構成

本書は、以下のような構成になっています。

概要

お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携するための概要について説明しています。

クイックメニューと連携する< Windows 編>< Mac OS 編>

ScanSnap Manager のクイックメニューとお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明しています。

ScanSnap Organizer と連携する< Windows 編>

ScanSnap Organizer とお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明しています。

CardMinder と連携する< Windows 編>< Mac OS 編>

CardMinder とお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明しています。

作成したアプリケーションから原稿を読み取る< Windows 編>< Mac OS 編>

お客様が作成したアプリケーションから原稿を読み取る連携方法について説明しています。

連携設定ファイルの記述方法< Windows 編>< Mac OS 編>

連携設定ファイルの記述方法について説明しています。

出力されるファイルの内容< Windows 編>< Mac OS 編>

ScanSnap に添付のソフトウェアで出力され、お客様の作成するアプリケーションに渡すファイルについて説明しています。

ScanSnap Manager 制御コマンド< Windows 編>

ScanSnap Manager 制御イベント< Mac OS 編>

ScanSnap Manager をお客様の作成するアプリケーションから制御するコマンド / イベントについて説明しています。

ScanSnap Manager の状態のチェック方法および操作方法

< Windows 編>< Mac OS 編>

ScanSnap Manager の状態のチェック方法、および起動や終了操作方法について説明しています。



サンドボックス対応について＜Mac OS 編＞

お客様のアプリケーションがサンドボックスに対応している場合の注意事項について説明しています。

お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携する方法を理解いただくために、Windows 編 /Mac OS 編それぞれの該当箇所をすべてお読みください。

本書で使用している記号

本書では、説明文中に以下の記号を使用しています。

記号	説明
	Windows 固有の説明を示しています。
	Mac OS 固有の説明を示しています。

連続する操作の表記

本文中の操作手順で、連続する操作手順を「→」でつなげて記載しています。

例：「スタート」メニュー→「コンピューター」を選択します。

サンプルアプリケーションの表記

本書では、例として以下のサンプルアプリケーション名を画面などに使用しています。

- ScanSnap Manager / ScanSnap Organizer の場合
Image Connections
- CardMinder の場合
Card Connections

本書に掲載している画面

Windows の画面

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

本書では、Windows 7 の画面を例として説明します。

オペレーティングシステムによって、表示される画面および操作が異なる場合があります。

Mac OS の画面

本書では、Mac OS X v10.7 の画面を例に説明しています。

オペレーティングシステムによって、表示される画面および操作が異なる場合があります。

画面は、改善のため予告なく変更することがあります。

表示された画面が、本書に掲載されている画面と異なる場合は、実際の画面に従って操作してください。

本書での略記

本書では、以下の用語について省略して記載しています。

本文中の表記	名称
Windows 7	Windows® 7 Starter operating system 日本語版 Windows® 7 Home Premium operating system 日本語版 Windows® 7 Professional operating system 日本語版 Windows® 7 Enterprise operating system 日本語版 Windows® 7 Ultimate operating system 日本語版
Windows	Windows® 10 Home operating system 日本語版 Windows® 10 Pro operating system 日本語版 Windows® 10 Enterprise operating system 日本語版 Windows® 10 Education operating system 日本語版 Windows® 8.1 operating system 日本語版 Windows® 8.1 Pro operating system 日本語版 Windows® 8.1 Enterprise operating system 日本語版 Windows® 8 operating system 日本語版 Windows® 8 Pro operating system 日本語版 Windows® 8 Enterprise operating system 日本語版 Windows 7 Windows Vista® Home Basic operating system 日本語版 Windows Vista® Home Premium operating system 日本語版 Windows Vista® Business operating system 日本語版 Windows Vista® Enterprise operating system 日本語版 Windows Vista® Ultimate operating system 日本語版 Windows® XP Home Edition operating system 日本語版 Windows® XP Professional operating system 日本語版
Microsoft Visual C++	Microsoft® Visual C++®
Microsoft Visual C#	Microsoft® Visual C#®
Microsoft Visual Studio	Microsoft® Visual Studio®
.NET Framework	Microsoft® .NET Framework
Mac OS	OS X v10.11、OS X v10.10、OS X v10.9、OS X v10.8、Mac OS X v10.7、 および Mac OS X v10.6
Adobe Acrobat	Adobe® Acrobat®
ScanSnap	パーソナル ドキュメント スキャナ ScanSnap シリーズ (*)

* : ScanSnap N1800 シリーズは含みません。

目次

はじめに	2
商標および登録商標	3
開発・販売元	3
免責事項	3
ハイセイフティ用途での使用について	4
マニュアルの種類	4
本書の構成	5
本書で正在している記号	6
連続する操作の表記	6
サンプルアプリケーションの表記	6
本書に掲載している画面	7
本書での略記	8
<hr/>	
お使用になる前に	15
概要	16
特長	17
前提条件	20
開発環境	21

Windows 編	22
クイックメニューと連携する	23
連携方法	24
実行アプリケーションを作成する	24
設定画面アプリケーションを作成する	26
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	27
レジストリーに登録する	28
サンプルプログラム	30
開発環境	30
利用手順	31
サンプル画面	32
ScanSnap Organizer と連携する	33
連携方法	34
実行アプリケーションを作成する	34
設定画面アプリケーションを作成する	36
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	37
レジストリーに登録する	38
サンプルプログラム	40
開発環境	40
利用手順	41
サンプル画面	42
CardMinder と連携する	43
連携方法	44
実行アプリケーションを作成する	44
設定画面アプリケーションを作成する	47
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	48
レジストリーに登録する	49
サンプルプログラム	51
開発環境	51
利用手順	52
サンプル画面	53

作成したアプリケーションから原稿を読み取る	54
連携方法	55
実行アプリケーションを作成する	55
設定画面アプリケーションを作成する	57
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	58
レジストリーに登録する	59
サンプルプログラム	61
開発環境	61
利用手順	62
サンプル画面	63
連携設定ファイルの記述方法	64
連携設定ファイル	65
連携設定ファイルのキー説明	73
出力されるファイルの内容	104
結果ファイル	105
結果ファイルのキー説明	106
マーカーキーワード検出結果ファイル	117
マーカーキーワード検出結果ファイルのキー説明	117
データファイル	118
ScanSnap Manager のデータファイル	118
ScanSnap Organizer のデータファイル	118
CardMinder の名刺データファイル	118
ScanSnap Manager 制御コマンド	128
ScanSnap Manager 制御コマンドについて	129
制御権の取得（Reserve）コマンド	131
制御権の解放（Release）コマンド	133
読み取り開始（StartScan）コマンド	135
自動連携の通知コマンド	137
接続装置情報の取得（GetScannerInfo）コマンド	138
テキスト認識言語のインストール状態取得（GetSearchableLangInfo） コマンド	144

ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法および操作方法	146
.....	
インストールされているかのチェック	147
起動しているかのチェック	147
バージョンのチェック	147
起動の方法	148
終了の方法	148
<hr/>	
Mac OS 編	150
クイックメニューと連携する	151
連携方法	152
実行アプリケーションを作成する	152
設定画面アプリケーションを作成する	154
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	155
連携設定ファイルを配置する	157
サンプルプログラム	158
開発環境	158
利用手順	159
サンプル画面	160
CardMinder と連携する	161
連携方法	162
実行アプリケーションを作成する	162
設定画面アプリケーションを作成する	165
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	166
連携設定ファイルを配置する	167
サンプルプログラム	168
開発環境	168
利用手順	169
サンプル画面	170

作成したアプリケーションから原稿を読み取る	171
連携方法	172
実行アプリケーションを作成する	172
設定画面アプリケーションを作成する	174
アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する	175
連携設定ファイルを配置する	177
サンプルプログラム	178
開発環境	178
利用手順	179
サンプル画面	180
連携設定ファイルの記述方法	181
連携設定ファイル	182
連携設定ファイルのキー説明	189
出力されるファイルの内容	213
結果ファイル	214
結果ファイルのキー説明	215
データファイル	218
ScanSnap Manager 制御イベント	219
ScanSnap Manager 制御イベントについて	220
制御権の取得 (Reserve) イベント	222
制御権の解放 (Release) イベント	222
読み取り開始 (StartScan) イベント	223
接続装置情報の取得 (GetScannerInfo) イベント	224
テキスト認識言語のインストール状態取得 (GetSearchableLangInfo) イベント	229
Apple event の構造	230
戻り値	232

ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法および操作方法	234
インストールされているかのチェック	235
起動しているかのチェック	235
バージョンのチェック	235
起動の方法	236
終了の方法	237
サンドボックス対応について	238
サンドボックス対応時の注意事項	239
ファイルアクセスについて	239
ScanSnap Manager 制御イベントについて	241
索引.....	242

お使いになる前に

ここでは、お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携するために、知っておいていただきたいことについて説明します。

概要	16
----------	----

概要

ここでは、お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携するための概要について説明します。

特長	17
前提条件	20
開発環境	21

特長

ScanSnap に添付のソフトウェア（ScanSnap Manager、ScanSnap Organizer、CardMinder）は、お客様が作成したアプリケーションとの間で、以下の連携ができるインターフェースを提供しています。

- ScanSnap Manager のクイックメニューに、お客様が作成したアプリケーションのアイコンを追加し連携できます。**Windows** **Mac OS**
クイックメニューからお客様が作成したアプリケーションを起動することで、ScanSnap で読み取ったイメージデータ（PDF、JPEG）を受け取れます。

Windows

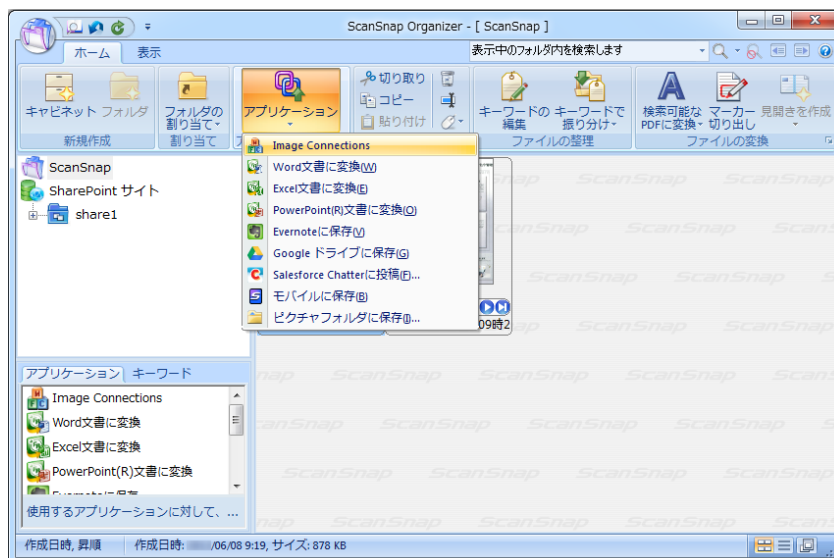


Mac OS



- ScanSnap Organizer の「アプリケーション」タブに、お客様が作成したアプリケーションのアイコンを追加し連携できます。**Windows**

ScanSnap Organizer からお客様が作成したアプリケーションを起動することで、ファイル一覧に表示されているファイル（PDF、JPEG、その他）を受け取れます。

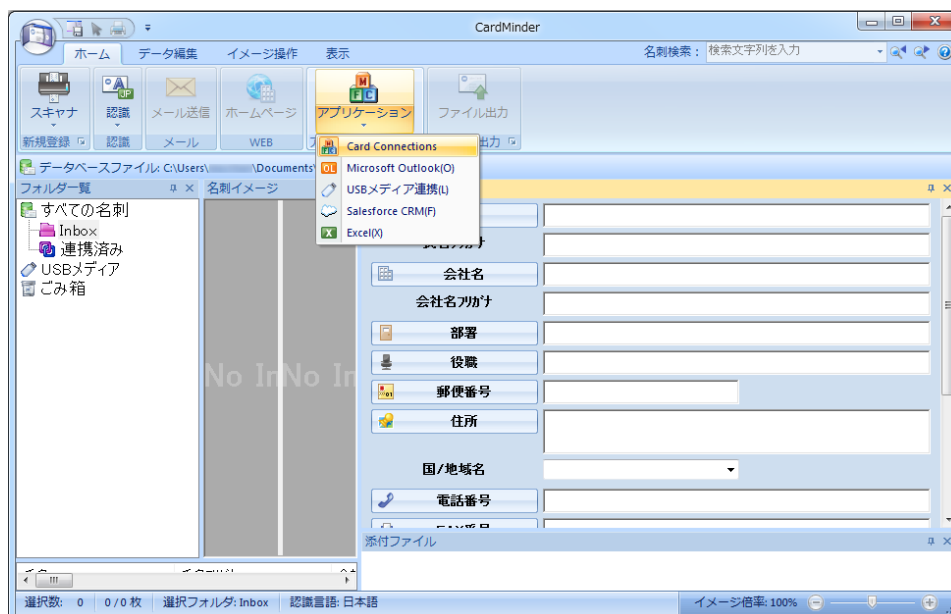


- CardMinder の「ホーム」タブに、お客様が作成したアプリケーションのアイコンを追加し連携できます。**Windows**

CardMinder の「アプリケーション」のサブメニューにアプリケーション名を追加し連携できます。**Mac OS**

CardMinder からお客様が作成したアプリケーションを起動することで、名刺データファイル（ContactXML 形式または vCard 形式）を受け取れます。

Windows





- お客様が作成したアプリケーションから原稿の読み取りが行えます。**Windows** **Mac OS** 作成したアプリケーションで、読み取ったイメージデータを受け取ってデータを活用できます。

前提条件

本インターフェースは、以下のバージョンで使用できます。

- ScanSnap Manager : V6.0L10 以降
- ScanSnap Organizer : V5.0L10 以降
- CardMinder : V5.0L10 以降

開発環境

ScanSnap に添付のソフトウェアの各インターフェースでは、以下の開発環境で作成したアプリケーションの連携を確認しています。

Windows

- Microsoft Visual C++ 2005
- Microsoft Visual C++ 2008
- Microsoft Visual C++ 2010
- Microsoft Visual C# 2005
- Microsoft Visual C# 2008
- Microsoft Visual C# 2010

Mac OS

- Xcode 4.5

Windows 編

ここでは、お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携する方法（Windows 編）について説明します。

クイックメニューと連携する	23
ScanSnap Organizer と連携する	33
CardMinder と連携する	43
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	54
連携設定ファイルの記述方法	64
出力されるファイルの内容	104
ScanSnap Manager 制御コマンド	128
ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法および操作方法	146

クイックメニューと連携する

ここでは、ScanSnap Manager のクイックメニューとお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明します。

連携方法	24
サンプルプログラム	30

連携方法

ScanSnap Manager のクイックメニューとお客様が作成したアプリケーションを連携するには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [24 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [26 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [27 ページ](#))
4. レジストリーに登録する (→ [28 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 実行アプリケーションの待ち合わせ
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

コマンドライン

お客様が作成する実行アプリケーションは、ScanSnap Manager から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
実行アプリケーション	結果ファイルのフルパス

動作仕様の要点

結果ファイルを解析し、画像データファイルを開きます。

結果ファイルの詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」(104 ページ) を参照してください。

画像データファイルの取り込みが終わったら、お客様のアプリケーションの終了時まで、結果ファイルと画像データファイルを削除してください。クイックメニュー (ScanSnap Manager) からは削除しません。

重要

ScanSnap Manager は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。

ただし、連携設定ファイル (.ini) で、アプリケーションを起動しないと指定している場合 (「Launch」セクションの「WithoutLaunch」キーの値が「1」の場合) は、読み取り後でも、アプリケーションを起動しません。

実行アプリケーションの待ち合わせ

連携設定ファイルの「Application」セクションの「Wait」キーの値が「1」の場合、ScanSnap Manager は、お客様が作成する実行アプリケーションの終了を待ち合わせます。ScanSnap Manager は、起動した実行アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。

お客様が作成する実行アプリケーションで終了待ち合わせをする場合は、以下の点に注意して作成してください。


- 本体アプリケーションを起動するだけで終了する
- 多重起動させない (すでに起動していたときの連携)

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時にエラーが発生した場合、表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ	選択したアプリケーションの起動に失敗しました。
原因	選択したアプリケーションがアンインストールされた可能性があります。
対処	選択したアプリケーションが正しくインストールされているかを確認してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。
設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、クイックメニューに表示された実行アプリケーションの  から起動できます。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 設定画面アプリケーションの待ち合わせ

コマンドライン

お客様が作成する設定画面アプリケーションは、ScanSnap Manager から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
設定画面アプリケーション	/s お客様が作成する実行アプリケーション設定保存ファイルのフルパス

動作仕様の要点

設定画面アプリケーションで設定した内容をファイルで保存するには、ScanSnap Manager から引数で渡された設定保存ファイルに出力して保存してください。
設定保存ファイルは、お客様が作成した設定画面アプリケーションが使用するためのファイルです。ファイルに出力する内容は自由です。
クイックメニューから呼び出された場合の専用の設定として保存できます。

重要

- 設定画面アプリケーションと実行アプリケーションは、同じフォルダーにインストールしてください。
- 連携設定ファイルに設定画面アプリケーション（「Application」セクションの「SettingExe」キー）の指定がない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションを設定画面アプリケーションとみなして呼び出します。

設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager は、お客様が作成する設定画面アプリケーションの終了を待ち合わせます。
ScanSnap Manager は、起動した設定画面アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。
設定が完了したら、お客様が作成する設定画面アプリケーションを終了してください。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、INI 形式のファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(65 ページ) を参照してください。

ここでは、クイックメニューから連携する場合に必要な項目について記載します。

セクション	キー	設定値	説明
Info	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
	QuickMenu	1	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか
	QuickMenuDescription	必要なら指定	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列
	QuickMenuLabel	必要なら指定	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列
	RecommendBusinessCard	必要なら指定	名刺に特化した機能を持つかどうか
	RecommendReceipt	必要なら指定	レシートに特化した機能を持つかどうか
	RecommendBook	必要なら指定	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能を持つかどうか
	SupportFileFormat	必要なら指定	アプリケーションがサポートするファイル形式の指定
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	ClassName	必要なら指定	設定画面アプリケーションのウィンドウクラス名
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの exe ファイル名

* : 設定画面を指定する場合

重要

クイックメニューのアプリケーション名と「詳細」に表示するリテラルなどを更新したい場合は、バージョン番号を大きくしたものを登録し、ScanSnap Manager を再起動する必要があります。

レジストリーに登録する

アプリケーションの配置場所の登録

お客様が作成する実行アプリケーションは、以下の決められたレジストリーに登録することで、ScanSnap Manager の連携アプリケーションとして自動的に認識されます。

- 32bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥
- 64bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Wow6432Node ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥

本キー配下に、お客様が作成する実行アプリケーションのキーを作成し、以下の項目を登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥ XXX
(XXX は任意の実行アプリケーションキー)

重要

お客様が作成する実行アプリケーションキーは、他社アプリケーションキーと重ならないように、「会社名_アプリケーション名」などの一意の名称で作成してください。

レジストリーの設定項目は、以下のとおりです。

レジストリーの値名	タイプ	意味
(既定)	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのフルパス
Config	REG_SZ	連携設定ファイルのフルパス
Path	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのインストールフォルダー

重要

- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのインストール時に登録してください。お客様が作成する実行アプリケーション自身での登録は、アクセス権などの制限で登録できない場合があります。
- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- ScanSnap Extension キーが存在しない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションのインストールで作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成する実行アプリケーションが登録されている場合があります。その場合は、自分が作成した実行アプリケーションキー配下だけを削除してください。

以下は、ImageConnections（ImageConnections.exe）をお客様が作成する実行アプリケーションとして登録する例です。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥PFU¥ScanSnap Extension¥**ImageConnections**

（既定）：C:¥Program Files¥PFU¥ImageConnections¥ImageConnections.exe

Config：C:¥Program Files¥PFU¥ImageConnections¥ImageConnections.ini

Path：C:¥Program Files¥PFU¥ImageConnections

アプリケーションのバージョンの登録

お客様が作成する実行アプリケーションは、以下のレジストリーにバージョン番号を登録してください。

- 32bit の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Software ¥

- 64bit の場合

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Wow6432Node ¥ PFU ¥ ScanSnap Software ¥

本キー配下に、お客様が作成する実行アプリケーションのキーを作成し、以下の項目を登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Software ¥ XXX

（XXXは「アプリケーションの配置場所の登録」と同じキー）

重要

- 「ScanSnap Software」キーが作成されていなければ作成してください。この場合は、アプリケーションのアンインストール時に「ScanSnap Software」キーそのものを削除しないでください。
- クイックメニューのアプリケーション名と「詳細」に表示するリテラルなどを更新したい場合は、バージョン番号を大きくしたものを登録し、ScanSnap Manager を再起動する必要があります。また、手動で更新する場合は、クイックメニューから、「表示アプリケーションの変更」画面を呼び出し、「表示のリセット」の［リセット］ボタンをクリックします。

レジストリーの設定項目は、以下のとおりです。

レジストリーの値名	タイプ	意味
Version	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのバージョン番号。 形式は以下のとおりです（3桁×4）。 xxx.xxx.xxx.xxx

サンプルプログラム

ここでは、クイックメニューで連携するサンプルプログラムの使用方法について説明します。

- 開発環境 (→ [30 ページ](#))
- 利用手順 (→ [31 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [32 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Microsoft Visual C++ 2005
- Microsoft Visual C# 2005

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC2005¥ImageConnections.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC2005¥ImageSettings.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC#2005¥ImageConnections.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC#2005¥ImageSettings.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥ini¥Manager¥ImageConnections.ini

重要

- Microsoft Visual C# 2005 のサンプルアプリケーションの実行には、お使いのコンピュータに .NET Framework 2.0 がインストールされている必要があります。
.NET Framework 2.0 は、.NET Framework 3.0 ~ .NET Framework 3.5 (SP1) にも含まれています。
- Microsoft Visual Studio 2005 以外の開発環境を使用する場合は、サンプルのプロジェクトファイルを使用してビルドしてください。

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

ScanSnap Manager をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション (ImageConnections.exe)
任意のローカルフォルダー
- サンプル設定画面アプリケーション (ImageSettings.exe)
サンプル実行アプリケーションと同じフォルダー
- 連携設定ファイル (ImageConnections.ini)
任意のローカルフォルダー

3. レジストリー登録

「[レジストリーに登録する](#)」(28 ページ) の登録例を参照し、サンプル実行アプリケーションと連携設定ファイルのフルパス、およびバージョン番号を設定します。

重要

レジストリーの「ScanSnap Extension」キー配下の実行アプリケーションキー名は、「ImageConnections」としてください。

4. クイックメニューを使用する設定

ScanSnap Manager のアイコンを右クリックし、「Scan ボタンの設定」をクリックすると、ScanSnap 設定画面が表示されます。


ScanSnap 設定画面で、「クイックメニューを使用する」チェックボックスにチェックを付け、[OK] ボタンまたは [適用] ボタンをクリックします。

5. 実行

ScanSnap の電源を入れ、原稿をセットします。

ScanSnap の [Scan] ボタンを押します。

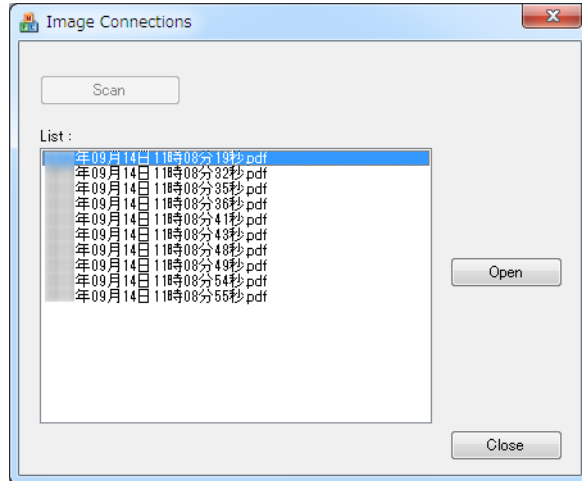
クイックメニューにサンプルアプリケーションのアイコンが表示されます。

アイコン上の  から設定画面を起動できます。

アイコンをクリックしてサンプルアプリケーションを起動します。

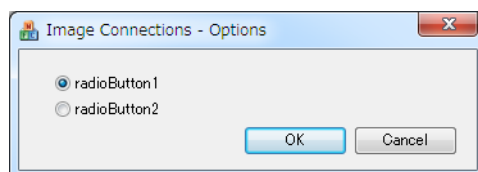
サンプル画面

クイックメニューからサンプルアプリケーションを起動すると、受け取ったデータファイルが出力ファイルリストに表示されます。



- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
- [Close] ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



ScanSnap Organizer と連携する

ここでは、ScanSnap Organizer とお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明します。

連携方法	34
サンプルプログラム	40

連携方法

ScanSnap Organizer とお客様が作成したアプリケーションを連携するには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [34 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [36 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [37 ページ](#))
4. レジストリーに登録する (→ [38 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

コマンドライン

お客様が作成する実行アプリケーションは、ScanSnap Organizer から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
実行アプリケーション	結果ファイル（連携ファイルの一覧）のフルパス

動作仕様の要点

結果ファイルを解析し、画像データファイルを開きます。

結果ファイルの詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」（104 ページ）を参照してください。

お客様のアプリケーションの終了時まで、結果ファイルを削除してください。

ScanSnap Organizer からは削除しません。

重要

- ScanSnap Organizer は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。
- 画像データファイルは、ScanSnap Organizer で管理しているファイルそのものであるため、画像データファイルは削除しないでください。

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時にエラーが発生した場合、表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ	操作（連携アプリケーションの実行）に失敗しました。
原因	指定したアプリケーションがアンインストールされた可能性があります。
対処	指定したアプリケーションが正しくインストールされているかを確認してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。
設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、ScanSnap Organizer の「オプション」画面から、実行アプリケーションのプログラムを選択し、[設定] ボタンをクリックすると起動できます。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点

コマンドライン

お客様が作成する設定画面アプリケーションは、ScanSnap Organizer から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
設定画面アプリケーション	/s

動作仕様の要点

設定画面の情報の保存先および形式は自由です。

重要

- 設定画面アプリケーションと実行アプリケーションは、同じフォルダーにインストールしてください。
- 連携設定ファイルに設定画面アプリケーション（「Application」セクションの「SettingExe」キー）の指定がない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションを設定画面アプリケーションとみなして呼び出します。
- ScanSnap Organizer は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、INI 形式のファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、およびファイル形式を定義します。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(65 ページ) を参照してください。

ここでは、ScanSnap Organizer から連携する場合に必要な項目について記載します。

セクション	キー	設定値	説明
Info	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	Description	必要なら指定	実行アプリケーションを説明する文字列
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの exe ファイル名

* : 設定画面を指定する場合

レジストリーに登録する

アプリケーションの配置場所の登録

お客様が作成する実行アプリケーションは、以下の決められたレジストリーに登録することで、ScanSnap Organizer の連携アプリケーションとして自動的に認識されます。

- 32bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Organizer ¥
ScanSnap Extension ¥
- 64bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Wow6432Node ¥ PFU ¥
ScanSnap Organizer ¥ ScanSnap Extension ¥

本キー配下に、お客様が作成する実行アプリケーションのキーを作成し、以下の項目を登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Organizer ¥
ScanSnap Extension ¥ XXX (XXX は任意の実行アプリケーションキー)

重要

お客様が作成する実行アプリケーションキーは、他社アプリケーションキーと重ならないように、「会社名_アプリケーション名」などの一意の名称で作成してください。

レジストリーの設定項目は、以下のとおりです。

レジストリーの値名	タイプ	意味
(既定)	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのフルパス
Config	REG_SZ	連携設定ファイルのフルパス
Path	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのインストールフォルダー

重要

- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのインストール時に登録してください。お客様が作成する実行アプリケーション自身での登録は、アクセス権などの制限で登録できない場合があります。
- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- ScanSnap Extension キーが存在しない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションのインストールで作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成する実行アプリケーションが登録されている場合があります。その場合は、自分が作成した実行アプリケーションキー配下だけを削除してください。

以下は、ImageConnections（ImageConnections.exe）をお客様が作成する実行アプリケーションとして登録する例です。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Organizer ¥

ScanSnap Extension ¥ **ImageConnections**

（既定） : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections ¥ ImageConnections.exe

Config : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections ¥ ImageConnections.ini

Path : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections

サンプルプログラム

ここでは、ScanSnap Organizer で連携するサンプルプログラムの使用方法について説明します。

- 開発環境 (→ [40 ページ](#))
- 利用手順 (→ [41 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [42 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Microsoft Visual C++ 2005
- Microsoft Visual C# 2005

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC2005¥ImageConnections.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC2005¥ImageSettings.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC#2005¥ImageConnections.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥bin¥Manager_Organizer¥VC#2005¥ImageSettings.exe
- ¥win¥ScanSnapSample¥ini¥Organizer¥ImageConnections.ini

重要

- Microsoft Visual C# 2005 のサンプルアプリケーションの実行には、お使いのコンピュータに .NET Framework 2.0 がインストールされている必要があります。
.NET Framework 2.0 は、.NET Framework 3.0 ~ .NET Framework 3.5 (SP1) にも含まれています。
- Microsoft Visual Studio 2005 以外の開発環境を使用する場合は、サンプルのプロジェクトファイルを使用してビルドしてください。

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

ScanSnap Organizer をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション (ImageConnections.exe)
任意のローカルフォルダー
- サンプル設定画面アプリケーション (ImageSettings.exe)
サンプル実行アプリケーションと同じフォルダー
- 連携設定ファイル (ImageConnections.ini)
任意のローカルフォルダー

3. レジストリー登録

「[レジストリーに登録する](#)」(38 ページ) の登録例を参照し、サンプル実行アプリケーションと連携設定ファイルのフルパスを設定します。

重要

レジストリーの「ScanSnap Extension」キー配下の実行アプリケーションキー名は、「ImageConnections」としてください。

4. 実行

ScanSnap Organizer を起動します。レジストリー登録前から起動していた場合は、再起動してください。

メイン画面のアプリケーションの一覧、およびリボンメニュー「ホーム」タブの「アプリケーション」ボタンをクリックして表示されるリストに、サンプルアプリケーションが表示されます。

リストから選択して、サンプルアプリケーションを起動します。

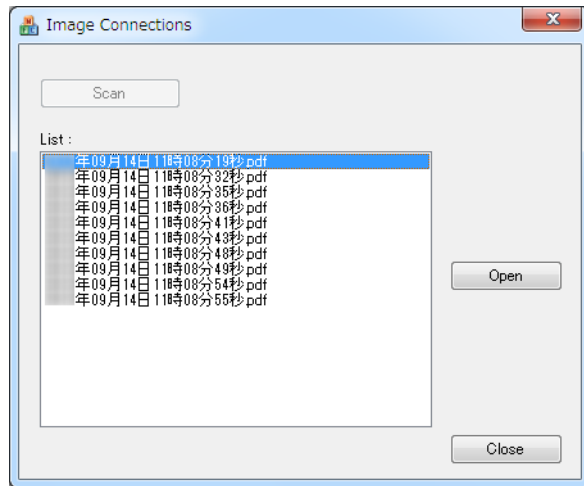
設定画面の実行

ScanSnap Organizer の「オプション」画面の「設定」ボタンをクリックして、サンプルアプリケーションの設定画面を起動します。

詳細な操作方法は、ScanSnap Organizer のヘルプを参照してください。

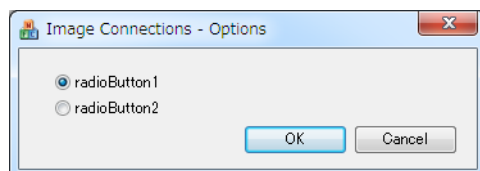
サンプル画面

ScanSnap Organizer からサンプルアプリケーションを起動すると、受け取ったデータファイルが出力ファイルリストに表示されます。



- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
- [Close] ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



CardMinder と連携する

ここでは、CardMinder とお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明します。

連携方法	44
サンプルプログラム	51

連携方法

CardMinder とお客様が作成したアプリケーションを連携するには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [44 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [47 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [48 ページ](#))
4. レジストリーに登録する (→ [49 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

コマンドライン

お客様が作成する実行アプリケーションは、CardMinder から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
実行アプリケーション	結果ファイルのフルパス

動作仕様の要点

結果ファイルを解析し、データファイルを開きます。

結果ファイルおよびデータファイルの詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」(104 ページ)を参照してください。

実行アプリケーションから、以下のフォルダーを削除する必要があります。

- CardMinder は、実行アプリケーションの呼び出し時に、ユーザーの一時フォルダー (%temp%) に毎回一意となる結果ファイル格納フォルダーを作成します。この作成したフォルダーに結果ファイル、名刺データファイル、および名刺イメージファイルを格納します。
これらのファイルを格納したフォルダーは、CardMinder では削除しないため、実行アプリケーションから削除する必要があります。

重要

CardMinder は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時に以下のエラーが発生した場合は、CardMinder がユーザーの一時フォルダーに作成された結果ファイル格納フォルダーを削除します。

呼び出し時に表示されるメッセージは、以下のとおりです。

1	メッセージ	連携するアプリケーションが存在しません。 環境を確認してから再度実行してください。
	原因	連携実行するアプリケーションが存在しないためです。
	対処	指定したアプリケーションが存在するか環境を確認してから再度実行してください。 アプリケーションが存在しない場合、必要であればアプリケーションをインストールしてください。
2	メッセージ	アプリケーションの連携に失敗しました。 連携先のアプリケーションを確認してください。
	原因	指定したアプリケーションと連携ができませんでした。 (No.1 のメッセージの発生条件以外の場合)
	対処	以下の対処を行い、再度処理を実行してください。 <ul style="list-style-type: none">● 指定したアプリケーションがインストールされているか確認してください。 インストールされていない場合はインストールしてください。● 指定したアプリケーションが正しく起動し、使用できる状態か確認してください。 使用できない場合は、指定したアプリケーションのマニュアルを参照し、使用できる状態にしてください。

3	メッセージ	連携ファイルの出力に失敗しました。TMP 環境変数または TEMP 環境変数で指定されているパスが正しいかどうか確認してください。
	原因	連携する際に、テンポラリフォルダーのパス取得に失敗しました。
	対処	TMP 環境変数または TEMP 環境変数で指定されているパスが正しいかどうか確認してから、再度処理を実行してください。
4	メッセージ	<p>連携ファイルの出力に失敗しました。以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● TMP 環境変数または TEMP 環境変数で指定されているフォルダに書き込み権限がない。 ● ファイルが上書き禁止で開かれている。
	原因	<p>以下の原因が考えられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テンポラリフォルダーに書き込み権限がないためです。 ● 連携ファイルがすでに存在しており、上書き禁止で開かれているためです。
	対処	<p>以下のどちらかの対処を行い、再度処理を実行してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● テンポラリフォルダーに書き込み許可を設定してください。 ● 連携ファイルを開いている場合は、終了してください。
5	メッセージ	<p>連携ファイルの出力に失敗しました。</p> <p>CardMinder を再起動してから、再度実行してください。</p>
	原因	<p>連携する際、連携ファイルの生成時にエラーが発生しました。</p> <p>(No.3、No.4 のメッセージの発生条件以外の場合)</p>
	対処	CardMinder を再起動してから、再度実行してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。
設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、CardMinder の「CardMinder のオプション」画面から、実行アプリケーションのプログラムを選択し、[設定] ボタンをクリックすると起動できます。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点

コマンドライン

お客様が作成する設定画面アプリケーションは、CardMinder から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
設定画面アプリケーション	/s

動作仕様の要点

設定画面の情報の保存先および形式は自由です。

重要

- 設定画面アプリケーションと実行アプリケーションは、同じフォルダーにインストールしてください。
- 連携設定ファイルに設定画面アプリケーション（「Application」セクションの「SettingExe」キー）の指定がない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションを設定画面アプリケーションとみなして呼び出します。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、INI 形式のファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、およびファイル形式を定義します。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(65 ページ) を参照してください。

ここでは、CardMinder から連携する場合に必要な項目について記載します。

セクション	キー	設定値	説明
Info	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	CardDataFileFormat	必要なら指定	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定
	CardDataFileOption	必要なら指定	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定
	CardImageFileFormat	必要なら指定	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定
	Description	必要なら指定	実行アプリケーションを説明する文字列
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの exe ファイル名

* : 設定画面を指定する場合

レジストリーに登録する

アプリケーションの配置場所の登録

お客様が作成する実行アプリケーションは、以下の決められたレジストリーに登録することで、CardMinder の連携アプリケーションとして自動的に認識されます。

- 32bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ CardMinder ¥ ScanSnap Extension ¥
- 64bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Wow6432Node ¥ PFU ¥ CardMinder ¥ ScanSnap Extension ¥

本キー配下に、お客様が作成する実行アプリケーションのキーを作成し、以下の項目を登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥PFU¥CardMinder¥ScanSnap Extension¥XXX
(XXX は任意の実行アプリケーションキー)

重要

お客様が作成する実行アプリケーションキーは、他社アプリケーションキーと重ならないように、「会社名_アプリケーション名」などの一意の名称で作成してください。

レジストリーの設定項目は、以下のとおりです。

レジストリーの値名	タイプ	意味
(既定)	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのフルパス
Config	REG_SZ	連携設定ファイルのフルパス
Path	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのインストールフォルダー

重要

- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのインストール時に登録してください。お客様が作成する実行アプリケーション自身での登録は、アクセス権などの制限で登録できない場合があります。
- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- ScanSnap Extension キーが存在しない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションのインストールで作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成する実行アプリケーションが登録されている場合があります。その場合は、自分が作成した実行アプリケーションキー配下だけを削除してください。

以下は、CardConnections（CardConnections.exe）をお客様が作成する実行アプリケーションとして登録する例です。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ CardMinder ¥

ScanSnap Extension ¥ **CardConnections**

（既定） : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ CardConnections ¥ CardConnections.exe

Config : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ CardConnections ¥ CardConnections.ini

Path : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ CardConnections

サンプルプログラム

ここでは、CardMinder で連携するサンプルプログラムの使用方法について説明します。

- 開発環境 (→ [51 ページ](#))
- 利用手順 (→ [52 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [53 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Microsoft Visual C++ 2005
- Microsoft Visual C# 2005

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ CardMinder ¥ VC2005 ¥ CardConnections.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ CardMinder ¥ VC2005 ¥ CardSettings.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ CardMinder ¥ VC#2005 ¥ CardConnections.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ CardMinder ¥ VC#2005 ¥ CardSettings.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ ini ¥ CardMinder ¥ CardConnections.ini

重要

- Microsoft Visual C# 2005 のサンプルアプリケーションの実行には、お使いのコンピュータに .NET Framework 2.0 がインストールされている必要があります。
.NET Framework 2.0 は、.NET Framework 3.0 ~ .NET Framework 3.5 (SP1) にも含まれています。
- Microsoft Visual Studio 2005 以外の開発環境を使用する場合は、サンプルのプロジェクトファイルを使用してビルドしてください。

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

CardMinder をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション（CardConnections.exe）
任意のローカルフォルダー
- サンプル設定画面アプリケーション（CardSettings.exe）
サンプル実行アプリケーションと同じフォルダー
- 連携設定ファイル（CardConnections.ini）
任意のローカルフォルダー

3. レジストリー登録

「[レジストリーに登録する](#)」（49 ページ）の登録例を参照し、サンプル実行アプリケーションと連携設定ファイルのフルパスを設定します。

重要

レジストリーの「ScanSnap Extension」キー配下の実行アプリケーションキー名は、「CardConnections」としてください。

4. 実行

CardMinder を起動します。レジストリー登録前から起動していた場合は、再起動してください。

CardMinder 画面のリボンメニュー「ホーム」タブの「アプリケーション」ボタンにある▼部分をクリックして表示されるリストに、サンプルアプリケーションが表示されます。

リストから選択すると、サンプルアプリケーションのアイコンに変更されるので、そのアイコン部分をクリックして、サンプルアプリケーションを起動します。

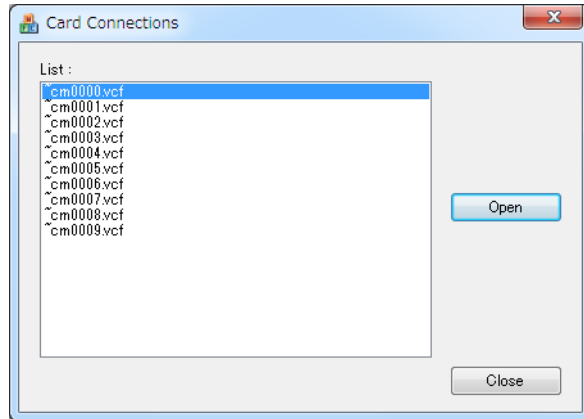
設定画面の実行

CardMinder の「CardMinder のオプション」画面の「設定」ボタンをクリックして、サンプルアプリケーションの設定画面を起動します。

詳細な操作方法は、CardMinder のヘルプを参照してください。

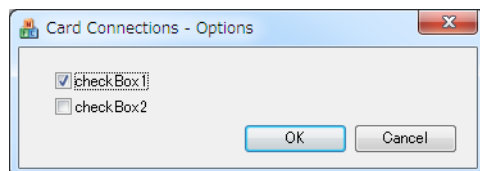
サンプル画面

CardMinder からサンプルアプリケーションを起動すると、受け取ったデータファイルが出力ファイルリストに表示されます。



- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
- [Close] ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



作成したアプリケーションから原稿を読み取る

ここでは、お客様が作成したアプリケーションから原稿を読み取る連携方法について説明します。

連携方法	55
サンプルプログラム	61

連携方法

お客様が作成したアプリケーションから原稿を読み取るには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [55 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [57 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [58 ページ](#))
4. レジストリーに登録する (→ [59 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- Scan ボタン
- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 実行アプリケーションの待ち合わせ
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

Scan ボタン

お客様のアプリケーションに ScanSnap で原稿の読み取りを実行する機能（例えば Scan ボタンやメニューの項目など）を用意します。

Scan ボタンが押された場合、メッセージ通信で ScanSnap の占有、読み取り、解放を行います。

詳細は、「[ScanSnap Manager 制御コマンド](#)」（[128 ページ](#)）を参照してください。

コマンドライン

ScanSnap の読み取り終了後、お客様が作成する実行アプリケーションは、ScanSnap Manager から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
実行アプリケーション	結果ファイルのフルパス

動作仕様の要点

ScanSnap Manager に対して読み取り処理を指示する処理（「Scan ボタン」(55 ページ)）と結果ファイルを解析し、画像データファイルを取得する処理の実装が必要です。読み取り終了後に実行されるプロセスと読み取り処理を指示するプロセスは、別であるため、データの受け渡しが必要な場合は、その処理を実装してください。

結果ファイルの解析については、クイックメニューから連携する実行アプリケーションと同様です。

結果ファイルの詳細は、「出力されるファイルの内容」(104 ページ) を参照してください。画像データファイルの取り込みが終わったら、お客様のアプリケーションの終了時まで、結果ファイルと画像データファイルを削除してください。ScanSnap Manager からは削除しません。

重要

ScanSnap Manager は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。

ただし、連携設定ファイル (.ini) で、アプリケーションを起動しないと指定している場合（「Launch」セクションの「WithoutLaunch」キーの値が「1」の場合）は、読み取り後でも、アプリケーションを起動しません。

実行アプリケーションの待ち合わせ

連携設定ファイルの「Application」セクションの「Wait」キーの値が「1」の場合、ScanSnap Manager は、お客様が作成する実行アプリケーションの終了を待ち合わせます。ScanSnap Manager は、起動した実行アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。

お客様が作成する実行アプリケーションで終了待ち合わせをする場合は、以下の点に注意して作成してください。

- 本体アプリケーションを起動するだけで終了する
- 多重起動させない（すでに起動していたときの連携）

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時にエラーが発生した場合、表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ	選択したアプリケーションの起動に失敗しました。
原因	選択したアプリケーションがアンインストールされた可能性があります。
対処	選択したアプリケーションが正しくインストールされているかを確認してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。

設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、ScanSnap Manager の「アプリ選択」タブから、実行アプリケーションのプログラムを選択し、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックすると起動できます。

- コマンドライン
- 動作仕様の要点
- 設定画面アプリケーションの待ち合わせ

コマンドライン

お客様が作成する設定画面アプリケーションは、ScanSnap Manager から以下の引数で呼び出されます。

アプリケーション	引数
設定画面アプリケーション	/s お客様が作成する実行アプリケーション設定保存ファイルのフルパス

動作仕様の要点

設定画面アプリケーションで設定した内容をファイルで保存するには、ScanSnap Manager から引数で渡された設定保存ファイルに出力して保存してください。

設定保存ファイルは、お客様が作成した設定画面アプリケーションが使用するためのファイルです。ファイルに出力する内容は自由です。

クイックメニューから呼び出された場合とは違う、専用の設定として保存できます。

重要

- 設定画面アプリケーションと実行アプリケーションは、同じフォルダーにインストールしてください。
- 連携設定ファイルに設定画面アプリケーション（「Application」セクションの「SettingExe」キー）の指定がない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションを設定画面アプリケーションとみなして呼び出します。

設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager は、お客様が作成する設定画面アプリケーションの終了を待ち合わせます。

ScanSnap Manager は、起動した設定画面アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。

設定が完了したら、お客様が作成する設定画面アプリケーションを終了してください。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、INI 形式のファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(65 ページ) を参照してください。

ここでは、作成したアプリケーションから原稿を読み取る場合に必要となる主な項目について記載します。

セクション	キー	設定値	説明
Info	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	Description	必要なら指定	実行アプリケーションを説明する文字列
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	ClassName	必要なら指定	設定画面アプリケーションのウィンドウクラス名
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの exe ファイル名

* : 設定画面を指定する場合

ScanSnap Manager の「アプリ選択」タブで、実行アプリケーションのプログラムを選択した際に、[アプリケーションの設定] ボタンが有効化されます。

ScanSnap Manager は、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックした際に、設定画面アプリケーションを呼び出します。

レジストリーに登録する

アプリケーションの配置場所の登録

お客様が作成する実行アプリケーションは、以下の決められたレジストリーに登録することで、ScanSnap Manager の連携アプリケーションとして自動的に認識されます。

- 32bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥
- 64bit の場合
HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Wow6432Node ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥

本キー配下に、お客様が作成する実行アプリケーションのキーを作成し、以下の項目を登録します。

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Extension ¥ XXX
(XXX は任意の実行アプリケーションキー)

重要

お客様が作成する実行アプリケーションキーは、他社アプリケーションキーと重ならないように、「会社名_アプリケーション名」などの一意の名称で作成してください。

レジストリーの設定項目は、以下のとおりです。

レジストリーの値名	タイプ	意味
(既定)	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのフルパス
Config	REG_SZ	連携設定ファイルのフルパス
Path	REG_SZ	お客様が作成する実行アプリケーションのインストールフォルダー

重要

- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのインストール時に登録してください。お客様が作成する実行アプリケーション自身での登録は、アクセス権などの制限で登録できない場合があります。
- 実行アプリケーションキーは、お客様が作成する実行アプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- ScanSnap Extension キーが存在しない場合は、お客様が作成する実行アプリケーションのインストールで作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成する実行アプリケーションが登録されている場合があります。その場合は、自分が作成した実行アプリケーションキー配下だけを削除してください。

以下は、ImageConnections（ImageConnections.exe）をお客様が作成する実行アプリケーションとして登録する例です。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥PFU¥ScanSnap Extension¥**ImageConnections**

（既定）：C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections ¥ ImageConnections.exe

Config : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections ¥ ImageConnections.ini

Path : C: ¥ Program Files ¥ PFU ¥ ImageConnections

サンプルプログラム

ここでは、原稿を読み取るサンプルプログラムの使用方法について説明します。

当サンプルでは、原稿を読み取るアプリケーションと、ScanSnap Manager から呼び出されるアプリケーションは同一のモジュールです。

- 開発環境 (→ [61 ページ](#))
- 利用手順 (→ [62 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [63 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Microsoft Visual C++ 2005
- Microsoft Visual C# 2005

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ Manager_Organizer ¥ VC2005 ¥ ImageConnections.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ Manager_Organizer ¥ VC2005 ¥ ImageSettings.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ Manager_Organizer ¥ VC#2005 ¥ ImageConnections.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ bin ¥ Manager_Organizer ¥ VC#2005 ¥ ImageSettings.exe
- ¥ win ¥ ScanSnapSample ¥ ini ¥ Manager ¥ ImageConnections.ini

重要

- Microsoft Visual C# 2005 のサンプルアプリケーションの実行には、お使いのコンピュータに .NET Framework 2.0 がインストールされている必要があります。
.NET Framework 2.0 は、.NET Framework 3.0 ~ .NET Framework 3.5 (SP1) にも含まれています。
- Microsoft Visual Studio 2005 以外の開発環境を使用する場合は、サンプルのプロジェクトファイルを使用してビルドしてください。

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

ScanSnap Manager をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション (ImageConnections.exe)
任意のローカルフォルダー
- サンプル設定画面アプリケーション (ImageSettings.exe)
サンプル実行アプリケーションと同じフォルダー
- 連携設定ファイル (ImageConnections.ini)
任意のローカルフォルダー

3. レジストリー登録

「[レジストリーに登録する](#)」(59 ページ) の登録例を参照し、サンプル実行アプリケーションと連携設定ファイルのフルパスを設定します。

重要

レジストリーの「ScanSnap Extension」キー配下の実行アプリケーションキー名は、「ImageConnections」としてください。

4. 実行

ScanSnap Manager を起動します。レジストリー登録前から起動していた場合は、再起動してください。

ScanSnap の電源を入れ、原稿をセットします。

サンプル実行アプリケーションを引数なしで実行します。

サンプル実行アプリケーションの画面から、ScanSnap で原稿の読み取りを実行する Scan ボタンを押します。

設定画面の実行

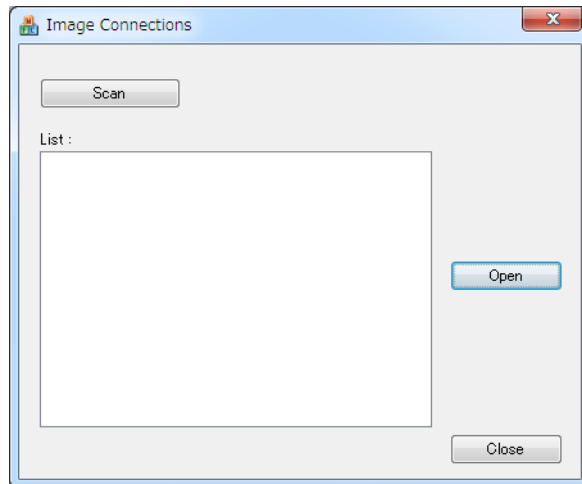
ScanSnap Manager のアイコンを右クリックし、「Scan ボタンの設定」をクリックすると、ScanSnap 設定画面が表示されます。

ScanSnap 設定画面で、「クイックメニューを使用する」チェックボックスのチェックを外し、「アプリ選択」タブをクリックします。

アプリケーションの選択リストから「Image Connections」を選択し、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックします。

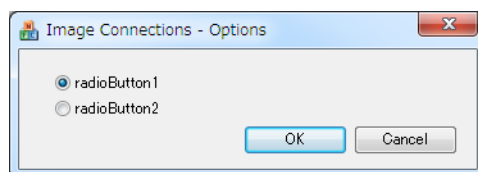
サンプル画面

引数なしでサンプルアプリケーションを起動すると、初期表示では [Scan] ボタンと [Close] ボタンだけが有効です。



- [Scan] ボタン
クリックすると、制御コマンドで Reserve、Scan、Release を呼びます。
- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
- [Close] ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



連携設定ファイルの記述方法

ここでは、連携設定ファイルの記述方法について説明します。

連携設定ファイル.....	65
---------------	----

連携設定ファイル

連携設定ファイルは、INI 形式のファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。
お客様が作成する実行アプリケーションをインストールするときに配置します。

連携設定ファイルは、以下に分類できます。

- 基本設定 (→ [65 ページ](#))
 - バージョン管理 (→ [65 ページ](#))
 - アプリケーション名と説明 (→ [66 ページ](#))
 - アプリケーションのアイコン (→ [67 ページ](#))
 - アプリケーション連携 (→ [67 ページ](#))
- 自動連携 (→ [68 ページ](#))
- 読み取り設定モード時の読み取り制限 (→ [69 ページ](#))
 - 保存先タブ (→ [69 ページ](#))
 - 読み取りモードタブ (→ [70 ページ](#))
 - ファイル形式タブ (→ [71 ページ](#))
 - 原稿タブ (→ [72 ページ](#))
 - ファイルサイズタブ (→ [72 ページ](#))
 - 読み取り画質 (→ [72 ページ](#))

以下に、連携設定ファイルのキー一覧を示します。

M : ScanSnap Manager

O : ScanSnap Organizer

C : CardMinder

R : サポートするキー (必須)

レ : サポートするキー (オプション)

- : サポートしないキー

基本設定

バージョン管理

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Info	IFVersion	String	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定	R	R	R

アプリケーション名と説明

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Launch	Description	String	実行アプリケーションを説明する文字列	レ	レ	レ
	Label	String	アプリケーション名として表示する文字列	R	R	R
	QuickMenuDescription	String	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列	レ	—	—
	QuickMenuLabel	String	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列 (本キーがない場合は、Label を使用)	レ	—	—
0x**** (言語セクション) (*)	Description	String	実行アプリケーションを説明する文字列 (Launch セクションより優先)	レ	レ	レ
	Label	String	アプリケーション名として表示する文字列 (Launch セクションより優先)	レ	レ	レ
	QuickMenuDescription	String	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列 (Launch セクションより優先)	レ	—	—
	QuickMenuLabel	String	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列 (Launch セクションより優先)	レ	—	—

* : 言語セクションのセクション名について

「コントロールパネル」の「地域と言語のオプション」の「地域オプション」タブの「標準と形式」で選択する言語 ID を使用します (Win32 API の GetUserDefaultLangID 関数を実行して得られる言語 ID)。

言語 ID :

言語	セクション名
日本語 (日本)	0x0411
英語 (米国)	0x0409
フランス語 (フランス)	0x040C
ドイツ語 (ドイツ)	0x0407
イタリア語 (イタリア)	0x0410
スペイン語 (スペイン)	0x0C0A
中国語 (中国) (簡体字)	0x0804
中国語 (台湾) (繁体字)	0x0404
韓国語 (韓国)	0x0412
ロシア語 (ロシア)	0x0419
ポルトガル語 (ブラジル)	0x0416

例：

[Launch]

Label=Scan to E-Mail

[0x0411]

Label= メールで送信

上記の場合、日本語環境では、言語セクション「0x0411」の「メールで送信」、そのほかの言語環境の場合は、「Launch」セクションの「Scan to E-Mail」と表示されます。

アプリケーションのアイコン

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Launch	Icon	String	実行アプリケーションの表示に使用するアイコンファイル名	レ	レ	レ

アプリケーション連携

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Launch	CardDataFileFormat	Int	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定	—	—	レ
	CardDataFileOption	Int	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定	—	—	レ
	CardImageFileFormat	Int	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定	—	—	レ
	HideAppList	Bool	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうか	レ	—	—
	QuickMenu	Bool	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか	レ	—	—
	RecommendBook	Int	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能をもつかどうか	レ	—	—
	RecommendBusinessCard	Int	名刺に特化した機能を持つかどうか	レ	—	—
	RecommendReceipt	Int	レシートに特化した機能を持つかどうか	レ	—	—
	SupportFileFormat	Int	アプリケーションがサポートするファイル形式の指定	レ	レ	—
	WithoutLaunch	Bool	アプリケーションを起動しないモードの指定	レ	—	—

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Application	AppSetting	Bool	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか	レ	レ	レ
	ClassName	String	設定画面アプリケーションのウィンドウクラス名	レ	—	—
	SettingExe	String	設定画面アプリケーションの exe ファイル名	レ	レ	レ
	Wait	Bool	実行アプリケーション終了待ち合わせ有無の指定	レ	—	—
	IgnoreScanButton	Bool	装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするモードの指定	レ	—	—

自動連携

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Launch	AlwaysAutoConnect	Bool	自動連携（常に連携状態時に）するかどうか	レ	—	—
	AlwaysAutoConnectExe* (*)	String	自動連携（常に連携状態時に）する際のアプリケーションの実行ファイル名	レ	—	—
	AutoConnect	Bool	自動連携（アクティブ状態時に）するかどうか	レ	—	—
	AutoConnectExe* (*)	String	自動連携（アクティブ状態時に）する際のアプリケーションの実行ファイル名	レ	—	—
	AutoConnectWndClass* (*)	String	自動連携（アクティブ状態時に）する際のアプリケーションのウィンドウクラス名	レ	—	—

* : * には、数字なし、2、3、4、5、6、7、8、9、10 の最大 10 個指定が可能です（1 は、指定不可能です）。
 アクティブウィンドウの実行ファイル名が、指定した 1 ～ XXX までの実行ファイル名に存在している場合に自動連携されます。
 AutoConnectWndClass が指定されている場合には、ウィンドウのクラス名でも検索を行います（ウィンドウクラス名で検索後、実行ファイルでの検索を行います）。

例：

[Launch]

AutoConnectExe=ImageConnections1.exe

AutoConnectExe2=ImageConnections2.exe

AutoConnectExe3=ImageConnections3.exe

AutoConnectExe4=ImageConnections4.exe

AutoConnectExe5=ImageConnections5.exe

自動連携には、以下の 2 種類の連携があります。

- 該当アプリケーションがアクティブ状態のときに連携する（推奨）：デフォルト
- 該当アプリケーション起動中は常に連携する

切り替えは、「ScanSnap Manager - 環境設定」画面で行います。

読み取り設定モード時の読み取り制限

保存先タブ

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	FileCounterDigits	Int	イメージファイル名の連番桁数の指定の制限	レ	—	—
	FileName	String	イメージファイル名の先頭文字列の指定の制限	レ	—	—
	FileNameFormat	Int	イメージファイル名の形式の指定の制限	レ	—	—
	Rename	Int	読み取り後、ファイル名を変更する指定の制限	レ	—	—
	SaveFolder	String	保存先フォルダーの指定の制限	レ	—	—

読み取りモードタブ

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	AutoComposite	Bool	表裏のイメージを自動的に合成する機能の有効無効の指定	レ	—	—
	BlankPageSkip	Bool	白紙削除機能の有効無効の指定の制限	レ	—	—
	BWBrightness	Int	白黒読み取りの濃度の指定の制限	レ	—	—
	ColorMode	Int	カラーモードの指定の制限	レ	—	—
	ContentCorrection	Int	文字列の歪み補正機能の指定	レ	—	—
	ContinueScan	Bool	継続読み取り指定の制限	レ	—	—
	ContinueScanMode	Int	次の読み取り開始条件の指定	レ	—	—
	DarkMode	Bool	カラー読み取り時の色を濃くする機能の有効無効の指定	レ	—	—
	Deskew	Bool	傾き補正機能の有効無効の指定の制限	レ	—	—
	FaceUp	Bool	原稿を上向きにセットして読み取るかどうかの指定	レ	—	—
	HighCompression	Bool	高圧縮機能の有効無効の指定	レ	—	—
	HighQualityImage	Bool	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかの指定	レ	—	—
	ReduceBleedThrough	Int	裏写りを軽減するかどうかの指定の制限	レ	—	—
	Rotation	Bool	向き補正機能の指定	レ	—	—
	ScanMode	Int	画質モードの指定の制限	レ	—	—
	ScanningSide	Int	読み取り面の指定の制限	レ	—	—
	StartScanTime	Int	読み取り開始するまでの待ち時間（秒）の指定	レ	—	—
	TextOnlyDocument	Bool	文字くっきり機能の有効無効の指定の制限	レ	—	—
	TimerScanTime	Int	指定時間経過後（タイマーモード）時の読み取り間隔時間（秒）の指定	レ	—	—

ファイル形式タブ

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	Format	Int	ファイル形式の指定の制限	レ	—	—
	MarkerIndex	Int	マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の有効無効の指定の制限	レ	—	—
	MarkerIndexResult	Bool	マーカー部分の文字列から PDF に設定したキーワードを外部ファイルに出力するかどうかの指定	レ	—	—
	OcrPage	Int	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページの制限	レ	—	—
	Password	Bool	パスワード設定機能の有効無効の指定	レ	—	—
	PDFA	Bool	PDF/A に準拠した形式で出力するかどうかの指定の制限	レ	—	—
	PDFPageDivide	Int	PDF ページ分割の有効無効の指定と、分割ページ数の指定の制限	レ	—	—
	Searchable	Int	テキスト抽出して検索可能な PDF にする指定の制限	レ	—	—
	SearchableLang	Int	テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語指定の制限	レ	—	—
	TimeStamp	Int	電子署名・タイムスタンプを付加する指定	レ	—	—

原稿タブ

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	BookDivideType	Int	見開き原稿の保存オプションの指定	レ	—	—
	BookPreCorrection	Bool	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（本や雑誌）	レ	—	—
	CarrierSheetMode	Int	キャリアシートで読み取り時の「イメージの保存方法」の指定の制限	レ	—	—
	CarrierSheetSeparatePaperSize	Int	「表裏のイメージをそれぞれ保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限	レ	—	—
	CarrierSheetSpreadPaperSize	Int	「表裏のイメージを見開きにして保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限	レ	—	—
	MultiCrop	Bool	複数の原稿を検出するかどうかの指定	レ	—	—
	MultiFeedControl	Int	マルチフィード検出の指定の制限	レ	—	—
	MultiPreCorrection	Bool	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（平らな原稿）	レ	—	—
	PaperSize	Int	原稿サイズの指定の制限	レ	—	—
	PaperType	Int	読み取る原稿の選択の指定	レ	—	—

ファイルサイズタブ

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	Compression	Int	圧縮率の指定の制限	レ	—	—

読み取り画質

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
Scanning	eScanMode	Int	e 文書画質をサポートしているかどうかの指定	レ	—	—
	LinearScan	Bool	リニア画質（ガンマ 1.0）での読み取り指定	レ	—	—

連携設定ファイルのキー説明

以下に、連携設定ファイルのキーについて示します。

- Info セクション (→ [73 ページ](#))
- Launch セクション (→ [73 ページ](#))
- 言語セクション (→ [81 ページ](#))
- Application セクション (→ [81 ページ](#))
- Scanning セクション (→ [83 ページ](#))

重要

- 指定外（範囲外）の値を設定した場合の動作は保証されません。
- 1つのセクション内に同一キーを複数記述した場合の動作は保証されません。

Info セクション

キー名	IFVersion (Info セクション)
概要	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	必須
値	1
解説	<p>実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数を指定します。</p> <p>版数とは、本書の版数を意味します。</p> <p>今後 ScanSnap インターフェースに機能追加されても、お客様のアプリケーションがそのまま動作できるよう、互換を保つために使用します。</p> <p>本キーを指定しない場合、ScanSnap に添付のソフトウェアのバージョンによって動作が異なる場合があります。</p>

Launch セクション

キー名	AlwaysAutoConnect (Launch セクション)
概要	自動連携（常に連携状態時に）するかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – しない（デフォルト） 1 – する

解説	<p>アプリケーションが起動状態のときに、Scan ボタンを押した場合、アプリケーションの選択で選択されていなくても、自動的に連携するかどうかを指定します。</p> <p>「ScanSnap Manager - 環境設定」画面の「自動連携」タブの「連携方法」で、「該当アプリケーション起動中は常に連携します」を選択していない場合は、無効になります。</p> <p>「自動連携の通知コマンド」（137 ページ）の呼び出しが必要です。</p>
----	---

キー名	AlwaysAutoConnectExe* (Launch セクション)
概要	自動連携（常に連携状態時に）する際のアプリケーションの実行ファイル名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	自動連携する際の実行ファイル名
解説	<p>自動連携する際のアプリケーションの実行ファイル名をすべて指定します。</p> <p>* には、数字なし、2、3、4、5、6、7、8、9、10 の最大 10 個の数字を指定します（1 は、指定不可能です）。</p> <p>「起動中は常に連携する」場合の連携に関しては、基本的にメッセージ通知で行うため、本キーは、メッセージ通知をできない場合に使用します。</p>

キー名	AutoConnect (Launch セクション)
概要	自動連携（アクティブ状態時に）するかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – しない（デフォルト）</p> <p>1 – する</p>
解説	<p>アプリケーションの画面がアクティブな状態のときに、Scan ボタンを押した場合、アプリケーションの選択で選択されていなくても、自動的に連携するかどうかを指定します。</p> <p>「ScanSnap Manager - 環境設定」画面の「自動連携」タブの「連携方法」で、「該当アプリケーションがアクティブ状態のときに連携します（推奨）」を選択していない場合は、無効になります。</p>

キー名	AutoConnectExe* (Launch セクション)
概要	自動連携（アクティブ状態時に）する際のアプリケーションの実行ファイル名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	自動連携する際の実行ファイル名

解説	<p>自動連携する際のアプリケーションの実行ファイル名をすべて指定します。</p> <p>* には、数字なし、2、3、4、5、6、7、8、9、10 の最大 10 個の数字を指定します（1 は、指定不可能です）。</p> <p>指定した実行ファイル名のどれかの画面がアクティブの際に自動的にアプリケーションを切り替え連携します。</p> <p>「AutoConnectWndClass」キーが指定されている場合は、ウィンドウクラス名でも検索を行い、本画面がアクティブの際には、自動的にアプリケーションを切り替え連携します。</p>
----	--

キー名	AutoConnectWndClass* (Launch セクション)
概要	自動連携（アクティブ状態時に）する際のアプリケーションのウィンドウクラス名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション（AutoConnect=1 のときは、必須）
値	自動連携する際のウィンドウのクラス名
解説	<p>自動連携する際のアプリケーションのウィンドウのクラス名をすべて指定します。</p> <p>* には、数字なし、2、3、4、5、6、7、8、9、10 の最大 10 個の数字を指定します（1 は、指定不可能です）。</p> <p>本画面のどれかがアクティブの際に自動的にアプリケーションを切り替え連携します。</p>

キー名	CardDataFileFormat (Launch セクション)
概要	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	<p>1 – ContactXML 1.1（名刺データだけ、名刺イメージはオプション）</p> <p>2 – vCard 3.0（名刺データだけ、名刺イメージはオプション）（デフォルト）</p> <p>3 – vCard 3.0(UTF-16)（名刺データだけ、名刺イメージはオプション）</p> <p>-1 – 名刺イメージだけ</p>
解説	<p>実行アプリケーションが受け取れる名刺データファイルの種類を指定します。</p> <p>名刺イメージファイルの有無と形式は、「CardImageFileFormat」キーで指定します。</p> <p>* キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。</p>

キー名	CardDataFileOption (Launch セクション)
概要	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600

必須 / オプション	オプション
値	0 – 複数の名刺データを 1 つの名刺データファイルで渡す（デフォルト） 1 – 1 つの名刺データにつき、1 つの名刺データファイルで渡す
解説	名刺データを 1 つの名刺データファイルにまとめて受け取るか、1 つの名刺ごとの名刺データファイルに分けて受け取るかを指定します。 * 「CardDataFileFormat」キーで「名刺イメージだけ (-1)」を指定した場合、本キーは無視されます。 * キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。

キー名	CardImageFileFormat (Launch セクション)
概要	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – イメージファイルなし（名刺イメージファイルが不要な場合） 1 – PDF（デフォルト） 2 – JPEG
解説	実行アプリケーションが名刺イメージファイルを必要とする場合、受け取るファイルの種類を指定します。 * キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。 * 「CardDataFileFormat」キーで「名刺イメージだけ (-1)」、かつ、本キーで「イメージファイルなし (0)」が指定された場合は、実行アプリケーション起動時にイメージファイルを渡さないこととします。つまり、結果ファイルの「FILES」セクションの「FileCount」キー値が 0 となります。

キー名	Description (Launch セクション)
概要	実行アプリケーションを説明する文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	全角で最大 128 文字（256 バイト）までの文字列
解説	実行アプリケーションを説明する文字列を指定します。 ● ScanSnap Manager 「QuickMenuDescription」キーを省略した場合、本キーがクイックメニューの詳細に表示されます。 ● ScanSnap Organizer / CardMinder アプリケーションメニューのツールチップとして表示されます。 本キーは言語セクションでも指定可能で、言語セクションの「Description」キーの値が優先されます。

キー名	HideAppList (Launch セクション)
概要	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 表示する (デフォルト) 1 – 表示しない
解説	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうかを指定します。

キー名	Icon (Launch セクション)
概要	実行アプリケーションの表示に使用するアイコンファイル名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	アイコンファイル名の指定、またはアイコンファイルのフルパスの指定 (最大 255 バイトの長さ)
解説	<p>アプリケーションアイコン以外のアイコンを表示したい場合に指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager アプリケーションの選択リストボックス、読み取り設定メニュー、クイックメニュー ● ScanSnap Organizer アプリケーションメニュー、アプリケーション一覧 ● CardMinder アプリケーションメニュー <p>本キーが存在しない場合は、実行ファイルとして指定されたファイルのデフォルトアイコンを使用します。</p> <p>アイコンは、48×48 ピクセルと 96×96 ピクセルの画像を含めたマルチアイコンを指定することを推奨します。アイコンがシャープに表示できます。</p> <p>アイコンファイル名を指定する場合は、実行アプリケーションプログラムと同じフォルダーにアイコンファイルを配置します。</p>

キー名	Label (Launch セクション)
概要	アプリケーション名として表示する文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	必須 (言語セクションに存在すればオプション)
値	全角で最大 31 文字 (62 バイト) までの文字列

解説	<p>お客様が作成したアプリケーション名の文字列を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager 以下の優先順で「アプリケーションの選択」に表示されます。 1. 言語セクション - 言語キー / 言語 ID - 「Label」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」セクション - 「Label」キー ● ScanSnap Organizer / CardMinder 以下の優先順で「アプリケーションメニュー名」として表示されます。 1. 言語セクション - 言語キー / 言語 ID - 「Label」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」セクション - 「Label」キー
----	---

キー名	QuickMenu (Launch セクション)
概要	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 - しない (デフォルト) 1 - する
解説	<p>クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうかを指定します。</p> <p>クイックメニュー読み取り時には、「Scanning」セクションで指定されている読み取り制限はすべて無視されます。</p> <p>アプリケーションで対応されていないファイル形式などが連携された場合は、アプリケーション側で対応されていないファイル形式であることをユーザーに通知するメッセージを表示し対応してください。</p>

キー名	QuickMenuDescription (Launch セクション)
概要	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	全角で最大 128 文字 (256 バイト) までの文字列
解説	<p>クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列を指定します。</p> <p>クイックメニューに追加するを指定した場合に有効です。</p> <p>1 行に収まらない場合は、自動的に改行します。</p> <p>明示的に改行する場合は、¥n を指定します (3 行まで)。</p> <p>本キーは言語セクションでも指定可能で、言語セクションの「QuickMenuDescription」キーの値が優先されます。</p>

キー名	QuickMenuLabel (Launch セクション)
概要	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	全角で最大 31 文字（62 バイト）までの文字列
解説	<p>クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列を指定します。 クイックメニューに追加するを指定した場合に有効です。 改行する場合は、¥n を指定します（2 行まで）。 例：QuickMenuLabel=Scan to ¥n XXXXXXXXXXXX Scan to XXXXXXXXXXXX</p> <p>本キーは言語セクションでも指定可能で、言語セクションの「QuickMenuLabel」キーの値が優先されます。 本キーが無効の場合、「Label」キーから取得します。</p> <p>* 設定した文字列に関して、実際に画面に表示した場合に、表示切れ（文字欠け）となる場合があるため、クイックメニュー上で正しく表示されることを確認して設定してください。</p>

キー名	RecommendBook (Launch セクション)
概要	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能をもつかどうか
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – 見開き原稿（本や雑誌）もほかのドキュメントも同様に扱う（デフォルト） 1 – 見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能を持つ</p>
解説	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能を持つかどうかを指定します。

キー名	RecommendBusinessCard (Launch セクション)
概要	名刺に特化した機能を持つかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – 名刺もほかのドキュメントも同様に扱う（デフォルト） 1 – 名刺に特化した機能を持つ</p>
解説	名刺に特化した機能を持つかどうかを指定します。

キー名	RecommendReceipt (Launch セクション)
概要	レシートに特化した機能を持つかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – レシートもほかのドキュメントも同様に扱う (デフォルト) 1 – レシートに特化した機能を持つ
解説	レシートに特化した機能を持つかどうかを指定します。

キー名	SupportFileFormat (Launch セクション)
概要	アプリケーションがサポートするファイル形式の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – すべてのファイル (デフォルト) 1 – PDF 2 – JPEG 3 – PDF と JPEG
解説	<ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager クイックメニューからアプリケーションが受け取れるファイル形式を指定します。 本キーを省略した場合、「Scanning」セクションの「Format」キーで指定したファイル形式が有効になります。 アプリケーションから受け取れない形式のファイルが連携された場合、メッセージを表示します。 ● ScanSnap Organizer アプリケーションがサポートするファイル形式を指定します。

キー名	WithoutLaunch (Launch セクション)
概要	アプリケーションを起動しないモードの指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 起動する (デフォルト) 1 – 起動しない

解説	<p>アプリケーションを起動しないモードを指定します。</p> <p>「1 – 起動しない」を指定した場合、以下のすべての読み取りでアプリケーションを起動しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap の Scan ボタンからの読み取り ● 右クリックメニューからの片面 / 両面読み取り ● 制御コマンド（StartScan コマンド）からの読み取り ● 読み取り後のクイックメニューからのアプリケーション選択
----	--

言語セクション

言語セクション内のキー説明は、Launch セクション内のキー説明と同様です。

詳細は、「[Launch セクション](#)」（73 ページ）を参照してください。

Application セクション

キー名	AppSetting (Application セクション)
概要	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 未サポート（デフォルト） 1 – サポート
解説	<p>設定画面アプリケーションをサポートするかどうかを指定します。</p> <p>サポートする場合、ScanSnap Manager（または ScanSnap Organizer、または CardMinder）から設定画面アプリケーションを起動します。</p> <p>ScanSnap Manager では、設定保存ファイルに実行アプリケーション固有の設定を保存でき、ScanSnap Manager の設定ごとに別々の設定を保存できます。</p> <p>設定呼び出し時に ScanSnap Manager は、終了待ち合わせ（プロセスの終了判断）を行うので、設定画面終了時には、プロセスも終了するようにします。</p> <p>「0」の場合、ScanSnap Manager から設定画面アプリケーションを起動しません（設定ボタンは表示されません）。</p>

キー名	ClassName (Application セクション)
概要	設定画面アプリケーションのウィンドウクラス名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	全角で最大 31 文字（62 バイト）までの文字列

解説	<p>「AppSetting」キーが「1」の場合、設定画面アプリケーションのウィンドウクラス名です。</p> <p>本キーを登録しておくことで、ScanSnap Manager の設定画面よりも上位に設定画面を表示します。</p> <p>本キーが登録されていないと、クイックメニューから設定画面を呼び出した場合に、設定画面がクイックメニューのうしろに隠れる場合があります。</p>
----	--

キー名	SettingExe (Application セクション)
概要	設定画面アプリケーションの exe ファイル名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	起動するプログラムのファイル名
解説	<p>設定画面アプリケーションの exe ファイル名を指定します。</p> <p>本 exe ファイル名が有効な場合、このファイル名で設定を呼び出します。</p> <p>設定画面アプリケーションは、起動するプログラムと同じフォルダーにある必要があります。</p> <p>本 exe ファイル名の指定がない場合などは、実行アプリケーションの exe ファイル名で設定を呼び出します。</p>

キー名	Wait (Application セクション)
概要	実行アプリケーション終了待ち合わせ有無の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – 待ち合わせない（デフォルト）</p> <p>1 – 待ち合わせる</p>
解説	<p>起動した実行アプリケーションの終了待ち合わせを行うかどうかを指定します。</p> <p>ScanSnap Manager では、起動したプロセスの有無で、終了待ち合わせを行います。</p> <p>* 多重起動しない実行アプリケーションで、終了待ち合わせを行いたい場合は、ScanSnap 連携処理後にプロセスを終了するなどの対処が必要です。</p> <p>* 設定画面アプリケーションの呼び出し時は、本キーとは関係なく、待ち合わせを行います。</p>

キー名	IgnoreScanButton (Application セクション)
概要	装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするモードの指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600

必須 / オプション	オプション
値	0 – Scan ボタン有効（デフォルト） 1 – Scan ボタン無効
解説	<p>装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするかどうかを指定します。</p> <p>「1」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得（Reserve）している間、以下の操作が無効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 装置の Scan ボタンによる読み取り ● ショートカットキーによる読み取り（SV600） <p>「1」を指定した場合でも、以下の操作は有効となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 装置の Stop ボタンによる読み取り中止 ● ショートカットキーによる読み取り中止（SV600） ● 読み取り中の、装置の Scan ボタンによる連続読み取り（SV600）

Scanning セクション

各設定では読み取り設定のうち、固定したいパラメーターを指定できます。

設定で指定されない、または無効値を指定されたスキャン設定は、ScanSnap Manager 設定画面で自由に変更できます。

「Scanning」セクションで設定がない場合、ユーザーが ScanSnap Manager 設定画面ですべての設定を自由に変更できます。

重要

- クイックメニュー読み取り時は、「Scanning」セクションのキーは無効となります。
クイックメニューに実行アプリケーションを追加する場合は、実行アプリケーション側で、ScanSnap が出力するデータ形式（ファイル形式（PDF、JPEG）、カラー形式（カラー、グレイ、白黒）など）をサポートする必要があります。
- 「Scanning」セクションのキーを有効にすると、ScanSnap Manager の設定画面は、指定された値で固定化（グレイアウト）できます。

キー名	AutoComposite (Scanning セクション)
概要	表裏のイメージを自動的に合成する機能の有効無効の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	iX100
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	<p>表裏のイメージを自動的に合成するかどうかを指定します。</p> <p>「PaperSize」キーで「0」以外を指定した場合、または「原稿サイズを選択」で「サイズ自動検出」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>

キー名	BlankPageSkip (Scanning セクション)
概要	白紙削除機能の有効無効の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	白紙削除機能を有効にするかどうかを指定します。

キー名	BookDivideType (Scanning セクション)
概要	見開き原稿の保存オプションの指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 1 ページで保存する 1 – 2 ページ（左、右の順）で保存する 2 – 2 ページ（右、左の順）で保存する
解説	「読み取る原稿の選択」で「後から選択」が選択されている場合、または「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合に見開き原稿の保存オプションを指定します。 「PaperType」キーで「0」を指定した場合、「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「平らな原稿」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	BookPreCorrection (Scanning セクション)
概要	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（見開き原稿（本や雑誌））
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 確認しない 1 – 確認する

解説	<p>「読み取る原稿の選択」で「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合に、「読み取り後、保存するイメージを確認する」を指定します。</p> <p>「PaperType」キーで「0」を指定、または「読み取る原稿の選択」で「後から選択」、「平らな原稿」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出（最大エリア）」、「サイズ自動検出（A4 横 / レター横エリア）」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>
----	--

キー名	BWBrightness (Scanning セクション)
概要	白黒読み取りの濃度の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	-5 ～ 5 - -5（薄く）～ 5（濃く） (0（標準）)
解説	<p>白黒読み取りの濃度を指定します。</p> <p>「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「ColorMode」キーで「2」、「4」、「5」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」、「グレー」、「カラー高圧縮」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>

キー名	CarrierSheetMode (Scanning セクション)
概要	キャリアシートで読み取り時の「イメージの保存方法」の指定の制限
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.5L31 以降
サポート機種	S1500、S1100、iX500、iX100
必須 / オプション	オプション
値	<p>1 – 表裏のイメージを見開きにして保存します</p> <p>2 – 表裏のイメージをそれぞれ保存します</p>
解説	キャリアシートで読み取り時の保存方法を指定します。

キー名	CarrierSheetSeparatePaperSize (Scanning セクション)
概要	「表裏のイメージをそれぞれ保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.5L31 以降
サポート機種	S1500、S1100、iX500、iX100

必須 / オプション	オプション
値	0 – サイズ自動選択 1 – A3 キャリアシートサイズ (216×297mm) 2 – A4 (210×297mm) 3 – A5 (148×210mm) 4 – A6 (105×148mm) 5 – はがき (100×148mm) 6 – B5 (182×257mm) 7 – B6 (128×182mm) 8 – レター (8.5×11 インチ (216×279.4mm)) 9 – 名刺 縦 (55×90mm) 10 – 名刺 横 (90×55mm) 11 – 写真 E 版 縦 (83×117mm) 12 – 写真 E 版 横 (117×83mm) 13 – 写真 L 版 縦 (89×127mm) 14 – 写真 L 版 横 (127×89mm) 15 – 写真 LL 版 縦 (127×178mm) 16 – 写真 LL 版 横 (178×127mm)
解説	保存するイメージのサイズを指定します。

キー名	CarrierSheetSpreadPaperSize (Scanning セクション)
概要	「表裏のイメージを見開きにして保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.5L31 以降
サポート機種	S1500、S1100、iX500、iX100
必須 / オプション	オプション
値	0 – サイズ自動選択 1 – A3 (297×420mm) 2 – B4 (257×364mm) 3 – 11×17 インチ (279.4×431.8mm)
解説	保存するイメージのサイズを指定します。

キー名	ColorMode (Scanning セクション)
概要	カラーモードの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション

値	1 – カラー・グレー・白黒自動判別（JPEG ファイルの場合、カラー・グレー自動判別） 2 – カラー 3 – 白黒（PDF ファイルの場合に有効） 4 – カラー高圧縮（PDF ファイルの場合に有効） 5 – グレー
解説	カラーモードを指定します。 「Format」キーで「2」を指定、かつ本キーで「3」または「4」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。 「HighCompression」キーで「1」を指定した場合、「カラーモードの選択」で「カラー高圧縮」固定にします（本キーの「4」を指定した場合と同じ動作となります）。 「ScanMode」キーで「4」を指定、かつ本キーで「4」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	Compression (Scanning セクション)
概要	圧縮率の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	1 – 圧縮率 低 ～ 5 – 圧縮率 高
解説	圧縮率を指定します。 「ColorMode」キーで「3」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「白黒」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	ContentCorrection (Scanning セクション)
概要	文字列の歪み補正機能の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 平らな原稿 2 – 見開き原稿 3 – 平らな原稿と見開き原稿
解説	文字列の歪み補正をするかどうかを指定します。

キー名	ContinueScan (Scanning セクション)
概要	継続読み取り指定の制限

サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	継続して読み取りを行うかどうかを指定します。 * 片面機に接続し、連続読み取りを行うアプリケーションを作成する場合は、本キーに「0 – 無効」を設定しないでください。

キー名	ContinueScanMode (Scanning セクション)
概要	次の読み取り開始条件の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – なし 1 – 指定時間経過後 (タイマーモード) 2 – ページめくり検出時
解説	次の読み取り開始条件を指定します。 継続読み取り時のみ有効となります。

キー名	DarkMode (Scanning セクション)
概要	カラー読み取り時の色を濃くする機能の有効無効の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	カラー読み取り時に色を濃くするかどうかを指定します。 本キーは、「ColorMode」キーで「2」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択した場合のみ有効となります。

キー名	Deskew (Scanning セクション)
概要	傾き補正機能の有効無効の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600

必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	傾き補正機能を有効にするかどうかを指定します。

キー名	eScanMode (Scanning セクション)
概要	e 文書画質をサポートしているかどうかの指定
サポートバージョン	値「2」は、ScanSnap Manager V6.3L30 以降
サポート機種	S1500 (JPN model)、S1300i (JPN model)、S1100 (JPN model)、iX500 (JPN model)、iX100 (JPN model)、SV600 (JPN model)
必須 / オプション	オプション
値	0 – 非サポート (デフォルト) 1 – サポート (通常読み取り優先) 2 – サポート (e- 文書モード読み取り優先)

解説	<p>e 文書画質をサポートしているかどうかを指定します。</p> <p>サポートしていない場合、e- 文書モードの設定では、アプリケーションの選択に表示されません。</p> <p>サポートしている場合、キーの値によって読み取り方法が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「1」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得（Reserve）している間、e- 文書モードが無効で固定され、装置の Scan ボタンを押すか、右クリックメニューの「両面読み取り」、「片面読み取り」または「読み取り」を選択した場合、通常読み取りとなります（StartScan コマンドでの e- 文書モード読み取りは可能です）。 ● 「2」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得（Reserve）している間、e- 文書モードが有効で固定され、装置の Scan ボタンを押すか、右クリックメニューの「両面読み取り」、「片面読み取り」または「読み取り」を選択した場合、e- 文書モード読み取りとなります（StartScan コマンドでの通常読み取りは可能です）。 <p>*e- 文書モードで読み取ったイメージの補正、修正などの改変は行わないでください（e- 文書モードで読み取ったイメージではなくなるため）。</p> <p>また、以下の読み取り情報の制限は無視され、e- 文書モード読み取りの固定値で読み取りを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DarkMode ● HighCompression ● CarrierSheetSeparatePaperSize ● ReduceBleedThrough ● TextOnlyDocument ● BookPreCorrection ● MultiPreCorrection <p>さらに、以下の読み取り情報の制限には、設定できない値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanMode（「2」、「3」のみ設定可能） ● CarrierSheetSpreadPaperSize（「1」～「3」のみ設定可能） ● ColorMode（「2」、「5」のみ設定可能） ● Compression（「1」～「3」のみ設定可能）
備考	<p>デフォルトの記載に不備があり、本書 8 版で修正しました。「1 – サポート」をデフォルトと記載していましたが、正しくは、「0 – 非サポート」がデフォルトです。</p>

キー名	FaceUp (Scanning セクション)
概要	原稿を上向きにセットして読み取るかどうかの指定
サポート機種	S1xxx シリーズ（S1100 未サポート）、iXxxx シリーズ（iX100 未サポート）
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効

解説	原稿を上向きにセットして読み取るかどうかを指定します。 「Rotation」キーで「2」、「3」、「4」、「5」、「6」、「7」を指定した場合、または「向きの選択」で「右 90 度回転」、「180 度回転」、「左 90 度回転」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。
-----------	---

キー名	FileCounterDigits (Scanning セクション)
概要	イメージファイル名の連番桁数の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 - 0 桁 1 - 1 桁 2 - 2 桁 3 - 3 桁 4 - 4 桁 5 - 5 桁 6 - 6 桁
解説	イメージファイル名の連番桁数を指定します。 ファイル名の形式 (FileNameFormat) で、「2 - 自分で名前を付けます」のときに有効となります。

キー名	FileName (Scanning セクション)
概要	イメージファイル名の先頭文字列の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	ファイル名の先頭文字列
解説	<p>イメージファイル名の先頭の文字列を指定します。 ファイル名の形式 (FileNameFormat) で、「2 - 自分で名前を付けます」のときに有効となります。</p> <p>誤ったファイル名が設定された場合、設定時にそのパスの有効性チェックは行わず、グレイアウト（設定変更不可）となりますので十分注意してください。</p> <p>* 本キーの指定時は、以下をチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ファイル名として使用できる文字であるか ● 文字列の長さ制限（半角文字換算で 30 文字）以内であるか <p>値なし（NULL 文字列）指定では、本キーは無視されます。 文字列の長さ制限を超えると、本キーは無視されます。</p>

キー名	FileNameFormat (Scanning セクション)
概要	イメージファイル名の形式の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – yyyy 年 MM 月 dd 日 HH 時 mm 分 ss 秒 (日本語) yyyy_MM_dd_HH_mm_ss (日本語以外の言語) 1 – yyyyMMddHHmmss 2 – 自分で名前を付けます 3 – yyyy-MM-dd-HH-mm-ss
解説	イメージファイル名の形式を指定します。

キー名	Format (Scanning セクション)
概要	ファイル形式の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	1 – PDF 2 – JPEG
解説	ファイル形式を指定します。

キー名	HighCompression (Scanning セクション)
概要	高圧縮機能の有効無効の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	カラー高圧縮機能を有効にするかどうかを指定します。 ファイルフォーマットが PDF 以外の場合、本キーは無視されます。 「0」を指定した場合、「カラーモードの選択」で「カラー高圧縮」を選択できなくします (表示されなくします)。 「1」を指定した場合、「カラーモードの選択」で「カラー高圧縮」固定にします (ColorMode=4 を指定した場合と同じ動作となります)。 「ScanMode」キーで「4」を指定、かつ本キーで「1」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	HighQualityImage (Scanning セクション)
概要	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかの指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかを指定します。

キー名	LinearScan (Scanning セクション)
概要	リニア画質（ガンマ 1.0）での読み取り指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – リニア画質（ガンマ 1.0）での読み取りを行わない 1 – リニア画質（ガンマ 1.0）での読み取りを行う
解説	リニア画質（ガンマ 1.0）で読み取りを行います。 *e- 文書モード読み取り時は、本キーは無視されます。

キー名	MarkerIndex (Scanning セクション)
概要	マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の有効無効の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効（先頭マーカーのみ） 2 – 有効（全マーカー）

解説	<p>マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能を有効にするかどうかと、対象とするマーカーの範囲を指定します。</p> <p>「ColorMode」キーで「3」、「4」、「5」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「グレー」、「白黒」、「カラー高圧縮」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「SearchableLang」キーで「0」～「10」以外を指定した場合、または「対象言語」で「日本語」、「英語」、「フランス語」、「ドイツ語」、「イタリア語」、「スペイン語」、「中国語（簡体字）」、「中国語（繁体字）」、「韓国語」、「ロシア語」、「ポルトガル語」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>
----	---

キー名	MarkerIndexResult (Scanning セクション)
概要	マーカー部分の文字列から PDF に設定したキーワードを外部ファイルに出力するかどうかの指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 外部ファイルに出力しない（デフォルト） 1 – 外部ファイルに出力する
解説	<p>マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにした結果を外部ファイルに出力するかどうかを指定します。</p> <p>詳細は、「結果ファイル」(105 ページ) を参照してください。</p> <p>本キーを指定し、キーワードを外部ファイルに出力した場合は、実行アプリケーションで削除してください。</p>

キー名	MultiCrop (Scanning セクション)
概要	複数の原稿を検出するかどうかの指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	<p>複数の原稿を検出するかどうかを指定します。</p> <p>「PaperType」キーで「1」を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出（最大エリア）」、「サイズ自動検出（A4 横 / レター横エリア）」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>

キー名	MultiFeedControl (Scanning セクション)
概要	マルチフィード検出の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ (S1100 未サポート)、iXxxx シリーズ (iX100 未サポート)
必須 / オプション	オプション
値	0 – マルチフィード検出しない 1 – マルチフィード検出する (長さで検出) 2 – マルチフィード検出する (超音波) (超音波をサポートしている機種だけ有効)
解説	マルチフィード検出するかどうかを指定します。 本キーに「2」を指定し、超音波をサポートしていない機種が接続された場合、本キーは指定されなかったものとして動作します。

キー名	MultiPreCorrection (Scanning セクション)
概要	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定 (平らな原稿)
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 確認しない 1 – 確認する
解説	「読み取る原稿の選択」で「平らな原稿」が選択されている場合に、「読み取り後、保存するイメージを確認する」を指定します。 「PaperType」キーで「1」を指定、または「読み取る原稿の選択」で「後から選択」、「見開き原稿 (本や雑誌)」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。 「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出 (最大エリア)」、「サイズ自動検出 (A4 横 / レター横エリア)」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	OcrPage (Scanning セクション)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページの制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 先頭ページ 1 – 全ページ

解説	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページを指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。
----	--

キー名	PaperSize (Scanning セクション)
概要	原稿サイズの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	<ul style="list-style-type: none"> ● SV600 以外接続時 <ul style="list-style-type: none"> 0 – サイズ自動検出 1 – A4 (210×297mm) 2 – A5 (148×210mm) 3 – A6 (105×148mm) 4 – B5 (182×257mm) 5 – B6 (128×182mm) 6 – はがき (100×148mm) 7 – 名刺 (90×55mm、55×90mm) 8 – レター (8.5×11 インチ、216×279.4mm) 9 – リーガル (8.5×14 インチ、216×355.6mm)
値	<ul style="list-style-type: none"> ● SV600 接続時 <ul style="list-style-type: none"> 0 – サイズ自動検出 (最大エリア) 1 – A4 横 (297×210mm) 2 – A5 横 (210×148mm) 3 – A6 横 (148×105mm) 4 – B5 横 (257×182mm) 5 – B6 横 (182×128mm) 6 – はがき横 (148×100mm) 7 – 名刺 (90×55mm) 8 – レター横 (11×8.5 インチ、279.4×216mm) 9 – リーガル横 (14×8.5 インチ、355.6×216mm) 10 – サイズ自動検出 (A4 横 / レター横エリア) 11 – A3 横 (420×297mm) 12 – B4 横 (364×257mm) 13 – 17×11 インチ (431.8×279.4mm)
解説	原稿サイズを指定します。

キー名	PaperType (Scanning セクション)
概要	読み取る原稿の選択の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降

サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 平らな原稿 1 – 見開き原稿（本や雑誌）
解説	「読み取る原稿の選択」を指定します。

キー名	Password (Scanning セクション)
概要	パスワード設定機能の有効無効の指定
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	パスワードを設定するかどうかを指定します。 「PDF/A」キーで「1」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	PDF/A (Scanning セクション)
概要	PDF/A に準拠した形式で出力するかどうかの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – PDF/A には準拠しない（通常の PDF で出力する）（デフォルト） 1 – PDF/A に準拠する
解説	PDF/A に準拠した形式で出力するかどうかを指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	PDFPageDivide (Scanning セクション)
概要	PDF ページ分割の有効無効の指定と、分割ページ数の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 分割しない 1 ~ 999 – 分割するページ数

解説	PDF ページ分割するかどうかと、分割ページ数を指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。
----	---

キー名	ReduceBleedThrough (Scanning セクション)
概要	裏写りを軽減するかどうかの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 裏写りを軽減しない 1 – 裏写りを軽減する
解説	裏写りを軽減するかどうかを指定します。 SV600 接続時、「ColorMode」キーで「2」を指定、かつ「DarkMode」キーで「1」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択、かつ「カラー読み取り時の色を濃くします」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	Rename (Scanning セクション)
概要	読み取り後、ファイル名を変更する指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	読み取り後にファイル名を変更するかどうかを指定します。

キー名	Rotation (Scanning セクション)
概要	向き補正機能の指定
サポートバージョン	値「2」「3」「4」は、ScanSnap Manager V6.3L20 以降 値「5」「6」「7」は、ScanSnap Manager V6.3L24 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション

値	0 – 回転しない 1 – 自動判別 2 – 右 90 度回転（上 / 下とじ） 3 – 180 度回転（右 / 左とじ） 4 – 左 90 度回転（上 / 下とじ） 5 – 右 90 度回転（右 / 左とじ） 6 – 180 度回転（上 / 下とじ） 7 – 左 90 度回転（右 / 左とじ）
解説	向き補正機能を指定します。 SV600 接続時、「PaperType」キーで「1」を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「見開き原稿（本や雑誌）」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	SaveFolder (Scanning セクション)
概要	保存先フォルダーの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	ファイルを保存するフォルダーの指定
解説	ファイルを保存するフォルダーを指定します。 フォルダーパスに、%USERPROFILE% を含むことができます。 例：%USERPROFILE%\Pictures 誤ったパスが設定された場合、設定時にそのパスの有効性チェックは行わず、グレイアウト（設定変更不可）となりますので十分注意してください。 * 本キーの指定時は、実行する環境に指定したフォルダーが存在するかをチェックしてください。 値なし（NULL 文字列）指定は、本キーは無視します。

キー名	ScanMode (Scanning セクション)
概要	画質モードの指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	1 – ノーマル 2 – ファイン 3 – スーパーファイン 4 – エクセレント 99 – 自動
解説	画質モードを指定します。

キー名	ScanningSide (Scanning セクション)
概要	読み取り面の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 両面読み取り 1 – 片面読み取り
解説	読み取り面を指定します。 指定値によって、右クリックメニューにある「両面読み取り」/「片面読み取り」も同様にグレイアウトします。 * 本インターフェースを利用して、ScanSnap の両面機、片面機ともに接続し、各デフォルト（両面機は両面で、片面機は片面）で読み取る場合には、本キーは指定しないでください。

キー名	Searchable (Scanning セクション)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にする指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	テキスト抽出して検索可能な PDF にするかどうかを指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 本キーを使用する際は、「SearchableLang」キーで言語指定をしてください。 「SearchableLang」キーを指定していない、または指定が無視されている場合、ScanSnap Manager の設定が反映されます。

キー名	SearchableLang (Scanning セクション)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語指定の制限
サポートバージョン	値「11」～「25」は、ScanSnap Manager V6.5L40 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション

値	0 – 日本語 1 – 英語 2 – フランス語 3 – ドイツ語 4 – イタリア語 5 – スペイン語 6 – 中国語（簡体字） 7 – 中国語（繁体字） 8 – 韓国語 9 – ロシア語 10 – ポルトガル語 11 – アラビア語 12 – インドネシア語 13 – タイ語 14 – ベトナム語 15 – チェコ語 16 – デンマーク語 17 – オランダ語 18 – フィンランド語 19 – ギリシャ語 20 – ハンガリー語 21 – ノルウェー語 22 – ポーランド語 23 – ルーマニア語 24 – スウェーデン語 25 – トルコ語
解説	<p>テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語を指定します。</p> <p>ScanSnap Manager V6.5L40 より前のバージョンでは、「0」～「10」のみ指定可能です。</p> <p>ScanSnap Manager V6.5L40 以降のバージョンではすべての値が指定可能ですが、その言語に応じた OCR パック（テキスト認識が可能な言語のセット）がインストールされている必要があります。言語に応じた OCR パックがインストールされていない場合は、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>OCR パックに含まれる言語は、以下を参照してください。 http://scansnap.fujitsu.com/jp/downloads/software/ocrpack.html</p> <p>「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>
キー名	StartScanTime (Scanning セクション)
概要	読み取り開始するまでの待ち時間（秒）の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600

必須 / オプション	オプション
値	0 – なし 1 ~ 10 – 指定された待ち時間 (秒)
解説	読み取り開始するまでの待ち時間 (秒) を指定します。

キー名	TextOnlyDocument (Scanning セクション)
概要	文字くっつき機能の有効無効の指定の制限
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	文字くっつき機能を有効にするかどうかを指定します。 SV600 接続時、「ColorMode」キーで「2」を指定、かつ「DarkMode」キーで「1」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択、かつ「カラー読み取り時の色を濃くします」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	TimerScanTime (Scanning セクション)
概要	指定時間経過後 (タイマーモード) 時の読み取り間隔時間 (秒) の指定
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
必須 / オプション	オプション
値	0 ~ 10 – 指定された読み取り間隔時間 (秒)
解説	指定時間経過後 (タイマーモード) 時の読み取り間隔時間 (秒) を指定します。 次の読み取り開始条件を " 指定時間経過後 (タイマーモード) " 指定時に有効となります。

キー名	TimeStamp (Scanning セクション)
概要	電子署名・タイムスタンプを付加する指定
サポート機種	S1xxx シリーズ (JPN model)、iX500 (JPN model)
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効

解説	<p>電子署名・タイムスタンプを付加するかどうかを指定します。</p> <p>「PDF/A」キーで「1」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「Password」キーで「1」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>Adobe Acrobat 7.0 以降と、PFU タイムスタンププラグインがインストールされている必要があります。</p> <p>PFU タイムスタンプサービスは、2013 年 9 月 30 日でサポートを終了しました。詳細は、以下を参照してください。</p> <p>http://www.pfu.fujitsu.com/tsa/</p>
----	---

出力されるファイルの内容

ここでは、ScanSnap に添付のソフトウェアで出力され、お客様の作成するアプリケーションに渡すファイルについて説明します。

結果ファイル	105
マーカークーワード検出結果ファイル	117
データファイル	118

結果ファイル

結果ファイルは、INI 形式のファイルです。お客様が作成する実行アプリケーションに渡す、データファイルのフルパスなどが記述されます。

ScanSnap Manager は、読み取り後に自動生成します。

ScanSnap Organizer / CardMinder は、連携アプリケーションの起動時に自動生成します。

以下に、結果ファイルのキー一覧を示します。

M : ScanSnap Manager

O : ScanSnap Organizer

C : CardMinder

レ : サポートするキー

－ : サポートしないキー

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
INFO	FileDesc	String	結果ファイルであることを表す文字列	レ	レ	レ
	Version	String	結果ファイルのフォーマットのバージョンを表す文字列	レ	レ	レ
	Application	String	呼び出し元のアプリケーション名を表す文字列	レ	レ	レ
	AppSetting	String	設定保存ファイルのフルパス	レ	－	－
	LaunchMode	Int	ScanSnap Manager の呼び出しモード	レ	－	－
	ScannerName	String	ScanSnap の機種名	レ	－	－
	ScannerType	Int	ScanSnap の装置タイプ	レ	－	－
FILES	FileCount	Int	実行アプリケーションに渡すデータファイルの総数	レ	レ	レ
	File*	String	データファイルのフルパス	レ	レ	レ
	KeywordFile	String	マーカー部分の文字列から PDF に設定したキーワードを出力したファイルのフルパス	レ	－	－
	TotalPageCount	Int	出力総ページ数	レ	－	－
	File*_PageCount	Int	ファイル内の総ページ数	レ	－	－

セクション	キー	タイプ	説明	M	O	C
SCAN	Duplex	Int	読み取り面	レ	—	—
	ScanMode	Int	画質モード	レ	—	—
	ColorMode	Int	カラーモード	レ	—	—
	PaperSize	Int	原稿サイズ	レ	—	—
	FaceUp	Int	上向き読み取り	レ	—	—
	Book	Int	読み取る原稿の選択	レ	—	—
	MultiCrop	Int	複数の原稿を検出	レ	—	—
	ColorConv	Int	文字くっきり	レ	—	—
	FileFormat	Int	ファイル形式	レ	—	—
	MonoBrightness	Int	白黒濃度	レ	—	—
	ContentsDeskew	Int	文字列の傾き補正	レ	—	—
	BlankCheck	Int	白紙削除	レ	—	—
	DirCorrection	Int	向きの選択	レ	—	—
	ReduceBT	Int	裏写り軽減	レ	—	—
	FileSize	Int	圧縮率	レ	—	—
	BookDivideType	Int	見開き原稿の保存オプション	レ	—	—
	AutoComposite	Int	表裏のイメージを自動的に合成	レ	—	—
	ContentCorrection	Int	文字列の歪み補正	レ	—	—
	DarkMode	Int	カラー読み取り時の色を濃くするモード	レ	—	—

結果ファイルのキー説明

以下に、結果ファイルのキーについて示します。

- INFO セクション (→ [107 ページ](#))
- FILES セクション (→ [109 ページ](#))
- SCAN セクション (→ [110 ページ](#))

INFO セクション

キー名	FileDesc (INFO セクション)
概要	結果ファイルであることを表す文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	常に“PFUFILELISTFORMAT”が設定される。
解説	結果ファイルかどうかを確認するための情報です。

キー名	Version (INFO セクション)
概要	結果ファイルのフォーマットのバージョンを表す文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	“1.0”が設定される。
解説	結果ファイルのフォーマットの互換のための情報です。

キー名	Application (INFO セクション)
概要	呼び出し元のアプリケーション名を表す文字列
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	<ul style="list-style-type: none"> ● 呼び出し元が ScanSnap Manager の場合は、“ScanSnap Manager”が設定される。 ● 呼び出し元が ScanSnap Organizer の場合は、“ScanSnap Organizer”が設定される。 ● 呼び出し元が CardMinder の場合は、“CardMinder”が設定される。
解説	呼び出し元アプリケーションを区別するため（タイトルなど）の情報です。

キー名	AppSetting (INFO セクション)
概要	設定保存ファイルのフルパス
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	設定画面アプリケーションの情報を格納するためのファイルのフルパス
解説	<p>ファイル名は、ScanSnap Manager 側で自動生成します。</p> <p>このファイルは、実行アプリケーションで設定した内容が保存されています。設定内容は、実行アプリケーションの仕様に準拠します。</p>

キー名	LaunchMode (INFO セクション)
概要	ScanSnap Manager の呼び出しモード
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – 左クリックメニューモード 1 – クイックメニューモード
解説	<p>どのモードから起動されたかを表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 左クリックメニューモード ScanSnap Manager から直接アプリケーションが起動されたことを表すモード ● クイックメニューモード クイックメニューからの操作によって起動されたことを表すモード

キー名	ScannerName (INFO セクション)
概要	ScanSnap の機種名
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	ScanSnap iX500 – ScanSnap iX500 読み取り時 ScanSnap iX100 – ScanSnap iX100 読み取り時 ScanSnap S1500 – ScanSnap S1500 読み取り時 ScanSnap S1300i – ScanSnap S1300i 読み取り時 ScanSnap S1300 – ScanSnap S1300 読み取り時 ScanSnap S1100 – ScanSnap S1100 読み取り時 ScanSnap SV600 – ScanSnap SV600 読み取り時
解説	ScanSnap の機種名を表します。

キー名	ScannerType (INFO セクション)
概要	ScanSnap の装置タイプ
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 – ADF 両面 2 – ADF 片面 3 – オーバーヘッドスキャナ
解説	ScanSnap の装置タイプを表します。

FILES セクション

キー名	FileCount (FILES セクション)
概要	実行アプリケーションに渡すデータファイルの総数
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 以上の整数値
解説	実行アプリケーションに渡すデータファイルの総数の情報です。

キー名	File* (FILES セクション)
概要	データファイルのフルパス
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	データファイルのフルパス
解説	データファイルのフルパスを表します。 * は、1 ～ FileCount の値になります。

キー名	KeywordFile (FILES セクション)
概要	マーカ一部分の文字列から PDF に設定したキーワードを出力したファイルのフルパス
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	マーカ一部分の文字列から PDF に設定したキーワードを出力したファイルのフルパス
解説	マーカ一部分の文字列から PDF に設定したキーワードを出力したファイルのフルパスを表します。

キー名	TotalPageCount (FILES セクション)
概要	出力総ページ数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 以上の整数値
解説	読み取りファイルのすべてを合わせた総ページ数です。

キー名	File*_PageCount (FILES セクション)
概要	ファイル内の総ページ数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 以上の整数値
解説	読み取りファイル内の総ページ数です。 * は、1 ～ FileCount の値になります。

SCAN セクション

キー名	Duplex (SCAN セクション)
概要	読み取り面
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – 片面読み取り 1 – 両面読み取り
解説	読み取り面を表します。

キー名	ScanMode (SCAN セクション)
概要	画質モード
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 – ノーマル 2 – ファイン 3 – スーパーファイン 4 – エクセレント 99 – 自動
解説	画質モードを表します。

キー名	ColorMode (SCAN セクション)
概要	カラーモード
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600

値	1 – カラー・白黒・グレー自動識別 2 – カラー 3 – 白黒 4 – カラー高圧縮 5 – グレー
解説	カラーモードを表します。

キー名	PaperSize (SCAN セクション)
概要	原稿サイズ
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	<ul style="list-style-type: none"> ● SV600 以外接続時 <ul style="list-style-type: none"> 1 – サイズ自動検出 2 – A4 (210×297mm) 3 – A5 (148×210mm) 4 – A6 (105×148mm) 5 – B5 (182×257mm) 6 – B6 (128×182mm) 7 – はがき (100×148mm) 8 – 名刺 (90×55mm、55×90mm) 9 – レター (8.5×11 インチ、216×279.4mm) 10 – リーガル (8.5×14 インチ、216×355.6mm) 99 – カスタムサイズ ● SV600 接続時 <ul style="list-style-type: none"> 1 – サイズ自動検出 (最大エリア) 2 – A4 横 (297×210mm) 3 – A5 横 (210×148mm) 4 – A6 横 (148×105mm) 5 – B5 横 (257×182mm) 6 – B6 横 (182×128mm) 7 – はがき横 (148×100mm) 8 – 名刺 (90×55mm) 9 – レター横 (11×8.5 インチ、279.4×216mm) 10 – リーガル横 (14×8.5 インチ、355.6×216mm) 11 – サイズ自動検出 (A4 横 / レター横エリア) 12 – A3 横 (420×297mm) 13 – B4 横 (364×257mm) 14 – 17×11 インチ (431.8×279.4mm) 99 – カスタムサイズ
解説	原稿サイズを表します。

キー名	FaceUp (SCAN セクション)
概要	上向き読み取り
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – 原稿を上向きにしてセットします OFF 1 – 原稿を上向きにしてセットします ON
解説	「原稿を上向きにしてセットします」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	Book (SCAN セクション)
概要	読み取る原稿の選択
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
値	0 – 平らな原稿で読み取り 1 – 見開き原稿で読み取り 2 – 後から選択で読み取り（平らな原稿出力） 3 – 後から選択で読み取り（見開き原稿出力）
解説	読み取る原稿の選択で指定されたものを表します。

キー名	MultiCrop (SCAN セクション)
概要	複数の原稿を検出
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
値	0 – 複数の原稿を検出 OFF 1 – 複数の原稿を検出 ON
解説	「複数の原稿を検出する」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	ColorConv (SCAN セクション)
概要	文字くっきり
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600

値	0 – 文字くっつきり OFF 1 – 文字くっつきり ON
解説	「文字をくっつきりします」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	FileFormat (SCAN セクション)
概要	ファイル形式
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – JPEG 1 – PDF
解説	ファイル形式を表します。

キー名	MonoBrightness (SCAN セクション)
概要	白黒濃度
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	-5 ～ 5 の範囲
解説	白黒濃度を表します。

キー名	ContentsDeskew (SCAN セクション)
概要	文字列の傾き補正
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「文字列の傾きを自動的に補正します」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	BlankCheck (SCAN セクション)
概要	白紙削除
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「白紙ページを自動的に削除します」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	DirCorrection (SCAN セクション)
概要	向きの選択
サポートバージョン	値「2」「3」「4」は、ScanSnap Manager V6.3L20 以降 値「5」「6」「7」は、ScanSnap Manager V6.3L24 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – 回転しない 1 – 自動判別 2 – 右 90 度回転（上 / 下とじ） 3 – 180 度回転（右 / 左とじ） 4 – 左 90 度回転（上 / 下とじ） 5 – 右 90 度回転（右 / 左とじ） 6 – 180 度回転（上 / 下とじ） 7 – 左 90 度回転（右 / 左とじ）
解説	向きの選択で指定されたものを表します。

キー名	ReduceBT (SCAN セクション)
概要	裏写り軽減
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「裏写りを軽減します」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	FileSize (SCAN セクション)
-----	-----------------------

概要	圧縮率
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	1 ～ 5 の範囲
解説	圧縮率を表します。

キー名	BookDivideType (SCAN セクション)
概要	見開き原稿の保存オプション
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.2L10 以降
サポート機種	SV600
値	0 – 1 ページで出力する 1 – 2 ページ（左、右の順）で出力する 2 – 2 ページ（右、左の順）で出力する
解説	見開き原稿の保存オプションで指定されたものを表します。

キー名	AutoComposite (SCAN セクション)
概要	表裏のイメージを自動的に合成
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	iX100
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「表裏のイメージを自動的に合成します」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	ContentCorrection (SCAN セクション)
概要	文字列の歪み補正
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「文字列の歪みを補正します」を有効にしたかどうかを表します。

キー名	DarkMode (SCAN セクション)
概要	カラー読み取り時の色を濃くするモード
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
サポート機種	SV600
値	0 – OFF 1 – ON
解説	「カラー読み取り時の色を濃くします」を有効にしたかどうかを表します。

マーカーキーワード検出結果ファイル

マーカーキーワード検出結果ファイルは、お客様が作成する実行アプリケーションに渡す、マーカーキーワードの検出結果が記述された INI ファイル形式のファイルです。ScanSnap Manager が、読み取り後に自動生成します。

以下に、マーカーキーワード検出結果ファイルのキー一覧を示します。

セクション	キー	タイプ	説明
FILES*	keyword***	String	マーカーキーワードの検出結果

セクション名の FILES* は、読み取り結果ファイルの File* に相当します。

重要

マーカーキーワード検出結果ファイルは、お客様が作成する実行アプリケーションで削除してください（ScanSnap Manager では削除しません）。

マーカーキーワード検出結果ファイルのキー説明

以下に、マーカーキーワード検出結果ファイルのキーについて示します。

FILES* セクション

キー名	keyword*** (FILES* セクション)
概要	マーカーキーワードの検出結果
サポート機種	S1xxx シリーズ、iXxxx シリーズ、SV600
値	マーカーキーワードの検出結果
解説	検出したマーカーキーワードのすべてを出力します。 *** は、001 ～検出結果総数（最大 999）になります。

データファイル

ScanSnap Manager のデータファイル

ScanSnap Manager のデータファイルは、ScanSnap で読み取ったデータ（PDF、JPEG）です。

ScanSnap Organizer のデータファイル

ScanSnap Organizer のデータファイルは、ScanSnap Organizer のファイル一覧に表示されているファイル（PDF、JPEG、その他）です。

CardMinder の名刺データファイル

CardMinder が実行アプリケーションに渡す名刺データファイルの形式は、以下の 2 種類があります。

- ContactXML 形式
- vCard 形式

ファイル形式は、連携設定ファイルで設定でき、さらに、ファイルの出力単位（複数名刺 1 ファイルまたは 1 名刺 1 ファイル）も設定できます。

重要

CardMinder の項目のうち、以下の項目は日本語、中国語だけとなります。



- 氏名フリガナ
- 会社名フリガナ

出力仕様

CardMinder が出力する各形式の仕様を示します。

ContactXML 形式

ContactXML 形式の出力仕様は、以下のとおりです。

バージョン	1.1
エンコード	UTF-16
作成者情報	 creator="http://www.pfu.fujitsu.com/wcard-app/xml/contact/CardMinder のバージョン"  creator="http://www.pfu.fujitsu.com/mcard-app/xml/contact/CardMinder のバージョン"
出力対象項目	CardMinder が管理する全項目（名刺イメージも含む）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● xml:lang 属性値はデータの内容を意識せず、OS の言語に合わせて、XML1.0 または IETF RFC 1766 で定められている言語・国複合コードを利用する。ScanSnap サポート言語以外の場合は英語とする。(*) ● 項目のデータの有無による出力条件 <ul style="list-style-type: none"> - 項目のデータがある場合 タグ（または属性）および内容出力する。 - 項目のデータがない場合 タグ（または属性）だけを出力し、内容を空にする。 ● 名刺イメージの有無による出力条件 <ul style="list-style-type: none"> - 名刺イメージがある場合 タグを出力する。 - 名刺イメージがない場合 タグを出力しない。

* : OS 言語と XML1.0 または IETF RFC 1766 で定められている言語・国複合コードとのマッピングは、以下のとおりです。



OS 言語	言語・国複合コード
日本語	ja-JP
英語	en
ドイツ語	de
フランス語	fr
イタリア語	it
スペイン語	es
中国語（簡体字）	zh-CN
中国語（繁体字）	zh-TW
韓国語	ko
ロシア語	ru
ポルトガル語	pt
上記以外（ScanSnap サポート言語以外）	en

ContactXML の XML 宣言、およびルート要素は、以下のとおりです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16" ?>
<ContactXML version="1.1"
  creator="http://www.pfu.fujitsu.com/wcard-app/xml/contact/5.0"
  xmlns="http://www.xmlns.org/2002/ContactXML">
  .
  .
</ContactXML>
```

vCard 形式

vCard 形式の出力仕様は、以下のとおりです。

バージョン	3.0
エンコード	 OS のデフォルト（例：日本語の場合は Shift-JIS）、または UTF-16  UTF-8
作成者情報	PRODID:-//PFU//CardMinder Version CardMinder のバージョン //EN
出力対象項目	CardMinder が管理する全項目（名刺イメージも含む） ただし、「会社名フリガナ」は vCard がないため出力対象外です。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 項目のデータの有無による出力条件 <ul style="list-style-type: none"> - 項目のデータがない場合 型名だけを出力する。 - 項目のデータがある場合 型名および内容を出力する。 ● 名刺イメージの有無による出力条件 <ul style="list-style-type: none"> - 名刺イメージがある場合 型名および内容を出力する。 - 名刺イメージがない場合 型名を出力しない。

vCard の構成は、以下のとおりです。

```
BEGIN:VCARD
VERSION:3.0
PRODID:-//PFU//CardMinder Version 5.0//EN
.
.
END:VCARD
BEGIN:VCARD
VERSION:3.0
PRODID:-//PFU//CardMinder Version 5.0//EN
.
.
END:VCARD
```


CardMinder の項目とのマッピング

CardMinder の項目と各形式の項目とのマッピングについて示します。

ContactXML 形式

CardMinder の項目と ContactXML の項目とのマッピングは、以下のとおりです。

項目の出力順、そのほかのタグについては ContactXML に準拠します。

No	CardMinder の項目		ContactXML	
			項目	項目に対応する値
1	氏名 (*1)	-	氏名	<FullName> 要素のテキスト値
		氏名のうち姓部分だけ	姓	<LastName> 要素のテキスト値
		氏名のうちミドルネーム部分だけ	ミドルネーム	<MiddleName> 要素のテキスト値
		氏名のうち名部分だけ	名	<FirstName> 要素のテキスト値
2	氏名フリガナ (*1)(*2)	-	氏名の読み	<FullName> 要素の pronunciation 属性値
		氏名フリガナのうち姓部分だけ	姓の読み	<LastName> 要素の pronunciation 属性値
		氏名フリガナのうちミドルネーム部分だけ	ミドルネームの読み	<MiddleName> 要素の pronunciation 属性値
		氏名フリガナのうち名部分だけ	名の読み	<FirstName> 要素の pronunciation 属性値
3	会社名		会社名	<OrganizationName> 要素のテキスト値
4	会社名フリガナ (*2)		会社名の読み	<OrganizationName> 要素の pronunciation 属性値
5	部署		部署	<Department> 要素のテキスト値
6	役職		役職	<JobTitle> 要素のテキスト値
7	郵便番号		郵便番号	<AddressCode codeDomain="ZIP7"> 要素のテキスト値
8	住所 (*1)		都道府県	<AddressLine xml:lang="en" addressLineType="Prefecture"> 要素のテキスト値 (*3)
			市区郡	<AddressLine xml:lang="en" addressLineType="City"> 要素のテキスト値 (*3)
			町名・番地	<AddressLine xml:lang="en" addressLineType="Number"> 要素のテキスト値 (*3)
9	国 / 地域名		国	<AddressLine xml:lang="en" addressLineType="Country"> 要素のテキスト値 (*3)
10	電話番号		電話	<PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Phone"> 要素のテキスト値

No	CardMinder の項目	ContactXML	
		項目	項目に対応する値
11	FAX 番号	FAX	<PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Fax"> 要素のテキスト値
12	携帯電話	携帯電話	<PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Cellular"> 要素のテキスト値
13	電子メール	電子メール	<EmailItem usage="Official" emailDevice="Unknown"> 要素のテキスト値
14	URL	ホームページ	<WebItem usage="Official"> 要素のテキスト値
15	メモ	メモ	<ExtensionItem xml:lang="en" extensionType="Common" name="Memo"> 要素のテキスト値 (*3)
16	登録日付	更新日	<ContactXMLItem> 要素の lastModifiedDate 属性値 * 「YYYY-MM-DD」形式で出力します。 例 : lastModifiedDate="2012-09-15"
17	イメージファイルのパス * 画面項目にはなし。	名刺イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ● PDF ファイル指定の場合 <div> <div>Windows</div> <p>表面イメージの PDF ファイル、裏面イメージの PDF ファイルをそれぞれ出力します。</p> <p><ImageItem imageSemantics="Others" url=" {表面の PDF ファイルパス} "/></p> <p><ImageItem imageSemantics="Others" url=" {裏面の PDF ファイルパス} "/></p> </div> <div> <div>Mac OS</div> <p>表面イメージおよび裏面イメージを持つ PDF ファイルを出力します。</p> <p><ImageItem imageSemantics="Others" url=" {表面 / 裏面の PDF ファイルパス} "/></p> </div> ● JPEG ファイル指定の場合 <p>表面イメージの JPEG ファイル、裏面イメージの JPEG ファイルをそれぞれ出力します。</p> <p><ImageItem imageSemantics="Others" contentType="image/jpeg" url=" {表面の JPEG ファイルパス} "/></p> <p><ImageItem imageSemantics="Others" contentType="image/jpeg" url=" {裏面の JPEG ファイルパス} "/></p>

*1 : 「氏名」、「氏名フリガナ」、「住所」の分割方法について

CardMinder 独自の氏名分割ロジック、住所分割ロジックによって分割します。

*2 : 「氏名フリガナ」、「会社名フリガナ」について

ContactXML の規約では日本語を指定する場合は全角カタカナを出力するとしていますが、CardMinder ではユーザーが入力した値を優先するため、全角カタカナへの変換は行わずユーザーが入力した値をそのまま出力します。

*3 : xml:lang の設定値は、OS 言語によって異なります。

vCard 形式

CardMinder の項目と vCard の項目とのマッピング、および出力順は、以下のとおりです。
そのほかについては、vCard に準拠します。

出力 順	CardMinder の項目と vCard の項目とのマッピング * 斜体文字は CardMinder の項目を示す	備考
1	N: 氏名のうち姓部分だけ; 氏名のうち名部分だけ	姓: 型名 N の第 1 フィールド 名: 型名 N の第 2 フィールド (*)
2	FN: 氏名	
3	SORT-STRING: 氏名フリガナ	
4	X-PHONETIC-FIRST-NAME: 氏名フリガナのうち名部分だけ	(*)
5	X-PHONETIC-LAST-NAME: 氏名フリガナのうち姓部分だけ	(*)
6	ORG: 会社名; 部署	会社名: 型名 ORG の第 1 フィールド 部署: 型名 ORG の第 2 フィールド
7	TITLE: 役職	
8	TEL;type=WORK;type=VOICE;type=pref: 電話番号	
9	TEL;type=WORK;type=FAX:FAX 番号	
10	TEL;type=CELL;type=VOICE: 携帯番号	
11	ADR;type=WORK;type=pref;;; 住所; 郵便番号; 国/ 地域名	住所については分割して出力するため、 以下のとおりとなります。(*) ADR;type=WORK;type=pref;;; 町名・番地 ; 市区郡; 都道府県; 郵便番号; 国/ 地域名 町名・番地: 型名 ADR の第 3 フィールド 市区郡: 型名 ADR の第 4 フィールド 都道府県: 型名 ADR の第 5 フィールド 郵便番号: 型名 ADR の第 6 フィールド 国/ 地域名: 型名 ADR の第 7 フィールド
12	URL;type=WORK;type=pref:URL	
13	EMAIL;type=INTERNET;type=WORK;type=pref: 電子 メール	
14	NOTE: メモ	

出力 順	CardMinder の項目と vCard の項目とのマッピング * 斜体文字は CardMinder の項目を示す	備考
15	PHOTO;VALUE=URL: <i>イメージファイルのパス</i>	<p>イメージファイルのパス</p> <p>*CardMinder の画面項目にはなし。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● PDF ファイル指定の場合 <p>Windows</p> <p>表面イメージの PDF ファイル、裏面イメージの PDF ファイルをそれぞれ出力します。</p> <p>Mac OS</p> <p>表面イメージおよび裏面イメージを持つ PDF ファイルを出力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● JPEG ファイル指定の場合 <p>表面イメージの JPEG ファイル、裏面イメージの JPEG ファイルをそれぞれ出力します。</p>
16	REV: <i>登録日付</i>	「YYYY-MM-DD」形式で出力します。

* : 「氏名」、「氏名フリガナ」、「住所」の分割方法について
CardMinder 独自の氏名分割ロジック、住所分割ロジックによって分割します。

項目の最大文字数

各項目の最大文字数は、以下のとおりです。

No	CardMinder の項目	ContactXML、vCard の項目	最大文字数
1	氏名	姓、ミドルネーム、名	64 文字
2	氏名フリガナ	姓の読み、ミドルネームの読み、名の読み	64 文字
3	会社名	会社名	128 文字
4	会社名フリガナ (*)	会社名の読み	128 文字
5	部署	部署	128 文字
6	役職	役職	128 文字
7	郵便番号	郵便番号	40 文字
8	住所	都道府県、市区郡、町名・番地	255 文字
9	国 / 地域名	国	32 文字
10	電話番号	電話	40 文字
11	FAX 番号	FAX	40 文字
12	携帯電話	携帯電話	40 文字
13	電子メール	電子メール	128 文字
14	URL	ホームページ	128 文字
15	メモ	メモ	256 文字
16	登録日付	更新日	10 文字
17	イメージファイルのフルパス	名刺イメージ	 260 文字  1023 文字

* : vCard には「会社名フリガナ」は出力されません。

出力例

出力例を以下に示します。

ContactXML 形式

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-16"?>
<ContactXML version="1.1" creator="http://www.pfu.fujitsu.com/wcard-app/xml/contact/5.0" xmlns="http://
www.xmlns.org/2002/ContactXML">
  <ContactXMLItem lastModifiedDate="2012-03-03">
    <PersonName>
      <PersonNameItem xml:lang="ja-JP">
        <FullName pronunciation=" イシカワ タロウ "> 石川 太郎 </FullName>
        <FirstName pronunciation=" タロウ "> 太郎 </FirstName>
        <MiddleName pronunciation=""></MiddleName>
        <LastName pronunciation=" イシカワ "> 石川 </LastName>
      </PersonNameItem>
    </PersonName>
    <Address>
      <AddressItem locationType="Office">
        <AddressCode codeDomain="ZIP7">100-0005</AddressCode>
        <FullAddress xml:lang="ja-JP"> 東京都千代田区丸の内 1 - 2 - 3 </FullAddress>
        <AddressLine xml:lang="ja-JP" addressLineType="Country"> 日本 </AddressLine>
        <AddressLine xml:lang="ja-JP" addressLineType="Prefecture"> 東京都 </AddressLine>
        <AddressLine xml:lang="ja-JP" addressLineType="City"> 千代田区 </AddressLine>
        <AddressLine xml:lang="ja-JP" addressLineType="Number"> 丸の内 1 - 2 - 3 </AddressLine>
      </AddressItem>
    </Address>
    <Occupation>
      <OccupationItem xml:lang="ja-JP">
        <OrganizationName pronunciation=" カイシャメイフリガナ "> 会社名 </OrganizationName>
        <Department> 部署 </Department>
        <JobTitle> 役職 </JobTitle>
      </OccupationItem>
    </Occupation>
    <Phone>
      <PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Phone">12345-0001</PhoneItem>
      <PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Fax">12345-0002</PhoneItem>
      <PhoneItem usage="Official" phoneDevice="Cellular">12345-0003</PhoneItem>
    </Phone>
    <Email>
      <EmailItem usage="Official" emailDevice="Unknown">ishikawa@aiueo.com</EmailItem>
    </Email>
    <Web>
      <WebItem usage="Official">http://www.aiueo.com/</WebItem>
    </Web>
```

```

<Image>
  <ImageItem url="file:///C:/¥ Users ¥ username ¥ AppData ¥ Local ¥ Temp ¥ ~cm0001 ¥ 5_N1.pdf"
imageSemantics="Others" />
  <ImageItem url="file:///C:/¥ Users ¥ username ¥ AppData ¥ Local ¥ Temp ¥ ~cm0001 ¥ 5_N2.pdf"
imageSemantics="Others" />
</Image>
<Extension>
  <ExtensionItem xml:lang="ja-JP" extensionType="Common" name="Memo"> メモ </ExtensionItem>
</Extension>
</ContactXMLItem>
</ContactXML>
<ContactXMLItem lastModifiedDate="2012-03-16">
  :
  :
</ContactXMLItem>
</ContactXML>

```

vCard 形式

```

BEGIN:VCARD
VERSION:3.0
PRODID:-//PFU//CardMinder Version 5.0//EN
N: 石川 ; 太郎 ;;
FN: 石川 太郎
SORT-STRING: イシカワ タロウ
X-PHONETIC-FIRST-NAME: タロウ
X-PHONETIC-LAST-NAME: イシカワ
ORG: 株式会社あいうえお ; 東京事務所第 1 営業部第 2 営業課
TITLE: 課長
TEL;type=WORK;type=VOICE;type=pref:(03)123-4567
TEL;type=WORK;type=FAX:(03)123-4568
TEL;type=CELL;type=VOICE:090-1234-5678
ADR;type=WORK;type=pref;;; 丸の内 1 - 2 - 3 ; 千代田区 ; 東京都 ;100-0005; 日本
URL;type=WORK;type=pref:http://www.aiueo.com/
EMAIL;type=INTERNET;type=WORK;type=pref:ishikawa@aiueo.com
NOTE: メモの内容
PHOTO;VALUE=URL:file:///C:/¥ Users ¥ username ¥ AppData ¥ Local ¥ Temp ¥ ~cm0001 ¥ 5_N1.pdf
PHOTO;VALUE=URL:file:///C:/¥ Users ¥ username ¥ AppData ¥ Local ¥ Temp ¥ ~cm0001 ¥ 5_N2.pdf
REV:2012-03-16
END:VCARD
BEGIN:VCARD
:
:
END:VCARD

```

ScanSnap Manager 制御コマンド

ここでは、ScanSnap Manager をお客様の作成するアプリケーションから制御するコマンドについて説明します。

ScanSnap Manager 制御コマンドについて 129

ScanSnap Manager 制御コマンドについて

ScanSnap Manager 制御コマンドとは、お客様が作成する実行アプリケーションから ScanSnap Manager を制御するためのコマンドです。

コマンドの呼び出しは、すべて SendMessage 関数（Win32 API）を使用します。

SendMessage 関数（Win32 API）に渡すパラメーターは、以下のとおりです。

型	名前	値
HWND	hwnd	FindWindow ("ScanSnap Manager MainWndClass", NULL) で得られる値
UINT	MSG	WM_COPYDATA
WPARAM	wParam	NULL
LPARAM	lParam	渡されるデータを格納した COPYDATASTRUCT 構造体へのポインター

ScanSnap Manager 制御コマンド一覧

コマンド名	概要
制御権の取得 (Reserve)	実行アプリケーション制御を取得します。 本コマンドによって、ほかのアプリケーションへの切り替えを抑止し、該当の実行アプリケーションだけ連携します。
制御権の解放 (Release)	実行アプリケーション制御を解放します。 本コマンドによって、制御権の取得（Reserve）していた状態を解除します。
読み取り開始 (StartScan)	読み取りを開始します。 本コマンドによって、読み取りを開始します。
自動連携の通知	アプリケーションの起動または終了を通知します。 本コマンドによって、自動連携（常に連携）時に、自動連携状態を変更します。
接続装置情報の取得 (GetScannerInfo)	接続されているスキャナ情報を出力します。 本コマンドによって、接続されているスキャナ情報を指定の ini ファイルに書き込みを行います。
テキスト認識言語の インストール状態取得 (GetSearchableLangInfo)	指定した言語がインストールされているか、OCR が利用可能かを判別します。 本コマンドによって、指定のテキスト認識言語が利用可能かどうかを取得します。

重要

- 実行アプリケーションで、常に Reserve コマンドを呼び出したままの状態にしないでください。
読み取りを行う直前など必要最低限で Reserve コマンドを呼び出し、読み取りが終わったあとは、速やかに Release コマンドを呼び出してください。
- 制御権の取得（Reserve）コマンドと自動連携の通知コマンドの両方を同じ実行アプリケーションから利用する場合は、以下に注意してください。
制御権の解放（Release）コマンドを発行すると、自動連携状態も変更され、終了通知された状態になります。
その場合は、自動連携の通知（開始）コマンドを再度発行してください。

実行アプリケーションのコマンドフロー

コマンドフロー	コマンドの呼び出し タイミング	ScanSnap Manager の処理
制御権の取得 (Reserve)	読み取りを行う直前など	指定の実行アプリケーションに切り替え、ほかのアプリケーションへの切り替え操作を抑止する。
↓		
接続装置情報の取得 (GetScannerInfo)	接続されているスキャナ情報を取得する必要があるときなど	接続されているスキャナ情報を指定の ini ファイルに書き込む。
↓		
テキスト認識言語の インストール状態取得 (GetSearchableLangInfo)	テキスト認識言語をアプリケーションから指定する場合など	指定のテキスト認識言語が利用可能かどうかを返却する。
↓		
読み取り開始 (StartScan)		指定した読み取り方法で読み取りを開始する。
↓		
制御権の解放 (Release)	読み取りが終わったあとなど	ほかのアプリケーションへの切り替えの抑止処理をやめる。
↓		
自動連携の通知 (開始)	アプリケーション起動時など	指定の実行アプリケーションに切り替え、ほかのアプリケーションへの切り替え操作を抑止する。
↓		
自動連携の通知 (終了)	アプリケーション終了時など	ほかのアプリケーションへの切り替えの抑止処理をやめる。

制御権の取得（Reserve）コマンド

本メッセージを受け取ると、ScanSnap Manager は、該当する実行アプリケーションに切り替え、ほかのアプリケーションへの切り替えを抑止します。

本コマンド受信後は、以下の操作（機能）が無効となります。

- アプリケーションの選択
- 読み取り設定の切り替え
- クイックメニューモードの切り替え（常にクイックメニューモードは OFF となる）
- アプリケーション自動連携
- 読み取り設定の管理（追加 / 変更 / 削除）
- e- 文書モードの切り替え（e- 文書モードは eScanMode キーに応じて固定される）
- 名刺ファイリング OCR（CardMinder）からの読み取り処理
- ScanSnap Folder 機能

制御権の取得（Reserve）を解放（解除）するには、以下の操作が必要です。

- 制御権の解放（Release）コマンドを発行する（制御権を取得したアプリケーションと同じアプリケーションであること）。
- ScanSnap Manager を再起動する（システムの再起動を含む）。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体（Win32 API 定義済み構造体）

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	2 を設定する。
cbData	DWORD	SS_NOTIFY 構造体サイズ（sizeof (SS_NOTIFY)） 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_NOTIFY 構造体のポインターを設定する。

SS_NOTIFY 構造体

```
typedef struct tag SS_NOTIFY
{
    DWORD   Mode;
    char     AppName[255];
} SS_NOTIFY, * PSS_NOTIFY;
```

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	0 : 制御権の取得 (Reserve)
AppName	char [255]	実行アプリケーションキー (NULL 終端設定) レジストリー登録したアプリケーションのキー名を指定 例 : HKLM¥Software¥PFU¥ScanSnap Extension¥ImageConnections として連携登録した場合は、「ImageConnections」を設定する。

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了
0 以外	エラー
1	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
2	不正な AppName が指定された
3	制御権の取得 (Reserve) コマンドを受信済み
5	パラメーターエラー

備考

本コマンドを呼び出した場合は、必ず、制御権の解放 (Release) コマンドを呼び出してください。

以下の場合は、制御権の取得 (Reserve) に失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap Manager が別の実行アプリケーションで制御権が取得されている
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

制御権の解放（Release）コマンド

本メッセージを受け取ると、ScanSnap Manager は、実行アプリケーションの制御権の取得を解放し、ほかのアプリケーションへの切り替え操作を可能にし、制御権の取得前の読み取り設定に戻します。

ヒント

該当する実行アプリケーションの読み取り設定のパラメーターは、お客様が変更した値となります。

制御権の解放（Release）は、制御権を取得したアプリケーションと同じアプリケーションである必要があります。

また、ScanSnap Manager の再起動（システム再起動）でも解放されます。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体（Win32 API 定義済み構造体）

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	2 を設定する。
cbData	DWORD	SS_NOTIFY 構造体サイズ（sizeof (SS_NOTIFY)） 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_NOTIFY 構造体のポインターを設定する。

S_NOTIFY 構造体

```
typedef struct tag SS_NOTIFY
{
    DWORD   Mode;
    char     AppName[255];
} SS_NOTIFY, * PSS_NOTIFY;
```

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	1：制御権の解放（Release） 2：制御権の強制解放
AppName	char [255]	実行アプリケーションキー（NULL 終端設定） レジストリー登録したアプリケーションのキー名を指定 例： HKLM¥Software¥PFU¥ScanSnap Extension¥ImageConnections として連携登録した場合は、「ImageConnections」を設定する。

【制御権の解放（Release）】

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了
0 以外	エラー
1	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
2	不正な AppName が指定された、制御権の取得（Reserve）コマンドと異なる AppName が渡された
4	制御権の解放（Release）済み（制御権取得されていない状態でのコマンド発行）
5	パラメーターエラー

備考

以下の場合、制御権の解放（Release）コマンドに失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- 別の実行アプリケーションで制御権が取得（Reserve）されている
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

【制御権の強制解放】

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了
1	制御権解放予約の受け付け
0、1 以外	エラー
2	不正な AppName が指定された、制御権の取得（Reserve）コマンドと異なる AppName が渡された
4	制御権の解放（Release）済み（制御権取得されていない状態でのコマンド発行）
5	パラメーターエラー

備考

読み取り中、ScanSnap Manager の画面表示中に制御権の強制解放コマンドが発行された場合は、各処理が終わった時点で解放処理を行います。読み取り中であれば、読み取り終了後に解放処理を行います。

また、以下の場合、制御権の強制解放コマンドに失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- 別の実行アプリケーションで制御権が取得（Reserve）されている

読み取り開始（StartScan）コマンド

本メッセージを受け取ると、ScanSnap Manager は指定の読み取り方法で読み取りを開始します。

ヒント

右クリックメニューでの「両面読み取り」/「片面読み取り」/「読み取り」と同じ操作となります。

連携設定ファイルで読み取り面を制限（「Scanning」セクションの「ScanningSide」キーを設定）した場合は、必ず、本コマンドでも読み取り面が同じになるようにしてください。異なる場合、動作保証されません。

本コマンドは、読み取り処理終了後（アプリケーション連携後）に制御を戻します。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体（Win32 API 定義済み構造体）

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	3 を設定する。
cbData	DWORD	SS_SCAN 構造体サイズ（sizeof (SS_SCAN)） 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_SCAN 構造体のポインターを設定する。

SS_SCAN 構造体

```
typedef struct tag SS_SCAN
{
    DWORD   Mode;
    BOOL     ScanningSide;
} SS_SCAN, * PSS_SCAN;
```

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	0：通常読み取り開始 1：e- 文書モード読み取り開始 * 値「1」は、ScanSnap Manager V6.3L30 以降で使用できます。
ScanningSide	BOOL	0：両面読み取り（ただし、片面機の場合、片面読み取り） 1：片面読み取り

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了 読み取り処理の完了後に復帰（連携アプリケーション起動後に復帰する）
0 以外	エラー
1	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
5	パラメーターエラー
6	ScanSnap が接続されていない、ScanSnap がモバイル機器で使用中など読み取り不可状態
7	e- 文書モード読み取りをサポートしていない ScanSnap が接続されている、または複数の ScanSnap が接続されている
8	アプリケーションが e 文書画質をサポートしていない

* 値「7」「8」は、ScanSnap Manager V6.3L30 以降の場合に返されます。

備考

本コマンド発行前に、制御権の取得（Reserve）コマンドを発行してください。

制御権の取得（Reserve）コマンドが発行されていないと、「アプリケーションの選択」で設定されているアプリケーションに連携されます。

以下の場合、読み取り開始（StartScan）コマンドは失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap が接続されていない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中
- e- 文書モード読み取りをサポートしていない ScanSnap が接続されている、または複数の ScanSnap が接続されている（e- 文書モード読み取り開始の場合のみ）
- 連携設定ファイルの「eScanMode」キーに「0」が指定されている（e- 文書モード読み取り開始の場合のみ）

また、右クリックメニューの「両面読み取り」/「片面読み取り」/「読み取り」が無効の場合は、読み取りできません。

自動連携の通知コマンド

連携設定ファイルで、自動連携（常に連携）が指定されている場合、ScanSnap Manager が本メッセージを受け取ると自動連携状態を変更します。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体（Win32 API 定義済み構造体）

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	1 を設定する。
cbData	DWORD	SS_NOTIFY_AUTOCONNECT 構造体サイズ (sizeof(SS_NOTIFY_AUTOCONNECT)) 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_NOTIFY_AUTOCONNECT 構造体のポインターを設定する。

SS_NOTIFY_AUTOCONNECT 構造体

```
typedef struct tagSS_NOTIFY_AUTOCONNECT
{
    DWORD   Mode;
    char     AppName[255];
    char     ExeName[255];
}SS_NOTIFY_AUTOCONNECT, *PSS_NOTIFY_AUTOCONNECT;
```

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	0 : 起動通知 1 : 終了通知
AppName	char [255]	実行アプリケーションキー（NULL 終端設定） レジストリー登録したアプリケーションのキー名を指定 例： HKLM¥Software¥PFU¥ScanSnap Extension¥ImageConnections として連携登録した場合は、「ImageConnections」を設定する。
ExeName	char [255]	本メッセージを通知する実行ファイル名を指定（NULL 終端設定）

接続装置情報の取得（GetScannerInfo）コマンド

本コマンドは、以下のバージョンで使用できます。

- ScanSnap Manager V6.3L20 以降

本メッセージを受け取ると、ScanSnap Manager は、その時点で接続されているスキャナ情報を指定の ini ファイルに書き込みを行います。

本コマンドは、書き込み終了後に制御を戻します。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体（Win32 API 定義済み構造体）

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	5 を設定する。
cbData	DWORD	SS_GETINFO 構造体サイズ (sizeof(SS_GETINFO)) 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_GETINFO 構造体のポインターを設定する。

SS_GETINFO 構造体

```
typedef struct tag SS_GETINFO
{
    DWORD   Mode;
    char     FileName[MAX_PATH];
}SS_GETINFO, *PSS_GETINFO;
```

* 構造体のアライメントは、4byte とする

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	0 : 接続装置情報の取得
FileName	char [MAX_PATH]	装置情報の出力先ファイル名をフルパスで指定（NULL 終端設定）

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了 書き込み完了後に復帰
0 以外	エラー
1	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
5	パラメーターエラー
6	ScanSnap が接続されていない、ScanSnap がモバイル機器で使用中など読み取り不可状態

備考

FileName に指定したファイル名が存在する場合は、既存のファイルを上書きします。

以下の場合、接続装置情報の取得（GetScannerInfo）コマンドは失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap が接続されていない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

接続装置情報出力ファイル仕様

セクション名	キー名	タイプ（型）	説明
INFO	ScannerCount	Int	接続装置数
	ManagerVersion	String	ScanSnap Manager バージョン
SCANNER*** *** は、1 ～ ScannerCount になります。	ScannerName	String	装置名
	ScannerIcon	String	装置アイコンのパス
	Duplex	Int	両面サポート機
	EScan	Int	e- 文書モードサポート機
	CarrierSheet	Int	キャリアシートサポート機
	A3Size	Int	A3 サイズサポート機
	Book	Int	Book 読み取りサポート機
	Wifi	Int	Wi-Fi サポート機
	PageCount	Int	総スキャン枚数
	RollerSetCount	Int	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数
	PadAssy	Int	パッド使用回数
	SerialNo	String	シリアル番号
	FirmVersion	String	ファームウェアバージョン

接続装置情報出力ファイルのキー説明

セクション名	INFO
キー名	ScannerCount
概要	接続装置数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	1 – 1 台接続 2 – 2 台接続
解説	接続装置数を表します。

セクション名	INFO
キー名	ManagerVersion
概要	ScanSnap Manager バージョン
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	ScanSnap Manager バージョン
解説	ScanSnap Manager のバージョンを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	ScannerName
概要	装置名
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	ScanSnap iX500 – ScanSnap iX500 接続時 ScanSnap iX100 – ScanSnap iX100 接続時 ScanSnap S1500 – ScanSnap S1500 接続時 ScanSnap S1300i – ScanSnap S1300i 接続時 ScanSnap S1300 – ScanSnap S1300 接続時 ScanSnap S1100 – ScanSnap S1100 接続時 ScanSnap SV600 – ScanSnap SV600 接続時
解説	"ScanSnap iX500" などの装置名を表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	ScannerIcon
概要	装置アイコンへのフルパス

サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	装置アイコンへのフルパス
解説	装置アイコンへのフルパスを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	Duplex
概要	両面サポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – 片面機 1 – 両面機
解説	両面サポート機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	EScan
概要	e- 文書モードサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – e- 文書モード未サポート機 1 – e- 文書モードサポート機
解説	e- 文書モードサポート機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	CarrierSheet
概要	キャリアシートサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – キャリアシート未サポート機 1 – キャリアシートサポート機
解説	キャリアシートサポート機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	A3Size
概要	A3 サイズサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降

値	0 – A3 サイズ未対応（リーガルサイズサポート） 1 – A3 サイズ対応（ダブルレターサイズサポート）
解説	A3 サイズサポート機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	Book
概要	Book 読み取りサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – Book 読み取り未サポート機 1 – Book 読み取りサポート機
解説	Book 読み取りサポート機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	Wifi
概要	Wi-Fi 対応機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – Wi-Fi 未サポート機 1 – Wi-Fi サポート機
解説	Wi-Fi 対応機かどうかを表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	PageCount
概要	総スキャン枚数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	総スキャン枚数
解説	総スキャン枚数を表します。

セクション名	SCANNER***
キー名	RollerSetCount
概要	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数

解説	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数を表します。 本キーは、ScanSnap iX100、ScanSnap S1100、ScanSnap SV600 接続時には出力されません。
-----------	---

セクション名	SCANNER***
キー名	PadAssy
概要	パッド使用回数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	パッド使用回数
解説	パッド使用回数を表します。 本キーは、ScanSnap iX100、ScanSnap S1100、ScanSnap SV600 接続時には出力されません。

セクション名	SCANNER***
キー名	SerialNo
概要	シリアル番号
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	シリアル番号
解説	装置のシリアル番号を表します。 本キーは、ScanSnap iX500 の Wi-Fi 接続時には出力されません。

セクション名	SCANNER***
キー名	FirmVersion
概要	ファームウェアバージョン
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	ファームウェアバージョン
解説	装置のファームウェアバージョンを表します。

テキスト認識言語のインストール状態取得 (GetSearchableLangInfo) コマンド

本コマンドは、以下のバージョンで使用できます。

- ScanSnap Manager V6.5L40 以降

本メッセージを受け取ると、ScanSnap Manager は、指定のテキスト認識言語が利用可能かを返却します。

コマンド仕様

COPYDATASTRUCT 構造体 (Win32 API 定義済み構造体)

値	型	説明
dwData	ULONG_PTR	7 を設定する。
cbData	DWORD	SS_GETSLANGINFO 構造体サイズ (sizeof (SS_GETSLANGINFO)) 4 バイトアライメントとする。
lpData	PVOID	SS_GETSLANGINFO 構造体のポインターを設定する。

SS_GETSLANGINFO 構造体

```
typedef struct tag SS_GETSLANGINFO
{
    DWORD Mode;
    DWORD Lang;
}SS_GETSLANGINFO, * PSS_GETSLANGINFO;
```

説明

値	型	説明
Mode	DWORD	0 : 指定言語のテキスト認識言語のインストール状態取得
Lang	DWORD	インストール状態を取得したい言語の値 SearchableLang キーの値を指定

本コマンドの戻り値

0	コマンド正常終了
0 以外	エラー
1	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
5	パラメーターエラー
9	指定のテキスト認識言語がインストールされていない

備考

以下の場合は、テキスト認識言語のインストール状態取得（GetSearchableLangInfo）コマンドは失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

ScanSnap 関連ソフトウェアの状態の チェック方法および操作方法

ここでは、ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法、および起動や終了操作方法について説明します。

インストールされているかのチェック	147
起動しているかのチェック	147
バージョンのチェック	147
起動の方法	148
終了の方法	148

インストールされているかのチェック

ScanSnap Manager がインストールされているかどうかのチェックは、以下のレジストリーキーの既定の値を取得し、そのファイルの存在をチェックします。

キー :

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Microsoft ¥ Windows ¥ CurrentVersion ¥
App Paths ¥ PfuSsMon.exe

起動しているかのチェック

ScanSnap Manager が起動しているかどうかのチェックは、関数の戻り値である ScanSnap Manager のウィンドウハンドルが取得できるかどうか（NULL かどうか）でチェックします。

HWND hSsWnd = FindWindow("ScanSnap Manager MainWndClass", NULL);
hSsWnd が NULL 以外の場合 : ScanSnap Manager は起動している
hSsWnd が NULL の場合 : ScanSnap Manager は起動していない

バージョンのチェック

ScanSnap Manager

ScanSnap Manager のバージョンをチェックするには、ScanSnap Manager のインストールフォルダー配下にある「PfuSsMonVL.ini」から、「COMMON」セクションの「VERSION」キーの値を取得してください。ファイルは、読み取り専用で開いてください。ScanSnap Manager のインストールフォルダーは、以下のレジストリーキーの「Path」の値を取得してください。

キー :

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Microsoft ¥ Windows ¥ CurrentVersion ¥
App Paths ¥ PfuSsMon.exe

ScanSnap Organizer

ScanSnap Organizer のバージョンをチェックするには、以下のレジストリキーの「Version」の値を取得してください。

キー :

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ PFU ¥ ScanSnap Organizer

CardMinder

CardMinder のバージョンをチェックするには、CardLauncher.exe のファイルバージョンをチェックしてください。

CardLauncher.exe の配置先は、以下のレジストリーキーの「Path」の値を参照してください。

キー :

HKEY_LOCAL_MACHINE ¥ SOFTWARE ¥ Microsoft ¥ Windows ¥ CurrentVersion ¥ App Paths ¥ CardLauncher.exe

起動の方法

ScanSnap Manager を起動するには、CreateProcess() 関数または ShellExecute() 関数などを使用します。引数には、[「インストールされているかのチェック」](#) (147 ページ) で得られたファイルパスを指定します。

重要

- ログオンしているユーザーの権限で起動してください。ログオンしているユーザーと違う権限で ScanSnap Manager を起動した場合は、ほかのアプリケーションとの通信が正常に行われません。
- サービスからの起動はサポートしていません。

終了の方法

ScanSnap Manager を終了するには、以下のメッセージをポストします。引数には、[「起動しているかのチェック」](#) (147 ページ) で得られた ScanSnap Manager のウィンドウハンドルを指定します。

```
for (;;) {  
    HWND hSsWnd = FindWindow("ScanSnap Manager MainWndClass", NULL);  
    if (hSsWnd) {  
        PostMessage(hSsWnd, WM_CLOSE, 0, 0);  
        sleep(500);  
    }  
    else {  
        break;  
    }  
}
```

以下の場合は、ScanSnap Manager を終了できません。

- 読み取り中
- 画面表示中

右クリックメニューの「終了」が無効の場合は、終了できません。

Mac OS 編

ここでは、お客様が作成したアプリケーションと ScanSnap に添付のソフトウェアを連携する方法（Mac OS 編）について説明します。

クイックメニューと連携する	151
CardMinder と連携する	161
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	171
連携設定ファイルの記述方法	181
出力されるファイルの内容	213
ScanSnap Manager 制御イベント	219
ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法および操作方法	234
サンドボックス対応について	238

クイックメニューと連携する

ここでは、ScanSnap Manager のクイックメニューとお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明します。

連携方法	152
サンプルプログラム	158

連携方法

ScanSnap Manager のクイックメニューとお客様が作成したアプリケーションを連携するには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [152 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [154 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [155 ページ](#))
4. 連携設定ファイルを配置する (→ [157 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- ScanSnap Manager からのファイルの受け取り方
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

ScanSnap Manager からのファイルの受け取り方

お客様が作成する実行アプリケーションで ScanSnap Manager からファイルを受け取るために、OS 標準のファイル受け取りメソッド (NSApplicationDelegate プロトコルのメソッド application:openFiles: または NSDocument クラスのメソッド readFromURL:ofType:error) を実装します。

- 連携設定ファイルの「Launch」キーの「ResultFileType」キーの値が「0」の場合、読み取った PDF または JPEG ファイルを受け取ります。
- 連携設定ファイルの「Launch」キーの「ResultFileType」キーの値が「1」の場合、読み取った PDF または JPEG ファイル名が書かれた結果ファイルを受け取ります。結果ファイルは、「~/Library/Caches/TemporaryItems/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/temp/」フォルダー配下に作成されます (詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」(213 ページ) を参照してください)。結果ファイルは、不要になったら、実行アプリケーションから削除してください。ScanSnap Manager からは削除しません。


- 読み取った PDF または JPEG ファイルは、不要になったら、実行アプリケーションから削除してください。ScanSnap Manager からは削除しません。

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時にエラーが発生した場合、表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ	選択したアプリケーションの起動に失敗しました。
原因	選択したアプリケーションがアンインストールされた可能性があります。
対処	選択したアプリケーションが正しくインストールされているかを確認してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。
設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、クイックメニューに表示された実行アプリケーションの  から起動できます。

- ScanSnap Manager からの設定保存ファイルの受け取り方
- 設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager からの設定保存ファイルの受け取り方

お客様が作成する設定画面アプリケーションで ScanSnap Manager から設定保存ファイルを受け取る場合は、OS 標準のファイル受け取りメソッド（NSApplicationDelegate プロトコルのメソッド application:openFiles: または NSDocument クラスのメソッド readFromURL:ofType:error）を実装します。

設定画面アプリケーションで設定した内容をファイルで保存するには、設定画面アプリケーションが終了する前に、受け取った設定保存ファイルに出力して保存してください。設定保存ファイルは、お客様が作成した設定画面アプリケーションが使用するための plist 形式のファイルです。
クイックメニューから呼び出された場合の専用の設定として保存できます。

設定した内容をお客様が作成するアプリケーション独自のファイルに保存する場合は、ファイル受け取りメソッドの実装は必要ありません。

設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager は、お客様が作成する設定画面アプリケーションの終了を待ち合わせます。

ScanSnap Manager は、起動した設定画面アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。

設定が完了したら、お客様が作成する設定画面アプリケーションを終了してください。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、XML 形式の plist ファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。

連携設定ファイル名は、*Bundle identifier.XXX.plist* (*Bundle identifier* は実行アプリケーションの *Bundle identifier* を指定、*XXX* は任意の名前) としてください。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(182 ページ) を参照してください。

ここでは、クイックメニューから連携する場合に必要なとなる主な項目について記載します。

キー		設定値	説明
Info	FileVersion	1	連携設定ファイルの版数の指定
	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	AppPath	必要なら指定	実行アプリケーションの app のフルパス
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
	QuickMenu	1	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか
	QuickMenuDescription	必要なら指定	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列
	QuickMenuLabel	必要なら指定	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列
	ResultFileType	指定	データファイルの受け取り方法の指定
	SaveFolderMode	必要なら指定	クイックメニュー連携時のイメージの保存先のモード指定
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの app のフルパス
	UseAppSetting	指定	アプリケーションの設定の保存方法の指定
Scanning	SaveFolder	必要なら指定	保存先フォルダーの指定の制限

* : 設定画面を指定する場合

以下に、「UseAppSetting」キーの指定値について説明します。

- 「Application」キーの「UseAppSetting」キーの値が「1」の場合、クイックメニュー専用の設定保存ファイル（読み取り設定メニューの場合は各読み取り設定専用の設定保存ファイル）を指定して、設定を呼び出します。
「UseAppSetting」キーに「1」を指定する場合は、「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定してください。
- 「Application」キーの「UseAppSetting」キーの値が「0」またはキーがない場合、設定保存ファイルを指定しないで、設定画面アプリケーションを呼び出します。

以下に、実行アプリケーションが設定呼び出しをサポートする場合の記述例を示します。

```
<key>Info</key>
<dict>
    <key>FileVersion</key>
    <integer>1</integer>
    <key>IFVersion</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Launch</key>
<dict>
    <key>AppPath</key>
    <string>/Applications/ImageConnections.app</string>
    <key>Label</key>
    <string>Image Connections</string>
    <key>QuickMenu</key>
    <integer>1</integer>
    <key>QuickMenuDescription</key>
    <string>Description of application program</string>
    <key>QuickMenuLabel</key>
    <string>Image Connections</string>
    <key>ResultFileType</key>
    <integer>1</integer>
    <key>SaveFolderMode</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Application</key>
<dict>
    <key>AppSetting</key>
    <integer>1</integer>
    <key>SettingExe</key>
    <string>/Applications/ImageConnections.app/Contents/Resources/ImageSettings.app</string>
    <key>UseAppSetting</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Scanning</key>
<dict>
    <key>SaveFolder</key>
    <string>~/Pictures</string>
</dict>
```

連携設定ファイルを配置する

連携設定ファイルの配置

お客様が作成する連携設定ファイルを、以下の決められたフォルダーに配置することで、ScanSnap Manager の連携アプリケーションとして自動的に登録されます。

- 配置先 1
~/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/
- 配置先 2
/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/

【同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合の認識条件】

- 配置先1および配置先2にそれぞれ同じBundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、配置先 1 が採用されます。
- 配置先 1（または配置先 2）に同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、「Info」キーの「FileVersion」キーに書かれているバージョンが高い方の連携設定ファイルが採用されます。

重要

- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に配置してください。
- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- お客様が作成したアプリケーションが見つからない場合、ScanSnap Manager が、配置先 1 の連携設定ファイルを削除します（配置先 2 の連携設定ファイルは削除しません）。
- 連携設定ファイルの配置先フォルダーが存在しない場合は、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成したアプリケーション用の連携設定ファイルが配置されている場合があります。その場合は、自分が作成した連携設定ファイルだけを削除してください。

サンプルプログラム

ここでは、クイックメニューで連携するサンプルプログラムの使用方法について説明します。

- 開発環境 (→ [158 ページ](#))
- 利用手順 (→ [159 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [160 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Xcode 4.5

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- /mac/ScanSnapSample/app/Manager/Xcode4.5/ImageConnections.app

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

ScanSnap Manager をインストールします。

2. 配置


以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション（ImageConnections.app）
/Applications/
- 連携設定ファイル（jp.co.pfu.ImageConnections.ScanSnapInfo.plist）
サンプル実行アプリケーションを一度起動し、終了させてください。
サンプル実行アプリケーションは、サンプル実行アプリケーションの起動時に、「Contents/Resources」フォルダー配下の連携設定ファイルを配置先にコピーしています。
お客様が連携設定ファイルのキーの値を変更したい場合は、サンプル実行アプリケーション内の連携設定ファイルを更新してください。

3. クイックメニューを使用する設定

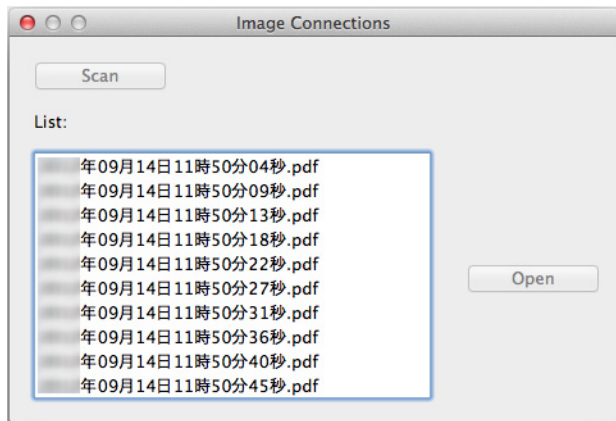
キーボードの「control」キーを押しながら、Dock の ScanSnap Manager のアイコンをクリックし、「設定」をクリックすると、ScanSnap 設定画面が表示されます。
ScanSnap 設定画面で、「クイックメニューを使用する」チェックボックスにチェックを付け、[適用] ボタンをクリックします。


4. 実行

ScanSnap の電源を入れ、原稿をセットします。
ScanSnap の [Scan] ボタンを押します。
クイックメニューにサンプルアプリケーションのアイコンが表示されます。
アイコン上の  から設定画面を起動できます。
アイコンをクリックしてサンプルアプリケーションを起動します。

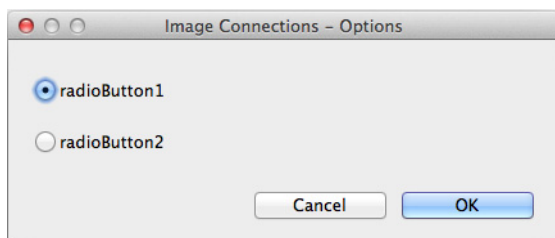
サンプル画面

クイックメニューからサンプルアプリケーションを起動すると、受け取ったデータファイルが出力ファイルリストに表示されます。



- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
-  ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



CardMinder と連携する

ここでは、CardMinder とお客様が作成したアプリケーションを連携する方法について説明します。

連携方法	162
サンプルプログラム	168

連携方法

CardMinder とお客様が作成したアプリケーションを連携するには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [162 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [165 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [166 ページ](#))
4. 連携設定ファイルを配置する (→ [167 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- 実行アプリケーションの呼び出され方
- 動作仕様の要点
- 実行アプリケーションの待ち合わせ
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出され方

お客様が作成する実行アプリケーションは、CardMinder から以下の引数で呼び出されます。

" 実行アプリケーション " " 結果ファイルのフルパス "

例 :

```
"/Application/App.app" "/Users/(user name)/Library/Caches/TemporaryItems/PFU/  
ScanSnap/CardMinder/Extension/temp/0000/ExportResult.plist"
```

動作仕様の要点

結果ファイルを解析し、データファイルを開きます。

結果ファイルおよびデータファイルの詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」(213 ページ)を参照してください。

実行アプリケーションから、以下のフォルダーを削除する必要があります。

結果ファイル格納フォルダー：

~/Library/Caches/TemporaryItems/PFU/ScanSnap/CardMinder/Extension/temp/XXX

- CardMinder は、実行アプリケーションの呼び出し時に、ユーザーの一時フォルダーに毎回一意となる結果ファイル格納フォルダーを作成します。この作成したフォルダーに結果ファイル、名刺データファイル、および名刺イメージファイルを格納します。これらのファイルを格納したフォルダーは、CardMinder では削除しないため、実行アプリケーションから削除する必要があります。
- 結果ファイル格納フォルダーは Caches のフォルダーであり、削除されなかった結果ファイルおよびデータファイルはログオフからログイン、または再起動でゴミ箱に移動されます。

重要

CardMinder は、指定したアプリケーションが起動している、起動していないにかかわらず、指定したアプリケーションを起動します。そのため、多重起動されても問題がないように、アプリケーション側で対処する必要があります。

実行アプリケーションの待ち合わせ

CardMinder は、お客様が作成する実行アプリケーションの終了待ちをしません。


実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時に以下のエラーが発生した場合は、CardMinder がユーザーの一時フォルダーに作成された結果ファイル格納フォルダーを削除します。

呼び出し時に表示されるメッセージは、以下のとおりです。

1	メッセージ	連携するアプリケーションが存在しません。 環境を確認してから再度実行してください。
	原因	連携実行するアプリケーションが存在しないためです。
	対処	指定したアプリケーションが存在するか環境を確認してから再度実行してください。 アプリケーションが存在しない場合、必要であればアプリケーションをインストールしてください。
2	メッセージ	連携ファイルの出力に失敗しました。 ディスク容量、メモリ使用量、保存先フォルダの権限を確認してください。
	原因	ディスク容量不足、権限不足などによって、アプリケーション連携に失敗しました。
	対処	保存先のディスク容量を確保し、再度処理を実行してください。 保存先のアクセス権に「読み書き」が設定されていること、ロックされていないことを確認し、再度処理を続行してください。
3	メッセージ	アプリケーションの連携に失敗しました。 連携先のアプリケーションを確認してください。
	原因	指定したアプリケーションと連携ができませんでした。 (No.1、No.2 のメッセージの発生条件以外の場合)
	対処	以下の対処を行い、再度処理を実行してください。 <ul style="list-style-type: none"> ● 指定したアプリケーションがインストールされているか確認してください。 インストールされていない場合はインストールしてください。 ● 指定したアプリケーションが正しく起動し、使用できる状態か確認してください。 使用できない場合は、指定したアプリケーションのマニュアルを参照し、使用できる状態にしてください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。
設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、CardMinder の「アプリケーション」画面から、実行アプリケーションのプログラムを選択し、 をクリックして「アプリケーションの設定」を選択すると起動できます。

- 設定画面アプリケーションの呼び出され方
- 動作仕様の要点

設定画面アプリケーションの呼び出され方

お客様が作成する設定画面アプリケーションは、CardMinder から以下のとおり呼び出されます。

" 設定画面アプリケーション "

例：


"/Application/CardSettings.app"

動作仕様の要点

設定画面の情報の保存先および形式は自由です。

重要

設定画面は、「環境設定」/「アプリケーション」画面の  から呼び出されます。

 は以下の条件がすべて満たされた場合に有効となり、設定画面の呼び出しが可能となります。

- 連携設定ファイルの「Application」キーの「AppSetting」キーが TRUE の場合
- 「Application」キーの「SettingExe」キーに設定画面アプリケーションのフルパスが正しく指定されている場合
- 「Application」キーの「SettingExe」キーに指定した設定画面アプリケーションが存在する場合

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、XML 形式の plist ファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、および設定の有無を定義します。

連携設定ファイル名は、*Bundle identifier.XXX.plist* (*Bundle identifier* は実行アプリケーションの *Bundle identifier* を指定、*XXX* は任意の名前) としてください。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(182 ページ) を参照してください。

ここでは、CardMinder から連携する場合に必要な項目について記載します。

キー		設定値	説明
Info	FileVersion	1	連携設定ファイルの版数の指定
	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	AppPath	必要なら指定	実行アプリケーションの app のフルパス
	CardDataFileFormat	必要なら指定	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定
	CardDataFileOption	必要なら指定	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定
	CardImageFileFormat	必要なら指定	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定
	Description	必要なら指定	実行アプリケーションを説明する文字列
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの app のフルパス

* : 設定画面を指定する場合

連携設定ファイルを配置する

連携設定ファイルの配置

お客様が作成する連携設定ファイルを、以下の決められたフォルダーに配置することで、CardMinder の連携アプリケーションとして自動的に登録されます。

- 配置先 1
~/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/CardMinder/Extension/
- 配置先 2
/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/CardMinder/Extension/

実行アプリケーションは、CardMinder が起動されたときに認識されます。CardMinder を起動したあとに実行アプリケーションをインストールした場合は、CardMinder を再起動することで認識されます。

【同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合の認識条件】

- 配置先1および配置先2にそれぞれ同じBundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、配置先 1 が採用されます。
- 配置先 1（または配置先 2）に同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、「Info」キーの「FileVersion」キーに書かれているバージョンが高い方の連携設定ファイルが採用されます。

重要

- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に配置してください。
- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- お客様が作成したアプリケーションが見つからない場合、CardMinder が、配置先 1 の連携設定ファイルを削除します（配置先 2 の連携設定ファイルは削除しません）。
- 連携設定ファイルの配置先フォルダーが存在しない場合は、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成したアプリケーション用の連携設定ファイルが配置されている場合があります。その場合は、自分が作成した連携設定ファイルだけを削除してください。
- 実行アプリケーションと連携するには、CardMinder V5.0L10 以降が必要です。
CardMinder のバージョンは、「CardMinder」メニュー→「CardMinder について」を選択して表示される画面で確認できます。

サンプルプログラム

ここでは、CardMinder で連携するサンプルプログラムの使用方法について説明します。

- 開発環境 (→ [168 ページ](#))
- 利用手順 (→ [169 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [170 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Xcode 4.5

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- /mac/ScanSnapSample/app/CardMinder/Xcode4.5/CardConnections.app

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

CardMinder をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション（CardConnections.app）
/Applications/
- 連携設定ファイル（com.fujitsu.pfu.CardConnections.CardMinderInfo.plist）
サンプル実行アプリケーションを一度起動し、終了させてください。
サンプル実行アプリケーションは、サンプル実行アプリケーションの起動時に、「Contents/Resources」フォルダー配下の連携設定ファイルを配置先にコピーしています。
お客様が連携設定ファイルのキーの値を変更したい場合は、サンプル実行アプリケーション内の連携設定ファイルを更新してください。

3. 実行


CardMinder を起動します。

CardMinder 画面の「ファイル」メニュー→「アプリケーション」のサブメニューに、サンプルアプリケーションが表示されます。

サブメニューから選択して、サンプルアプリケーションを起動します。

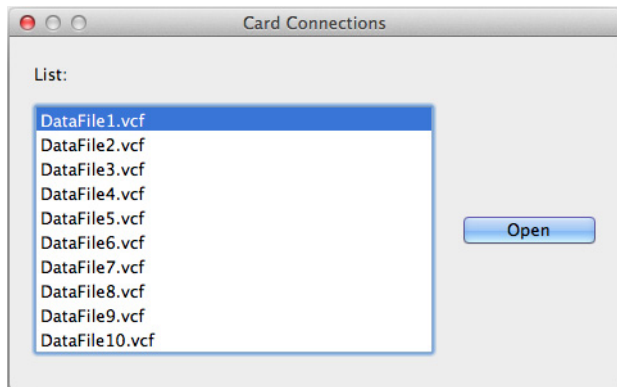
設定画面の実行


「CardMinder」メニュー→「環境設定」をクリックすると、「一般」画面が表示されます。[アプリケーション] ボタンをクリックすると、「アプリケーション」画面が表示され、アプリケーション一覧にサンプルアプリケーションが表示されます。

アプリケーション一覧から選択して、リスト下の  をクリックして、「アプリケーションの設定」を選択すると、アプリケーションの設定画面が表示されます。

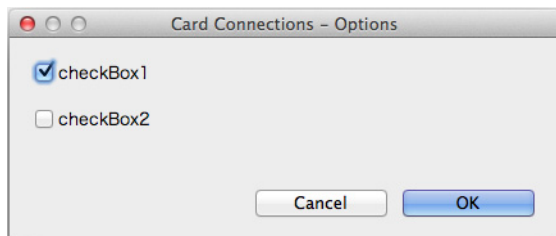
サンプル画面

CardMinder からサンプルアプリケーションを起動すると、受け取ったデータファイルが出力ファイルリストに表示されます。



- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
-  ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



作成したアプリケーションから原稿を読み取る

ここでは、お客様が作成したアプリケーションから原稿を読み取る連携方法について説明します。

連携方法	172
サンプルプログラム	178

連携方法

お客様が作成したアプリケーションから原稿を読み取るには、以下の作業を行います。

1. 実行アプリケーションを作成する (→ [172 ページ](#))
2. 設定画面アプリケーションを作成する (→ [174 ページ](#))
3. アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する (→ [175 ページ](#))
4. 連携設定ファイルを配置する (→ [177 ページ](#))

実行アプリケーションを作成する

お客様が作成する実行アプリケーションの仕様について要点を説明します。

- Scan ボタン
- ScanSnap Manager からのファイルの受け取り方
- 実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

Scan ボタン

お客様のアプリケーションに ScanSnap で原稿の読み取りを実行する機能（例えば Scan ボタンやメニューの項目など）を用意します。

Scan ボタンが押された場合、Apple event による通信で ScanSnap の占有、読み取り、解放を行います。

詳細は、「[ScanSnap Manager 制御イベント](#)」(219 ページ) を参照してください。

ScanSnap Manager からのファイルの受け取り方

ScanSnap の読み取り終了後に、お客様が作成する実行アプリケーションで ScanSnap Manager からファイルを受け取るために、OS 標準のファイル受け取りメソッド（NSApplicationDelegate プロトコルのメソッド application:openFiles: または NSDocument クラスのメソッド readFromURL:ofType:error）を実装します。

- 連携設定ファイルの「Launch」キーの「ResultFileType」キーの値が「0」の場合、読み取った PDF または JPEG ファイルを受け取ります。
- 連携設定ファイルの「Launch」キーの「ResultFileType」キーの値が「1」の場合、読み取った PDF または JPEG ファイル名が書かれた結果ファイルを受け取ります。結果ファイルは、「~/Library/Caches/TemporaryItems/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/temp/」フォルダー配下に作成されます（詳細は、「[出力されるファイルの内容](#)」（213 ページ）を参照してください）。結果ファイルは、不要になったら、実行アプリケーションから削除してください。ScanSnap Manager からは削除しません。
- 読み取った PDF または JPEG ファイルは、不要になったら、実行アプリケーションから削除してください。ScanSnap Manager からは削除しません。

実行アプリケーション呼び出し時のエラー処理

実行アプリケーションの呼び出し時にエラーが発生した場合、表示されるメッセージは、以下のとおりです。

メッセージ	選択したアプリケーションの起動に失敗しました。
原因	選択したアプリケーションがアンインストールされた可能性があります。
対処	選択したアプリケーションが正しくインストールされているかを確認してください。

設定画面アプリケーションを作成する

お客様が作成する設定画面アプリケーションの仕様について要点を説明します。

設定画面アプリケーションの作成は任意です。設定画面アプリケーションは、実行アプリケーションに対し、独自の設定変更を行いたい場合に作成します。設定画面アプリケーションは、ScanSnap Manager の「アプリ選択」タブから、実行アプリケーションのプログラムを選択し、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックすると起動できます。

- ScanSnap Manager からの設定保存ファイルの受け取り方
- 設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager からの設定保存ファイルの受け取り方

お客様が作成する設定画面アプリケーションで ScanSnap Manager から設定保存ファイルを受け取る場合は、OS 標準のファイル受け取りメソッド（NSApplicationDelegate プロトコルのメソッド `application:openFiles:` または `NSDocument` クラスのメソッド `readFromURL:ofType:error`）を実装します。

設定画面アプリケーションで設定した内容をファイルで保存するには、設定画面アプリケーションが終了する前に、受け取った設定保存ファイルに出力して保存してください。設定保存ファイルは、お客様が作成した設定画面アプリケーションが使用するための plist 形式のファイルです。

クイックメニューから呼び出された場合とは違う、専用の設定として保存できます。

設定した内容をお客様が作成するアプリケーション独自のファイルに保存する場合は、ファイル受け取りメソッドの実装は必要ありません。

設定画面アプリケーションの待ち合わせ

ScanSnap Manager は、お客様が作成する設定画面アプリケーションの終了を待ち合わせます。

ScanSnap Manager は、起動した設定画面アプリケーションのプロセスの有無によって、終了待ち合わせの処理を行います。

設定が完了したら、お客様が作成する設定画面アプリケーションを終了してください。

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意する

アプリケーション連携に必要な連携設定ファイルを用意します。

連携設定ファイルは、XML 形式の plist ファイルです。実行アプリケーションに関連する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。

連携設定ファイル名は、*Bundle identifier.XXX.plist* (*Bundle identifier* は実行アプリケーションの *Bundle identifier* を指定、*XXX* は任意の名前) としてください。

連携設定ファイルの詳細は、「[連携設定ファイル](#)」(182 ページ) を参照してください。

ここでは、作成したアプリケーションから原稿を読み取る場合に必要となる主な項目について記載します。

キー		設定値	説明
Info	FileVersion	1	連携設定ファイルの版数の指定
	IFVersion	1	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
Launch	AppPath	必要なら指定	実行アプリケーションの app のフルパス
	Label	指定	アプリケーション名として表示する文字列
	ResultFileType	指定	データファイルの受け取り方法の指定
Application (*)	AppSetting	1	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
	SettingExe	指定	設定画面アプリケーションの app のフルパス
	UseAppSetting	指定	アプリケーションの設定の保存方法の指定
Scanning	SaveFolder	必要なら指定	保存先フォルダーの指定の制限

* : 設定画面を指定する場合

ScanSnap Manager の「アプリ選択」タブで、実行アプリケーションのプログラムを選択した際に、[アプリケーションの設定] ボタンが有効化されます。

ScanSnap Manager は、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックした際に、設定画面アプリケーションを呼び出します。

以下に、「UseAppSetting」キーの指定値について説明します。

- 「Application」キーの「UseAppSetting」キーの値が「1」の場合、読み取り設定専用の設定保存ファイルを指定して、設定を呼び出します。
「UseAppSetting」キーに「1」を指定する場合は、「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定してください。
- 「Application」キーの「UseAppSetting」キーの値が「0」またはキーがない場合、設定保存ファイルを指定しないで、設定画面アプリケーションを呼び出します。

以下に、実行アプリケーションが設定呼び出しをサポートする場合の記述例を示します。

```
<key>Info</key>
<dict>
    <key>FileVersion</key>
    <integer>1</integer>
    <key>IFVersion</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Launch</key>
<dict>
    <key>AppPath</key>
    <string>/Applications/ImageConnections.app</string>
    <key>Label</key>
    <string>Image Connections</string>
    <key>ResultFileType</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Application</key>
<dict>
    <key>AppSetting</key>
    <integer>1</integer>
    <key>SettingExe</key>
    <string>/Applications/ImageConnections.app/Contents/Resources/ImageSettings.app</string>
    <key>UseAppSetting</key>
    <integer>1</integer>
</dict>
<key>Scanning</key>
<dict>
    <key>SaveFolder</key>
    <string>~/Pictures</string>
</dict>
```


連携設定ファイルを配置する

連携設定ファイルの配置

お客様が作成する連携設定ファイルを、以下の決められたフォルダーに配置することで、ScanSnap Manager の連携アプリケーションとして自動的に登録されます。

- 配置先 1
~/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/
- 配置先 2
/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/

【同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合の認識条件】

- 配置先1および配置先2にそれぞれ同じBundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、配置先 1 が採用されます。
- 配置先 1（または配置先 2）に同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、「Info」キーの「FileVersion」キーに書かれているバージョンが高い方の連携設定ファイルが採用されます。

重要

- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に配置してください。
- 連携設定ファイルは、お客様が作成するアプリケーションのアンインストール時に削除してください。
- お客様が作成したアプリケーションが見つからない場合、ScanSnap Manager が、配置先 1 の連携設定ファイルを削除します（配置先 2 の連携設定ファイルは削除しません）。
- 連携設定ファイルの配置先フォルダーが存在しない場合は、お客様が作成するアプリケーションのインストール時、またはアプリケーションの初回起動時に作成してください。ただし、アンインストールする際に、ほかのお客様が作成したアプリケーション用の連携設定ファイルが配置されている場合があります。その場合は、自分が作成した連携設定ファイルだけを削除してください。

サンプルプログラム

ここでは、原稿を読み取るサンプルプログラムの使用方法について説明します。

当サンプルでは、原稿を読み取るアプリケーションと、ScanSnap Manager から呼び出されるアプリケーションは同一のモジュールです。

- 開発環境 (→ [178 ページ](#))
- 利用手順 (→ [179 ページ](#))
- サンプル画面 (→ [180 ページ](#))

開発環境

サンプルプログラムは、以下の開発環境で作成しています。

- Xcode 4.5

サンプルアプリケーションは、以下のように配置されています。

- /mac/ScanSnapSample/app/Manager/Xcode4.5/ImageConnections.app

利用手順

サンプルアプリケーションの利用手順を説明します。

1. 準備

ScanSnap Manager をインストールします。

2. 配置

以下のアプリケーションをフォルダーに配置します。

- サンプル実行アプリケーション (ImageConnections.app)
/Applications/
- 連携設定ファイル (jp.co.pfu.ImageConnections.ScanSnapInfo.plist)
自動的に配置されます。
サンプル実行アプリケーションは、サンプル実行アプリケーションの起動時に、「Contents/Resources」フォルダー配下の連携設定ファイルを配置先にコピーしています。
お客様が連携設定ファイルのキーの値を変更したい場合は、サンプル実行アプリケーション内の連携設定ファイルを更新してください。

3. 実行

ScanSnap Manager を起動します。連携設定ファイル配置前から起動していた場合は、再起動してください。

ScanSnap の電源を入れ、原稿をセットします。

サンプル実行アプリケーションを起動します。

サンプル実行アプリケーションの画面から、ScanSnap で原稿の読み取りを実行する Scan ボタンを押します。

設定画面の実行

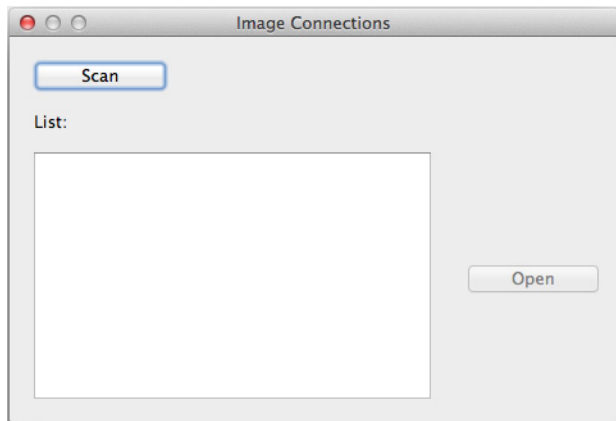
キーボードの「control」キーを押しながら、Dock の ScanSnap Manager のアイコンをクリックし、「設定」をクリックすると、ScanSnap 設定画面が表示されます。


ScanSnap 設定画面で、「クイックメニューを使用する」チェックボックスのチェックを外し、「アプリ選択」タブをクリックします。

アプリケーションの選択リストから「Image Connections」を選択し、[アプリケーションの設定] ボタンをクリックします。

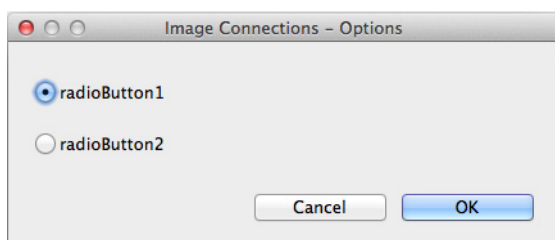
サンプル画面

サンプルアプリケーションを起動し、受け取る結果ファイルもデータファイルもない場合、初期表示では [Scan] ボタンだけが有効です。



- [Scan] ボタン
クリックすると、制御イベントで Reserve、Scan、Release を呼びます。
- リストと [Open] ボタン
リストに表示されている任意データファイルを選択して、[Open] ボタンをクリックすると、出力ファイルが OS 既定のアプリケーションで起動されます。
リストに表示されているデータファイルは複数選択できません。
-  ボタン
クリックすると、サンプル画面が終了します。

設定画面



連携設定ファイルの記述方法

ここでは、連携設定ファイルの記述方法について説明します。

連携設定ファイル.....	182
---------------	-----

連携設定ファイル

連携設定ファイルは、XML 形式の plist ファイルです。実行アプリケーションに関する情報、表示名、設定の有無、および読み取り制限を定義します。
お客様が作成する実行アプリケーションのインストール時、または実行アプリケーションの初回起動時に配置します。

連携設定ファイルは、以下に分類できます。

- 基本設定 (→ [182 ページ](#))
 - バージョン管理 (→ [182 ページ](#))
 - アプリケーション名と説明 (→ [183 ページ](#))
 - アプリケーションのアイコン (→ [184 ページ](#))
 - アプリケーション連携 (→ [184 ページ](#))
- 自動連携 (→ [185 ページ](#))
- 読み取り設定モード時の読み取り制限 (→ [185 ページ](#))
 - 保存先タブ (→ [185 ページ](#))
 - 読み取りモードタブ (→ [186 ページ](#))
 - ファイル形式タブ (→ [187 ページ](#))
 - 原稿タブ (→ [187 ページ](#))
 - ファイルサイズタブ (→ [188 ページ](#))
 - 読み取り画質 (→ [188 ページ](#))

以下に、連携設定ファイルのキー一覧を示します。

M : ScanSnap Manager

C : CardMinder

R : サポートするキー (必須)

レ : サポートするキー (オプション)

- : サポートしないキー

基本設定

バージョン管理

キー		タイプ	説明	M	C
Info	FileVersion	Number	連携設定ファイルの版数の指定	R	R
	IFVersion	Number	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定	R	R

アプリケーション名と説明

キー		タイプ	説明	M	C
Launch	Description	String	実行アプリケーションを説明する文字列	レ	レ
	Label	String	アプリケーション名として表示する文字列	レ	レ
	QuickMenuDescription	String	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列	レ	ー
	QuickMenuLabel	String	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列 (本キーがない場合は、Label を使用)	レ	ー
Languages	Japanese English French German Italian Spanish zh_CN zh_TW Korean Russian Portuguese (*)	Description	実行アプリケーションを説明する文字列 (Launch キーより優先)	ー	レ
		Label	アプリケーション名として表示する文字列 (Launch キーより優先)	レ	レ
		QuickMenuDescription	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列 (Launch キーより優先)	レ	ー
		QuickMenuLabel	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列 (Launch キーより優先)	レ	ー

* : 各キーの言語について

言語	キー名
日本語（日本）	Japanese
英語（米国）	English
フランス語（フランス）	French
ドイツ語（ドイツ）	German
イタリア語（イタリア）	Italian
スペイン語（スペイン）	Spanish
中国語（中国）（簡体字）	zh_CN
中国語（台湾）（繁体字）	zh_TW
韓国語（韓国）	Korean
ロシア語（ロシア）	Russian
ポルトガル語（ブラジル）	Portuguese

アプリケーションのアイコン

キー		タイプ	説明	M	C
Launch	Icon	String	実行アプリケーションの表示に使用するアイコンファイル名	レ	レ

アプリケーション連携

キー		タイプ	説明	M	C
Launch	AppPath	String	実行アプリケーションの app のフルパス	レ	レ
	CardDataFileFormat	Number	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定	ー	レ
	CardDataFileOption	Number	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定	ー	レ
	CardImageFileFormat	Number	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定	ー	レ
	HideAppList	Number	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうか	レ	ー
	QuickMenu	Number	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか	レ	ー
	RecommendBook	Number	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能をもつかどうか	レ	ー
	RecommendBusinessCard	Number	名刺に特化した機能を持つかどうか	レ	ー
	RecommendReceipt	Number	レシートに特化した機能を持つかどうか	レ	ー
	ResultFileType	Number	データファイルの受け取り方法の指定	レ	ー
	SaveFolderMode	Number	クイックメニュー連携時のイメージの保存先のモード指定	レ	ー
	SupportFileFormat	Number	アプリケーションがサポートするファイル形式の指定	レ	ー
	WithoutLaunch	Number	アプリケーションを起動しないモードの指定	レ	ー
Application	AppSetting	Number	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか	レ	レ
	SettingExe	String	設定画面アプリケーションの app のフルパス	レ	レ
	UseAppSetting	Number	アプリケーションの設定の保存方法の指定	レ	ー
	IgnoreScanButton	Number	装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするモードの指定	レ	ー

自動連携

キー		タイプ	説明	M	C
Launch	AutoConnect	Number	自動連携（アクティブ状態時に）するかどうか	レ	—

読み取り設定モード時の読み取り制限

保存先タブ

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	FileCounterDigits	Number	イメージファイル名の連番桁数の指定の制限	レ	—
	FileName	String	イメージファイル名の先頭文字列の指定の制限	レ	—
	FileNameFormat	Number	イメージファイル名の形式の指定の制限	レ	—
	Rename	Number	読み取り後、ファイル名を変更する指定の制限	レ	—
	SaveFolder	String	保存先フォルダーの指定の制限	レ	—

読み取りモードタブ

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	AutoComposite	Number	表裏のイメージを自動的に合成する機能の有効無効の指定	レ	ー
	BlankPageSkip	Number	白紙削除機能の有効無効の指定の制限	レ	ー
	BWBrightness	Number	白黒読み取りの濃度の指定の制限	レ	ー
	ColorMode	Number	カラーモードの指定の制限	レ	ー
	ContentCorrection	Number	文字列の歪み補正機能の指定	レ	ー
	ContinueScan	Number	継続読み取り指定の制限	レ	ー
	ContinueScanMode	Number	次の読み取り開始条件の指定	レ	ー
	DarkMode	Number	カラー読み取り時の色を濃くする機能の有効無効の指定	レ	ー
	Deskew	Number	傾き補正機能の有効無効の指定の制限	レ	ー
	HighQualityImage	Number	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかの指定	レ	ー
	ReduceBleedThrough	Number	裏写りを軽減するかどうかの指定の制限	レ	ー
	Rotation	Number	向き補正機能の指定	レ	ー
	ScanMode	Number	画質モードの指定の制限	レ	ー
	ScanningSide	Number	読み取り面の指定の制限	レ	ー
	StartScanTime	Number	読み取り開始するまでの待ち時間（秒）の指定	レ	ー
TextOnlyDocument	Number	文字くっきり機能の有効無効の指定の制限	レ	ー	
TimerScanTime	Number	指定時間経過後（タイマーモード）時の読み取り間隔時間（秒）の指定	レ	ー	

ファイル形式タブ

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	Format	Number	ファイル形式の指定の制限	レ	—
	MarkerIndex	Number	マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の有効無効の指定の制限	レ	—
	OcrPage	Number	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページの制限	レ	—
	PDFPageDivide	Number	PDF ページ分割の有効無効の指定と、分割ページ数の指定の制限	レ	—
	Searchable	Number	テキスト抽出して検索可能な PDF にする指定の制限	レ	—
	SearchableLang	Number	テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語指定の制限	レ	—

原稿タブ

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	BookDivideType	Number	見開き原稿の保存オプションの指定	レ	—
	BookPreCorrection	Number	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（本や雑誌）	レ	—
	CarrierSheetMode	Number	キャリアシートで読み取り時の「イメージの保存方法」の指定の制限	レ	—
	CarrierSheetSeparatePaperSize	Number	「表裏のイメージをそれぞれ保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限	レ	—
	CarrierSheetSpreadPaperSize	Number	「表裏のイメージを見開きにして保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限	レ	—
	MultiCrop	Number	複数の原稿を検出するかどうかの指定	レ	—
	MultiFeedControl	Number	マルチフィード検出の指定の制限	レ	—
	MultiPreCorrection	Number	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（平らな原稿）	レ	—
	PaperSize	Number	原稿サイズの指定の制限	レ	—
	PaperType	Number	読み取る原稿の選択の指定	レ	—

ファイルサイズタブ

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	Compression	Number	圧縮率の指定の制限	レ	ー

読み取り画質

キー		タイプ	説明	M	C
Scanning	eScanMode	Number	e 文書画質をサポートしているかどうかの指定	レ	ー

連携設定ファイルのキー説明

以下に、連携設定ファイルのキーについて示します。

- Info キー (→ [189 ページ](#))
- Launch キー (→ [190 ページ](#))
- Languages キー (→ [196 ページ](#))
- Application キー (→ [196 ページ](#))
- Scanning キー (→ [198 ページ](#))

重要

- 指定外（範囲外）の値を設定した場合の動作は保証されません。
- 同一キーを複数記述した場合の動作は保証されません。

Info キー

キー名	FileVersion (Info キー)
概要	連携設定ファイルの版数の指定
必須 / オプション	必須
値	数値の指定 例：初版は 1
解説	連携設定ファイルの版数を指定します。 連携設定ファイルの内容を更新したら、2、3 と数値を上げていきます。 同じ Bundle identifier の連携設定ファイルが存在する場合は、本キーの数値の高い連携設定ファイルを採用します。 * キーが存在しない場合、または値が指定されていない場合は、値を「0」として扱います。

キー名	IFVersion (Info キー)
概要	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数の指定
必須 / オプション	必須
値	1
解説	実行アプリケーションがサポートする ScanSnap インターフェースの版数を指定します。 版数とは、本書の版数を意味します。 今後 ScanSnap インターフェースに機能追加されても、お客様のアプリケーションがそのまま動作できるよう、互換を保つために使用します。 本キーを指定しない場合、ScanSnap に添付のソフトウェアのバージョンによって動作が異なる場合があります。

Launch キー

キー名	AppPath (Launch キー)
概要	実行アプリケーションの app のフルパス
必須 / オプション	オプション
値	実行アプリケーションの app のフルパスの指定
解説	<p>実行アプリケーションの app のフルパスを指定します。</p> <p>本キーを指定する場合、指定したアプリケーションの Bundle identifier と、連携設定ファイル名の Bundle identifier 部分を一致させてください。一致させない場合、正しく動作しません。</p> <p>本キーを指定しない場合、連携設定ファイル名中の Bundle identifier に一致するアプリケーションを起動します。</p>

キー名	AutoConnect (Launch キー)
概要	自動連携（アクティブ状態時に）するかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 – しない（デフォルト） 1 – する
解説	<p>アプリケーションの画面がアクティブな状態のときに、Scan ボタンを押した場合、アプリケーションの選択で選択されていなくても、自動的に連携するかどうかを指定します。</p> <p>「ScanSnap Manager - 環境設定」画面の「自動連携」タブの「連携方法」で「自動連携します（推奨）」を選択していない場合は、無効になります。</p>

キー名	CardDataFileFormat (Launch キー)
概要	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイル形式の指定
必須 / オプション	オプション
値	1 – ContactXML 1.1（名刺データだけ、名刺イメージはオプション） 2 – vCard 3.0（名刺データだけ、名刺イメージはオプション）（デフォルト） -1 – 名刺イメージだけ
解説	<p>実行アプリケーションが受け取れる名刺データファイルの種類を指定します。名刺イメージファイルの有無と形式は、「CardImageFileFormat」キーで指定します。</p> <p>* キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。</p>

キー名	CardDataFileOption (Launch キー)
概要	実行アプリケーションが受け取る名刺データファイルに関するオプションの指定

必須 / オプション	オプション
値	0 – 複数の名刺データを 1 つの名刺データファイルで渡す（デフォルト） 1 – 1 つの名刺データにつき、1 つの名刺データファイルで渡す
解説	名刺データを 1 つの名刺データファイルにまとめて受け取るか、1 つの名刺ごとの名刺データファイルに分けて受け取るかを指定します。 * 「CardDataFileFormat」キーで「名刺イメージだけ (-1)」を指定した場合、本キーは無視されます。 * キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。

キー名	CardImageFileFormat (Launch キー)
概要	実行アプリケーションが必要とする名刺イメージファイル形式の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – イメージファイルなし（名刺イメージファイルが不要な場合） 1 – PDF（デフォルト） 2 – JPEG
解説	実行アプリケーションが名刺イメージファイルを必要とする場合、受け取るファイルの種類を指定します。 * キーが指定されていない場合、または定義値以外が指定されている場合は、デフォルトの値で動作します。 * 「CardDataFileFormat」キーで「名刺イメージだけ (-1)」、かつ、本キーで「イメージファイルなし (0)」が指定された場合は、実行アプリケーション起動時にイメージファイルを渡さないこととします。つまり、結果ファイルの「FILES」キーの「FileCount」キー値が 0 となります。

キー名	Description (Launch キー)
概要	実行アプリケーションを説明する文字列
必須 / オプション	オプション
値	最大 128 文字までの文字列
解説	実行アプリケーションを説明する文字列を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager 「QuickMenuDescription」キーを省略した場合、本キーがクイックメニューの詳細に表示されます。 ● CardMinder 以下の優先順でアプリケーションメニューのツールチップとして表示されます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Languages」キー - 言語キー - 「Description」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」キー - 「Description」キー

キー名	HideAppList (Launch キー)
概要	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 – 表示する (デフォルト) 1 – 表示しない
解説	アプリケーションの選択リストボックスにアプリケーションを表示するかどうかを指定します。

キー名	Icon (Launch キー)
概要	実行アプリケーションの表示に使用するアイコンファイル名
必須 / オプション	オプション
値	アイコンのファイル名の指定
解説	<p>アプリケーションアイコン以外のアイコンを表示したい場合に指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager アプリケーションの選択リストボックス、読み取り設定メニュー、クイックメニュー ● CardMinder アプリケーションメニュー、環境設定のアプリケーション一覧 <p>実行アプリケーションの Resources フォルダ配下に、icns ファイルを置き、本キーにファイル名だけを指定します。</p> <p>以下の優先順でアイコンを表示します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Launch」キー - 「Icon」キー 2. Info.plist の CFBundleIconFile に指定されているアイコン 3. デフォルトのアプリケーションアイコン <p>アイコンサイズは、128×128 ピクセル以上を推奨します。</p>

キー名	Label (Launch キー)
概要	アプリケーション名として表示する文字列
必須 / オプション	オプション
値	最大 62 文字までの文字列

解説	<p>お客様が作成したアプリケーション名の文字列を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap Manager 以下の優先順で「アプリケーションの選択」に表示されます。 1. 「Languages」キー - 言語キー - 「Label」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」キー - 「Label」キー 3. 実行アプリケーション名 ● CardMinder 以下の優先順で「アプリケーションメニュー名」として表示されます。 1. 「Languages」キー - 言語キー - 「Label」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」キー - 「Label」キー 3. 実行アプリケーション名
----	--

キー名	QuickMenu (Launch キー)
概要	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 - しない (デフォルト) 1 - する
解説	クイックメニューにアプリケーションを表示するかどうかを指定します。 クイックメニュー読み取り時には、「Scanning」キーで指定されている読み取り制限はすべて無視されます。

キー名	QuickMenuDescription (Launch キー)
概要	クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列
必須 / オプション	オプション
値	最大 128 文字までの文字列
解説	<p>クイックメニューに表示する実行アプリケーションを説明する文字列を指定します。</p> <p>以下の優先順でクイックメニューに表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Languages」キー - 言語キー - 「QuickMenuDescription」キー ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」キー - 「QuickMenuDescription」キー 3. 「Launch」キー - 「Description」キー

キー名	QuickMenuLabel (Launch キー)
概要	クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列
必須 / オプション	オプション
値	最大 62 文字までの文字列

解説	<p>クイックメニューに表示するアプリケーション名の文字列を指定します。 以下の優先順でクイックメニューに表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Languages」キー - 言語キー - 「QuickMenuLabel」キー アプリケーションの選択と異なるアプリケーション名を表示したい場合で、ローカライズしたい場合に指定します。 2. 「Launch」キー - 「QuickMenuLabel」キー アプリケーションの選択と異なるアプリケーション名を表示したい場合に指定します。 3. 「Languages」キー - 言語キー - 「Label」キー ローカライズしたい場合に指定します。 4. 「Launch」キー - 「Label」キー 5. 実行アプリケーション名
----	---

キー名	RecommendBook (Launch キー)
概要	見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能をもつかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 - 見開き原稿（本や雑誌）もほかのドキュメントも同様に扱う（デフォルト） 1 - 見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能を持つ
解説	<p>見開き原稿（本や雑誌）に特化した機能をもつかどうかを指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。</p>

キー名	RecommendBusinessCard (Launch キー)
概要	名刺に特化した機能をもつかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 - 名刺もほかのドキュメントも同様に扱う（デフォルト） 1 - 名刺に特化した機能を持つ
解説	名刺に特化した機能をもつかどうかを指定します。

キー名	RecommendReceipt (Launch キー)
概要	レシートに特化した機能をもつかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 - レシートもほかのドキュメントも同様に扱う（デフォルト） 1 - レシートに特化した機能を持つ
解説	レシートに特化した機能をもつかどうかを指定します。

キー名	ResultFileType (Launch キー)
概要	データファイルの受け取り方法の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – データファイルを受け取る（デフォルト） 1 – データファイル名を書いた結果ファイルを受け取る
解説	データファイルの受け取り方法を指定します。 「Application」キーの「UseAppSetting」キーに「1」を指定した場合は、本キーに「1」を指定してください。

キー名	SaveFolderMode (Launch キー)
概要	クイックメニュー連携時のイメージの保存先のモード指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – クイックメニュー用の「イメージの保存先」に指定したフォルダーに、ファイルを保存する 1 – クイックメニューから連携するときも、「Scanning」キーの「SaveFolder」キーで指定したフォルダーに、ファイルを保存する
解説	クイックメニュー連携時のイメージの保存先のモードを指定します。 お客様のアプリケーションがサンドボックス対応時に、「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定した場合、結果ファイルの「FILES」キーに出力されたデータファイルにアクセスできるように、本キーに「1」を指定し、「Scanning」キーの「SaveFolder」キーに、お客様のアプリケーションがアクセスできる、存在するフォルダーを指定してください。

キー名	SupportFileFormat (Launch キー)
概要	アプリケーションがサポートするファイル形式の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – すべてのファイル（デフォルト） 1 – PDF 2 – JPEG 3 – PDF と JPEG
解説	クイックメニューからアプリケーションが受け取れるファイル形式を指定します。 本キーを省略した場合、「Scanning」キーの「Format」キーで指定したファイル形式が有効になります。 アプリケーションから受け取れない形式のファイルが連携された場合、メッセージを表示します。

キー名	WithoutLaunch (Launch キー)
概要	アプリケーションを起動しないモードの指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 起動する（デフォルト） 1 – 起動しない
解説	<p>アプリケーションを起動しないモードを指定します。 「1- 起動しない」を指定した場合、以下のすべての読み取りでアプリケーションを起動しません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanSnap の Scan ボタンからの読み取り ● ScanSnap Manager のメニューからの片面 / 両面読み取り ● 制御イベント（StartScan イベント）からの読み取り ● 読み取り後のクイックメニューからのアプリケーション選択

Languages キー

Languages キー内のキー説明は、Launch キー内のキー説明と同様です。

詳細は、「[Launch キー](#)」（190 ページ）を参照してください。

Application キー

キー名	AppSetting (Application キー)
概要	設定画面アプリケーションをサポートするかどうか
必須 / オプション	オプション
値	0 – 未サポート（デフォルト） 1 – サポート
解説	<p>設定画面アプリケーションをサポートするかどうかを指定します。 サポートする場合、ScanSnap Manager（または CardMinder）から設定画面アプリケーションを起動します。 ScanSnap Manager では、設定保存ファイルに実行アプリケーション固有の設定を保存でき、ScanSnap Manager の設定ごとに別々の設定を保存できます。 設定呼び出し時に ScanSnap Manager は、終了待ち合わせ（プロセスの終了判断）を行うので、設定画面終了時には、プロセスも終了するようにします。 「0」の場合、ScanSnap Manager から設定画面アプリケーションを起動しません（設定ボタンは表示されません）。</p>

キー名	SettingExe (Application キー)
概要	設定画面アプリケーションの app のフルパス
必須 / オプション	オプション
値	設定画面アプリケーションの app のフルパス
解説	設定画面アプリケーションの app のフルパスを指定します。 ScanSnap Manager では、設定保存ファイルにアプリケーション固有の設定を保存でき、ScanSnap Manager の設定ごとに別々の設定を保存できます。 本設定がない場合は、ScanSnap Manager から設定の呼び出しは行いません。

キー名	UseAppSetting (Application キー)
概要	アプリケーションの設定の保存方法の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – お客様が作成するアプリケーション独自のファイルに保存する（デフォルト） 1 – 呼び出し元ごと（クイックメニューまたは各読み取り設定）に保存する
解説	アプリケーションの設定の保存方法を指定します。 本キーに「1」を指定する場合は、「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定してください。

キー名	IgnoreScanButton (Application キー)
概要	装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするモードの指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – Scan ボタン有効（デフォルト） 1 – Scan ボタン無効
解説	装置の Scan ボタンによる読み取りを無効にするかどうかを指定します。 「1」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得（Reserve）している間、以下の操作が無効となります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 装置の Scan ボタンによる読み取り ● ショートカットキーによる読み取り（SV600） 「1」を指定した場合でも、以下の操作は有効となります。 <ul style="list-style-type: none"> ● 装置の Stop ボタンによる読み取り中止 ● ショートカットキーによる読み取り中止（SV600） ● 読み取り中の、装置の Scan ボタンによる連続読み取り（SV600） * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L24 以降のバージョンで使用できます。

Scanning キー

各設定では読み取り設定のうち、固定したいパラメーターを指定できます。

設定で指定されない、または無効値を指定されたスキャン設定は、ScanSnap Manager 設定画面で自由に変更できます。

「Scanning」キーで設定がない場合、ユーザーが ScanSnap Manager 設定画面ですべての設定を自由に変更できます。

重要

- クイックメニュー読み取り時は、「Scanning」キーのキーは無効となります。
クイックメニューに実行アプリケーションを追加する場合は、実行アプリケーション側で、ScanSnap が出力するデータ形式（カラー形式（カラー、グレー、白黒）、画質モード（ノーマル、ファイン、スーパーファイン、エクセレント）など）をサポートする必要があります。
- 「Scanning」キーのキーを有効にすると、ScanSnap Manager の設定画面は、指定された値で固定化（グレイアウト）できます。

キー名	AutoComposite (Scanning キー)
概要	表裏のイメージを自動的に合成する機能の有効無効の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	表裏のイメージを自動的に合成するかどうかを指定します。 「PaperSize」キーで「0」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。

キー名	BlankPageSkip (Scanning キー)
概要	白紙削除機能の有効無効の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	白紙削除機能を有効にするかどうかを指定します。

キー名	BookDivideType (Scanning キー)
概要	見開き原稿の保存オプションの指定
必須 / オプション	オプション

値	0 - 1 ページで保存する 1 - 2 ページ（左、右の順）で保存する 2 - 2 ページ（右、左の順）で保存する
解説	「読み取る原稿の選択」で「後から選択」が選択されている場合、または「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合に見開き原稿の保存オプションを指定します。 「PaperType」キーで「0」を指定した場合、「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「平らな原稿」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。

キー名	BookPreCorrection (Scanning キー)
概要	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（見開き原稿（本や雑誌））
必須 / オプション	オプション
値	0 - 確認しない 1 - 確認する
解説	「読み取る原稿の選択」で「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合に、「読み取り後、保存するイメージを確認する」を指定します。 「PaperType」キーで「0」を指定、または「読み取る原稿の選択」で「後から選択」、「平らな原稿」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。 「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出（最大エリア）」、「サイズ自動検出（A4 横 / レター横エリア）」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。

キー名	BWBrightness (Scanning キー)
概要	白黒読み取りの濃度の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	-5 ～ 5 - -5（薄く）～ 5（濃く）（0（標準））
解説	白黒読み取りの濃度を指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 「ColorMode」キーで「2」、「5」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」、「グレー」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	CarrierSheetMode (Scanning キー)
概要	キャリアシートで読み取り時の「イメージの保存方法」の指定の制限
サポート機種	S1500M、S1100、iX500、iX100

必須 / オプション	オプション
値	1 – 表裏のイメージを見開きにして保存します 2 – 表裏のイメージをそれぞれ保存します
解説	キャリアシートで読み取り時の保存方法を指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L41 以降のバージョンで使用できます。

キー名	CarrierSheetSeparatePaperSize (Scanning キー)
概要	「表裏のイメージをそれぞれ保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限
サポート機種	S1500M、S1100、iX500、iX100
必須 / オプション	オプション
値	0 – サイズ自動選択 1 – A3 キャリアシートサイズ (216×297mm) 2 – A4 (210×297mm) 3 – A5 (148×210mm) 4 – A6 (105×148mm) 5 – はがき (100×148mm) 6 – B5 (182×257mm) 7 – B6 (128×182mm) 8 – レター (8.5×11 インチ (216×279.4mm)) 9 – 名刺 縦 (55×90mm) 10 – 名刺 横 (90×55mm) 11 – 写真 E 版 縦 (83×117mm) 12 – 写真 E 版 横 (117×83mm) 13 – 写真 L 版 縦 (89×127mm) 14 – 写真 L 版 横 (127×89mm) 15 – 写真 LL 版 縦 (127×178mm) 16 – 写真 LL 版 横 (178×127mm)
解説	保存するイメージのサイズを指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L41 以降のバージョンで使用できます。

キー名	CarrierSheetSpreadPaperSize (Scanning キー)
概要	「表裏のイメージを見開きにして保存します」指定時の「保存するイメージのサイズ」の指定の制限
サポート機種	S1500M、S1100、iX500、iX100
必須 / オプション	オプション
値	0 – サイズ自動選択 1 - A3 (297×420mm) 2 - B4 (257×364mm) 3 - 11×17 インチ (279.4×431.8mm)

解説	保存するイメージのサイズを指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L41 以降のバージョンで使用できます。
-----------	---

キー名	ColorMode (Scanning キー)
概要	カラーモードの指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	1 – カラー・グレイ・白黒自動判別 (JPEG ファイルの場合、カラー・グレイ自動判別) 2 – カラー 3 – 白黒 (PDF ファイルの場合に有効) 5 – グレイ
解説	カラーモードを指定します。 「Format」キーで「2」を指定または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、かつ本キーで「3」を指定した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	Compression (Scanning キー)
概要	圧縮率の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	1 – 圧縮率 低 ~ 5 – 圧縮率 高
解説	圧縮率を指定します。 「ColorMode」キーで「3」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「白黒」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	ContentCorrection (Scanning キー)
概要	文字列の歪み補正機能の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 平らな原稿 2 – 見開き原稿 3 – 平らな原稿と見開き原稿
解説	文字列の歪み補正をするかどうかを指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。

キー名	ContinueScan (Scanning キー)
概要	継続読み取り指定の制限

必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	継続して読み取りを行うかどうかを指定します。 * 片面機に接続し、連続読み取りを行うアプリケーションを作成する場合は、本キーに「0 – 無効」を設定しないでください。

キー名	ContinueScanMode (Scanning キー)
概要	次の読み取り開始条件の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – なし 1 – 指定時間経過後（タイマーモード） 2 – ページめくり検出時
解説	次の読み取り開始条件を指定します。 継続読み取り時のみ有効となります。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。

キー名	DarkMode (Scanning キー)
概要	カラー読み取り時の色を濃くする機能の有効無効の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	カラー読み取り時に色を濃くするかどうかを指定します。 本キーは、「ColorMode」キーで「2」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択した場合のみ有効となります。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。

キー名	Deskew (Scanning キー)
概要	傾き補正機能の有効無効の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	傾き補正機能を有効にするかどうかを指定します。

キー名	eScanMode (Scanning キー)
概要	e 文書画質をサポートしているかどうかの指定

サポート機種	S1500M (JPN model)、S1300i (JPN model)、S1100 (JPN model)、iX500 (JPN model)、iX100 (JPN model)、SV600 (JPN model)
必須 / オプション	オプション
値	0 – 非サポート (デフォルト) 1 – サポート (通常読み取り優先) 2 – サポート (e- 文書モード読み取り優先)
解説	<p>e 文書画質をサポートしているかどうかを指定します。 サポートしていない場合、e- 文書モードの設定では、アプリケーションの選択に表示されません。 サポートしている場合、キーの値によって読み取り方法が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「1」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得 (Reserve) している間、e- 文書モードが無効で固定され、装置の Scan ボタンを押すか、ScanSnap Manager のメニューの「両面読み取り」、「片面読み取り」または「読み取り」を選択した場合、通常読み取りとなります (StartScan イベントでの e- 文書モード読み取りは可能です)。 ● 「2」を指定した場合、アプリケーションが装置の制御権を取得 (Reserve) している間、e- 文書モードが有効で固定され、装置の Scan ボタンを押すか、ScanSnap Manager のメニューの「両面読み取り」、「片面読み取り」または「読み取り」を選択した場合、e- 文書モード読み取りとなります (StartScan イベントでの通常読み取りは可能です)。 <p>*e- 文書モードで読み取ったイメージの補正、修正などの改変は行わないでください (e- 文書モードで読み取ったイメージではなくなるため)。 また、以下の読み取り情報の制限は無視され、e- 文書モード読み取りの固定値で読み取りを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● DarkMode ● CarrierSheetSeparatePaperSize ● ReduceBleedThrough ● TextOnlyDocument ● BookPreCorrection ● MultiPreCorrection <p>さらに、以下の読み取り情報の制限には、設定できない値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ScanMode (「2」、「3」のみ設定可能) ● CarrierSheetSpreadPaperSize (「1」～「3」のみ設定可能) ● ColorMode (「2」、「5」のみ設定可能) ● Compression (「1」～「3」のみ設定可能) <p>* 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L30 以降のバージョンで使用できます。</p>
キー名	FileCounterDigits (Scanning キー)
概要	イメージファイル名の連番桁数の指定の制限
必須 / オプション	オプション

値	0 - 0 桁 1 - 1 桁 2 - 2 桁 3 - 3 桁 4 - 4 桁 5 - 5 桁 6 - 6 桁
解説	イメージファイル名の連番桁数を指定します。

キー名	FileName (Scanning キー)
概要	イメージファイル名の先頭文字列の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	ファイル名の先頭文字列
解説	<p>イメージファイル名の先頭の文字列を指定します。</p> <p>ファイル名の設定画面で、「自分で名前を付けます」が選択されている場合、またはファイル名の形式 (FileNameFormat) で、「2 - 自分で名前を付けます」のときに有効となります。</p> <p>誤ったファイル名が設定された場合、本キーは無視されます。</p> <p>* 本キーの指定時は、以下をチェックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ファイル名として使用できる文字であるか ● 文字列の長さ制限 (50 文字) 以内であるか

キー名	FileNameFormat (Scanning キー)
概要	イメージファイル名の形式の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 - yyyy 年 MM 月 dd 日 HH 時 mm 分 ss 秒 (日本語) yyyy_MM_dd_HH_mm_ss (日本語以外の言語) 1 - yyyyMMddHHmmss 2 - 自分で名前を付けます 3 - yyyy-MM-dd-HH-mm-ss
解説	イメージファイル名の形式を指定します。

キー名	Format (Scanning キー)
概要	ファイル形式の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	1 - PDF 2 - JPEG

解説	ファイル形式を指定します。
----	---------------

キー名	HighQualityImage (Scanning キー)
概要	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかの指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	蛍光灯のちらつきを軽減するかどうかを指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。

キー名	MarkerIndex (Scanning キー)
概要	マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の有効無効の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効 (先頭マーカーのみ) 2 – 有効 (全マーカー)
解説	マーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能を有効にするかどうかと、対象とするマーカーの範囲を指定します。 「ColorMode」キーで「3」、「5」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「白黒」、「グレー」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 「SearchableLang」キーで「0」～「10」以外を指定した場合、または「対象言語」で「日本語」、「英語」、「フランス語」、「ドイツ語」、「イタリア語」、「スペイン語」、「中国語 (簡体字)」、「中国語 (繁体字)」、「韓国語」、「ロシア語」、「ポルトガル語」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	MultiCrop (Scanning キー)
概要	複数の原稿を検出するかどうかの指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効

解説	<p>複数の原稿を検出するかどうかを指定します。</p> <p>「PaperType」キーで「1」を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出（最大エリア）」、「サイズ自動検出（A4 横 / レター横エリア）」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>* 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。</p>
----	--

キー名	MultiFeedControl (Scanning キー)
概要	マルチフィード検出の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – マルチフィード検出しない</p> <p>1 – マルチフィード検出する（長さで検出）</p> <p>2 – マルチフィード検出する（超音波）（超音波をサポートしている機種だけ有効）</p>
解説	<p>マルチフィード検出するかどうかを指定します。</p> <p>本キーに「2」を指定し、超音波をサポートしていない機種が接続された場合、本キーは指定されなかったものとして動作します。</p>

キー名	MultiPreCorrection (Scanning キー)
概要	読み取り後、保存するイメージを確認するかどうかの指定（平らな原稿）
必須 / オプション	オプション
値	<p>0 – 確認しない</p> <p>1 – 確認する</p>
解説	<p>「読み取る原稿の選択」で「平らな原稿」が選択されている場合に、「読み取り後、保存するイメージを確認する」を指定します。</p> <p>「PaperType」キーで「1」を指定、または「読み取る原稿の選択」で「後から選択」、「見開き原稿（本や雑誌）」が選択されている場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>「PaperSize」キーで「0」、「10」以外を指定した場合、または「原稿サイズの選択」で「サイズ自動検出（最大エリア）」、「サイズ自動検出（A4 横 / レター横エリア）」以外を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>* 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。</p>

キー名	OcrPage (Scanning キー)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページの制限
必須 / オプション	オプション

値	0 – 先頭ページ 1 – 全ページ
解説	テキスト抽出して検索可能な PDF にする機能、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにする機能の対象ページを指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	PaperSize (Scanning キー)
概要	原稿サイズの指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	<ul style="list-style-type: none"> ● SV600 以外接続時 <ul style="list-style-type: none"> 0 – サイズ自動検出 1 – A4 (210×297mm) 2 – A5 (148×210mm) 3 – A6 (105×148mm) 4 – B5 (182×257mm) 5 – B6 (128×182mm) 6 – はがき (100×148mm) 7 – 名刺 (90×55mm、55×90mm) 8 – レター (8.5×11 インチ、216×279.4mm) 9 – リーガル (8.5×14 インチ、216×355.6mm)
値	<ul style="list-style-type: none"> ● SV600 接続時 <ul style="list-style-type: none"> 0 – サイズ自動検出 (最大エリア) 1 – A4 横 (297×210mm) 2 – A5 横 (210×148mm) 3 – A6 横 (148×105mm) 4 – B5 横 (257×182mm) 5 – B6 横 (182×128mm) 6 – はがき横 (148×100mm) 7 – 名刺 (90×55mm) 8 – レター横 (11×8.5 インチ、279.4×216mm) 9 – リーガル横 (14×8.5 インチ、355.6×216mm) 10 – サイズ自動検出 (A4 横 / レター横エリア) 11 – A3 横 (420×297mm) 12 – B4 横 (364×257mm) 13 – 17×11 インチ (431.8×279.4mm)
解説	原稿サイズを指定します。

キー名	PaperType (Scanning キー)
概要	読み取る原稿の選択の指定
必須 / オプション	オプション

値	0 – 平らな原稿 1 – 見開き原稿（本や雑誌）
解説	「読み取る原稿の選択」を指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.2L10 以降のバージョンで使用できます。

キー名	PDFPageDivide (Scanning キー)
概要	PDF ページ分割の有効無効の指定と、分割ページ数の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 分割しない 1 ~ 999 – 分割するページ数
解説	PDF ページ分割するかどうかと、分割ページ数を指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	ReduceBleedThrough (Scanning キー)
概要	裏写りを軽減するかどうかの指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 裏写りを軽減しない 1 – 裏写りを軽減する
解説	裏写りを軽減するかどうかを指定します。 SV600 接続時、「ColorMode」キーで「2」を指定、かつ「DarkMode」キーで「1」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択、かつ「カラー読み取り時の色を濃くします」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	Rename (Scanning キー)
概要	読み取り後、ファイル名を変更する指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	読み取り後にファイル名を変更するかどうかを指定します。

キー名	Rotation (Scanning キー)
概要	向き補正機能の指定
必須 / オプション	オプション

値	0 – 回転しない 1 – 自動判別 2 – 右 90 度回転（上 / 下とじ） 3 – 180 度回転（右 / 左とじ） 4 – 左 90 度回転（上 / 下とじ） 5 – 右 90 度回転（右 / 左とじ） 6 – 180 度回転（上 / 下とじ） 7 – 左 90 度回転（右 / 左とじ）
解説	向き補正機能を指定します。 SV600 接続時、「PaperType」キーで「1」を指定した場合、または「読み取る原稿の選択」で「見開き（本や雑誌）」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 * 値「2」「3」「4」は、ScanSnap Manager V6.3L20 以降で使用できます。 * 値「5」「6」「7」は、ScanSnap Manager V6.3L24 以降で使用できます。

キー名	SaveFolder (Scanning キー)
概要	保存先フォルダーの指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	ファイルを保存するフォルダーの指定
解説	ファイルを保存するフォルダーを指定します。 フォルダーパスに、"~"（ホームフォルダー）を含むことができます。 例：~/Pictures 誤ったパスが設定された場合、設定時にそのパスの有効性チェックは行わず、グレイアウト（設定変更不可）となりますので十分注意してください。 * 本キーの指定時は、実行する環境に指定したフォルダーが存在するかをチェックしてください。

キー名	ScanMode (Scanning キー)
概要	画質モードの指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	1 – ノーマル 2 – ファイン 3 – スーパーファイン 4 – エクセレント 99 – 自動
解説	画質モードを指定します。

キー名	ScanningSide (Scanning キー)
概要	読み取り面の指定の制限

必須 / オプション	オプション
値	0 – 両面読み取り 1 – 片面読み取り
解説	読み取り面を指定します。 指定値によって、ScanSnap Manager のメニューにある「両面読み取り」/「片面読み取り」も同様にグレイアウトします。 * 本インターフェースを利用して、ScanSnap の両面機、片面機ともに接続し、各デフォルト（両面機は両面で、片面機は片面）で読み取る場合には、本キーは指定しないでください。

キー名	Searchable (Scanning キー)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にする指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	テキスト抽出して検索可能な PDF にするかどうかを指定します。 「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。 本キーを使用する際は、「SearchableLang」キーで言語指定をしてください。 「SearchableLang」キーを指定していない、または指定が無視されている場合、ScanSnap Manager の設定が反映されます。

キー名	SearchableLang (Scanning キー)
概要	テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語指定の制限
必須 / オプション	オプション

値	0 – 日本語 1 – 英語 2 – フランス語 3 – ドイツ語 4 – イタリア語 5 – スペイン語 6 – 中国語（簡体字） 7 – 中国語（繁体字） 8 – 韓国語 9 – ロシア語 10 – ポルトガル語 11 – アラビア語 12 – インドネシア語 13 – タイ語 14 – ベトナム語 15 – チェコ語 16 – デンマーク語 17 – オランダ語 18 – フィンランド語 19 – ギリシャ語 20 – ハンガリー語 21 – ノルウェー語 22 – ポーランド語 23 – ルーマニア語 24 – スウェーデン語 25 – トルコ語
解説	<p>テキスト抽出して検索可能な PDF にするとき、およびマーカー部分の文字列を PDF のキーワードにするときの言語を指定します。</p> <p>ScanSnap Manager V6.3L50 より前のバージョンでは、「0」～「10」のみ指定可能です。</p> <p>ScanSnap Manager V6.3L50 以降のバージョンではすべての値が指定可能ですが、その言語に応じた OCR パック（テキスト認識が可能な言語のセット）がインストールされている必要があります。言語に応じた OCR パックがインストールされていない場合は、本キーによる制限は無視されます。</p> <p>OCR パックに含まれる言語は、以下を参照してください。 http://scansnap.fujitsu.com/jp/downloads/software/ocrpack.html</p> <p>「Format」キーで「2」を指定した場合、または「ファイル形式の選択」で「JPEG」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。</p>
キー名	StartScanTime (Scanning キー)
概要	読み取り開始するまでの待ち時間（秒）の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 – なし 1 ～ 10 – 指定された待ち時間（秒）

解説	読み取り開始するまでの待ち時間 (秒) を指定します。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。
-----------	---

キー名	TextOnlyDocument (Scanning キー)
概要	文字くつきり機能の有効無効の指定の制限
必須 / オプション	オプション
値	0 – 無効 1 – 有効
解説	文字くつきり機能を有効にするかどうかを指定します。 SV600 接続時、「ColorMode」キーで「2」を指定、かつ「DarkMode」キーで「1」を指定した場合、または「カラーモードの選択」で「カラー」を選択、かつ「カラー読み取り時の色を濃くします」を選択した場合、本キーによる制限は無視されます。

キー名	TimerScanTime (Scanning キー)
概要	指定時間経過後 (タイマーモード) 時の読み取り間隔時間 (秒) の指定
必須 / オプション	オプション
値	0 ~ 10 – 指定された読み取り間隔時間 (秒)
解説	指定時間経過後 (タイマーモード) 時の読み取り間隔時間 (秒) を指定します。 次の読み取り開始条件を " 指定時間経過後 (タイマーモード) " 指定時に有効となります。 * 本キーは、ScanSnap Manager V6.3L20 以降のバージョンで使用できます。

出力されるファイルの内容

ここでは、ScanSnap に添付のソフトウェアで出力され、お客様の作成するアプリケーションに渡すファイルについて説明します。

結果ファイル	214
データファイル	218

結果ファイル

結果ファイルは、XML 形式の plist ファイルです。お客様が作成する実行アプリケーションに渡す、データファイルのフルパスなどが記述されます。

ScanSnap Manager は、読み取り後に自動生成します。

CardMinder は、連携アプリケーションの起動時に自動生成します。

重要

- ScanSnap Manager の場合
結果ファイルは、実行アプリケーションで削除してください。
- CardMinder の場合
結果ファイルは、結果ファイルが格納されたフォルダーごとに、実行アプリケーションで削除してください。

以下に、結果ファイルのキー一覧を示します。

M : ScanSnap Manager

C : CardMinder

レ : サポートするキー

ー : サポートしないキー

キー		タイプ	説明	M	C
INFO	FileDesc	String	結果ファイルであることを表す文字列	レ	レ
	Version	String	結果ファイルのフォーマットのバージョンを表す文字列	レ	レ
	Application	String	呼び出し元のアプリケーション名を表す文字列	レ	レ
	AppSetting	String	設定保存ファイルのフルパス	レ	ー
	LaunchMode	Number	ScanSnap Manager の呼び出しモード	レ	ー
	ScannerName	String	ScanSnap の機種名	レ	ー
FILES	ー	Array	データファイルのフルパスの配列	レ	レ
SCAN	Duplex	Number	読み取り面	レ	ー
	ScanMode	Number	画質モード	レ	ー
	ColorMode	Number	カラーモード	レ	ー
	PaperSize	Number	原稿サイズ	レ	ー

結果ファイルのキー説明

以下に、結果ファイルのキーについて示します。

- INFO キー (→ [215 ページ](#))
- FILES キー (→ [216 ページ](#))
- SCAN キー (→ [216 ページ](#))

INFO キー

キー名	FileDesc (INFO キー)
概要	結果ファイルであることを表す文字列
値	常に“PFUFILELISTFORMAT”が設定される。
解説	結果ファイルかどうかを確認するための情報です。

キー名	Version (INFO キー)
概要	結果ファイルのフォーマットのバージョンを表す文字列
値	“1.0”が設定される。
解説	結果ファイルのフォーマットの互換のための情報です。

キー名	Application (INFO キー)
概要	呼び出し元のアプリケーション名を表す文字列
値	<ul style="list-style-type: none">● 呼び出し元が ScanSnap Manager の場合は、“ScanSnap Manager”が設定される。● 呼び出し元が CardMinder の場合は、“CardMinder”が設定される。
解説	呼び出し元アプリケーションを区別するため（タイトルなど）の情報です。

キー名	AppSetting (INFO キー)
概要	設定保存ファイルのフルパス
値	設定画面アプリケーションの情報を格納するためのファイルのフルパス
解説	ファイル名は、ScanSnap Manager 側で自動生成します。 このファイルは、実行アプリケーションで設定した内容が保存されています。設定内容は、実行アプリケーションの仕様に準拠します。

キー名	LaunchMode (INFO キー)
概要	ScanSnap Manager の呼び出しモード
値	0 – 読み取り設定モード 1 – クイックメニューモード
解説	どのモードから起動されたかを表します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 読み取り設定モード ScanSnap Manager から直接アプリケーションが起動されたことを表すモード ● クイックメニューモード クイックメニューからの操作によって起動されたことを表すモード

キー名	ScannerName (INFO キー)
概要	ScanSnap の機種名
値	iX500 – ScanSnap iX500 読み取り時 iX100 – ScanSnap iX100 読み取り時 S1500M – ScanSnap S1500M 読み取り時 S1300i – ScanSnap S1300i 読み取り時 S1300 – ScanSnap S1300 読み取り時 S1100 – ScanSnap S1100 読み取り時 SV600 – ScanSnap SV600 読み取り時
解説	ScanSnap の機種名を表します。

FILES キー

キー名	– (FILES キー)
概要	データファイルのフルパスの配列
値	データファイルのフルパスの配列
解説	データファイルのフルパスの配列を表します。 CardMinder から連携される場合は、名刺データファイルのフルパスを表します。

SCAN キー

キー名	Duplex (SCAN キー)
概要	読み取り面
値	0 – 片面読み取り 1 – 両面読み取り

解説	読み取り面を表します。
----	-------------

キー名	ScanMode (SCAN キー)
概要	画質モード
値	1 – ノーマル 2 – ファイン 3 – スーパーファイン 4 – エクセレント 99 – 自動
解説	画質モードを表します。

キー名	ColorMode (SCAN キー)
概要	カラーモード
値	1 – カラー・白黒・グレー自動識別 2 – カラー 3 – 白黒 5 – グレー
解説	カラーモードを表します。

キー名	PaperSize (SCAN キー)
概要	原稿サイズ
値	0 – サイズ自動検出 1 – A4 (210×297mm) 2 – A5 (148×210mm) 3 – A6 (105×148mm) 4 – B5 (182×257mm) 5 – B6 (128×182mm) 6 – はがき (100×148mm) 7 – 名刺 (90×55mm、55×90mm) 8 – レター (8.5×11 インチ、216×279.4mm) 9 – リーガル (8.5×14 インチ、216×355.6mm) 99 – カスタムサイズ
解説	原稿サイズを表します。

データファイル

データファイルの内容は、Windows 編と同じですが、異なる項目があります。
Windows 編との違いは、以下のとおりです。

形式	項目
ContactXML 形式	作成者情報
vCard 形式	エンコード

データファイルの詳細は、Windows 編「[データファイル](#)」(118 ページ) を参照してください。

ScanSnap Manager 制御イベント

ここでは、ScanSnap Manager をお客様の作成するアプリケーションから制御するイベントについて説明します。

ScanSnap Manager 制御イベントについて	220
Apple event の構造	230
戻り値.....	232

ScanSnap Manager 制御イベントについて

ScanSnap Manager 制御イベントとは、お客様が作成する実行アプリケーションから ScanSnap Manager を制御するためのイベントです。

ScanSnap Manager 制御イベント一覧

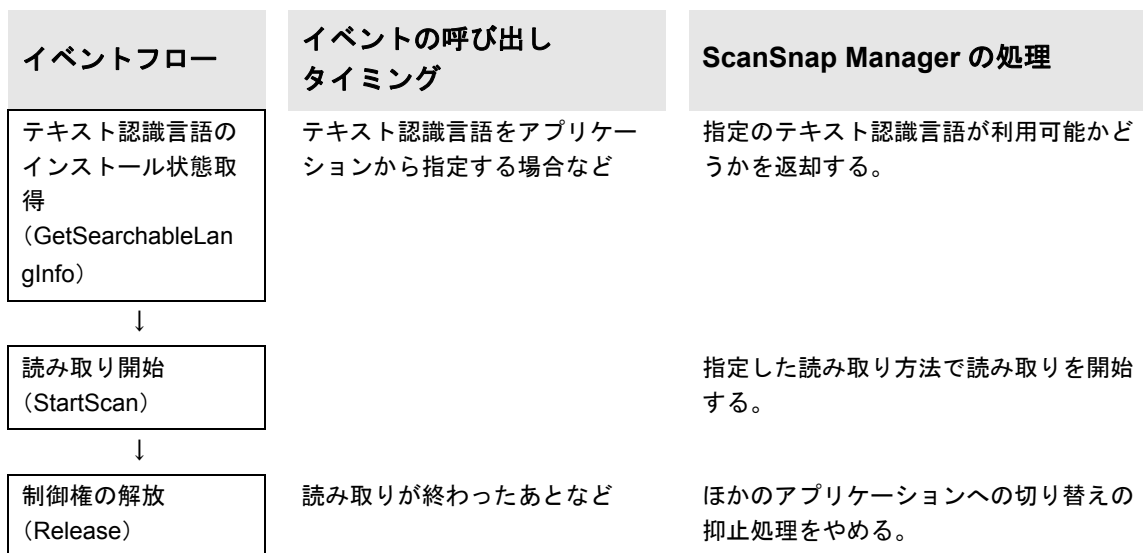
イベント名	概要
制御権の取得 (Reserve)	実行アプリケーション制御を取得します。 本イベントによって、ほかのアプリケーションへの切り替えを抑止し、該当の実行アプリケーションだけ連携します。
制御権の解放 (Release)	実行アプリケーション制御を解放します。 本イベントによって、制御権の取得 (Reserve) していた状態を解除します。
読み取り開始 (StartScan)	読み取りを開始します。 本イベントによって、読み取りを開始します。
接続装置情報の取得 (GetScannerInfo)	接続されているスキャナ情報を出力します。 本イベントによって接続されているスキャナ情報を指定の plist ファイルに書き込みを行います。
テキスト認識言語のインストール状態取得 (GetSearchableLangInfo)	指定した言語がインストールされているか、OCR が利用可能かを判別します。 本イベントによって、指定のテキスト認識言語が利用可能かどうかを取得します。

重要

実行アプリケーションで、常に Reserve イベントを呼び出したままの状態にしないでください。
読み取りを行う直前など必要最低限で Reserve イベントを呼び出し、読み取りが終わったあとは、速やかに Release イベントを呼び出してください。

実行アプリケーションのイベントフロー

イベントフロー	イベントの呼び出し タイミング	ScanSnap Manager の処理
<div>制御権の取得 (Reserve)</div> <div>↓</div> <div>接続装置情報の取得 (GetScannerInfo)</div> <div>↓</div>	<p>読み取りを行う直前など</p> <p>接続されているスキャナ情報を取得する必要があるときなど</p>	<p>指定の実行アプリケーションに切り替え、ほかのアプリケーションへの切り替え操作を抑止する。</p> <p>接続されているスキャナ情報を指定の plist ファイルに書き込む。</p>



制御権の取得（Reserve）イベント

本イベントを受け取ると、ScanSnap Manager は、該当する実行アプリケーションに切り替え、ほかのアプリケーションへの切り替えを抑止します。

本イベント受信後は、以下の操作（機能）が無効となります。

- アプリケーションの選択
- 読み取り設定の切り替え
- クイックメニューモードの切り替え（常にクイックメニューモードは OFF となる）
- アプリケーション自動連携
- 読み取り設定の管理（追加 / 変更 / 削除）
- e- 文書モードの切り替え（e- 文書モードは eScanMode キーに応じて固定される）

制御権の取得（Reserve）を解放（解除）するには、以下の操作が必要です。

- 制御権の解放（Release）イベントを発行する（制御権を取得したアプリケーションと同じアプリケーションであること）。
- ScanSnap Manager を再起動する（システムの再起動を含む）。

本イベントを呼び出した場合は、必ず、制御権の解放（Release）イベントを呼び出してください。

以下の場合は、制御権の取得（Reserve）に失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap Manager が別の実行アプリケーションで制御権が取得されている
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

制御権の解放（Release）イベント

本イベントを受け取ると、ScanSnap Manager は、実行アプリケーションの制御権の取得を解放し、ほかのアプリケーションへの切り替え操作を可能にし、制御権の取得前の読み取り設定に戻します。

ヒント

該当する実行アプリケーションの読み取り設定のパラメーターは、お客様が変更した値となります。

制御権の解放（Release）は、制御権を取得したアプリケーションと同じアプリケーションである必要があります。

また、ScanSnap Manager の再起動（システム再起動）でも解放されます。

以下の場合、制御権の解放（Release）イベントに失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- 別の実行アプリケーションで制御権が取得（Reserve）されている
- ScanSnap Manager の画面表示中

読み取り中に制御権の解放（Release）イベントが呼び出された場合、読み取りを完了してお客様のアプリケーションに連携してから、制御権が解放されます。

読み取り開始（StartScan）イベント

本イベントを受け取ると、ScanSnap Manager は指定の読み取り方法で読み取りを開始します。

ヒント

ScanSnap Manager のメニューでの「両面読み取り」/「片面読み取り」/「読み取り」と同じ操作となります。

連携設定ファイルで読み取り面を制限（「Scanning」キーの「ScanningSide」キーを設定）した場合は、必ず、本イベントでも読み取り面が同じになるようにしてください。異なる場合、動作保証されません。

本イベント発行前に、制御権の取得（Reserve）イベントを発行してください。

制御権の取得（Reserve）イベントが発行されていないと、現在設定されているアプリケーションが連携されません。

以下の場合、読み取り開始（StartScan）イベントは失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap が接続されていない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中
- e- 文書モード読み取りをサポートしていない ScanSnap が接続されている、または複数の ScanSnap が接続されている（e- 文書モード読み取り開始の場合のみ）
- 連携設定ファイルの「eScanMode」キーに「0」が指定されている（e- 文書モード読み取り開始の場合のみ）

また、ScanSnap Manager のメニューの「両面読み取り」/「片面読み取り」/「読み取り」が無効の場合は、読み取りできません。

接続装置情報の取得（GetScannerInfo）イベント

本イベントは、以下のバージョンで使用できます。

- ScanSnap Manager V6.3L20 以降

本イベントを受け取ると、ScanSnap Manager は、その時点で接続されているスキャナ情報を指定の plist ファイルに書き込みを行います。

本イベントは、書き込み終了後に制御を戻します。

以下の場合、接続装置情報の取得（GetScannerInfo）イベントは失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- ScanSnap が接続されていない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

接続装置情報出力ファイル仕様

キー名		タイプ（型）	説明
INFO	ScannerCount	Number	接続装置数
	ManagerVersion	String	ScanSnap Manager バージョン
SCANNER*	ScannerName	String	装置名
* は、1 ～ ScannerCount になります。	ScannerIcon	String	装置アイコンのパス
	Duplex	Number	両面サポート機
	CarrierSheet	Number	キャリアシートサポート機
	A3Size	Number	A3 サイズサポート機
	Book	Number	Book 読み取りサポート機
	Wifi	Number	Wi-Fi サポート機
	PageCount	Number	総スキャン枚数
	RollerSetCount	Number	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数
	PadAssy	Number	パッド使用回数
	SerialNo	String	シリアル番号
	FirmVersion	String	ファームウェアバージョン
	EScan	Number	e- 文書モードサポート機

接続装置情報出力ファイルのキー説明

キー名	INFO
	ScannerCount
概要	接続装置数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	1 – 1 台接続 2 – 2 台接続
解説	接続装置数を表します。

キー名	INFO
	ManagerVersion
概要	ScanSnap Manager バージョン
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	ScanSnap Manager バージョン
解説	ScanSnap Manager のバージョンを表します。

キー名	SCANNER*
	ScannerName
概要	装置名
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	ScanSnap iX500 – ScanSnap iX500 接続時 ScanSnap iX100 – ScanSnap iX100 接続時 ScanSnap S1500M – ScanSnap S1500M 接続時 ScanSnap S1300i – ScanSnap S1300i 接続時 ScanSnap S1300 – ScanSnap S1300 接続時 ScanSnap S1100 – ScanSnap S1100 接続時 ScanSnap SV600 – ScanSnap SV600 接続時
解説	"ScanSnap iX500" などの装置名を表します。

キー名	SCANNER*
	ScannerIcon
概要	装置アイコンへのフルパス
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	装置アイコンへのフルパス

解説	装置アイコンへのフルパスを表します。
----	--------------------

キー名	SCANNER*
	Duplex
概要	両面サポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – 片面機 1 – 両面機
解説	両面サポート機かどうかを表します。

キー名	SCANNER*
	CarrierSheet
概要	キャリアシートサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – キャリアシート未サポート機 1 – キャリアシートサポート機
解説	キャリアシートサポート機かどうかを表します。

キー名	SCANNER*
	A3Size
概要	A3 サイズサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – A3 サイズ未対応（リーガルサイズサポート） 1 – A3 サイズ対応（ダブルレターサイズサポート）
解説	A3 サイズサポート機かどうかを表します。

キー名	SCANNER*
	Book
概要	Book 読み取りサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – Book 読み取り未サポート機 1 – Book 読み取りサポート機
解説	Book 読み取りサポート機かどうかを表します。

キー名	SCANNER*
	Wifi
概要	Wi-Fi 対応機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	0 – Wi-Fi 未サポート機 1 – Wi-Fi サポート機
解説	Wi-Fi 対応機かどうかを表します。

キー名	SCANNER*
	PageCount
概要	総スキャン枚数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	総スキャン枚数
解説	総スキャン枚数を表します。

キー名	SCANNER*
	RollerSetCount
概要	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数
解説	ローラーセット使用回数 / ピックローラ使用回数を表します。 本キーは、ScanSnap iX100、ScanSnap S1100、ScanSnap SV600 接続時には出力されません。

キー名	SCANNER*
	PadAssy
概要	パッド使用回数
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L20 以降
値	パッド使用回数
解説	パッド使用回数を表します。 本キーは、ScanSnap iX100、ScanSnap S1100、ScanSnap SV600 接続時には出力されません。

キー名	SCANNER*
	SerialNo
概要	シリアル番号
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	シリアル番号
解説	装置のシリアル番号を表します。 本キーは、ScanSnap iX500 の Wi-Fi 接続時には出力されません。

キー名	SCANNER*
	FirmVersion
概要	ファームウェアバージョン
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L24 以降
値	ファームウェアバージョン
解説	装置のファームウェアバージョンを表します。

キー名	SCANNER*
	EScan
概要	e- 文書モードサポート機かどうかを表す
サポートバージョン	ScanSnap Manager V6.3L30 以降
値	0 – e- 文書モード未サポート機 1 – e- 文書モードサポート機
解説	e- 文書モードサポート機かどうかを表します。

テキスト認識言語のインストール状態取得 (GetSearchableLangInfo) イベント

本イベントは、以下のバージョンで使用できます。

- ScanSnap Manager V6.3L50 以降

本イベントを受け取ると、ScanSnap Manager は、指定のテキスト認識言語が利用可能かを返却します。

以下の場合、「テキスト認識言語のインストール状態取得 (GetSearchableLangInfo) イベント」は失敗します。

- ScanSnap Manager が起動していない
- 読み取り中
- ScanSnap Manager の画面表示中

Apple event の構造

制御権の取得（Reserve）、制御権の解放（Release）、読み取り開始（StartScan）イベントでサポートしている Apple event の属性は、以下のとおりです。

Apple Event Attributes		Content
Event Class		'ssec'
Event ID		'ssid'
Attribute of the target application's descriptor	Descriptor type	TypeApplSignature
	Application signature	'SCSN'
Apple Event parameters	Parameter key	'aapk'
	Parameter type	SSAssociatedAPPParam
Reply Apple Event parameters	Parameter key	'rcpk'
	Parameter type	UInt32

SSAssociatedAPPParam 構造体

```
typedef struct _SSAssociatedAPPParam
{
    UInt32  Mode;
    UInt32  ScanningSide;
} SSAssociatedAPPParam, *PSSAssociatedAPPParam;
```

説明

値	型	説明
Mode	UInt32	0x00000100 : 制御権の取得 0x00000200 : 制御権の解放 0x00000300 : 通常読み取り開始 0x00000310 : e- 文書モード読み取り開始 * 値「0x00000310」は、ScanSnap Manager V6.3L30 以降で指定できます。
ScanningSide	UInt32	0 : 両面読み取り（ただし、片面機の場合、片面読み取り） 1 : 片面読み取り 読み取り開始時に指定できます。

接続装置情報の取得（GetScannerInfo）イベントでサポートしている Apple event の属性は、以下のとおりです。

Apple Event Attributes		Content
Event Class		'ssec'
Event ID		'ssid'
Attribute of the target application's descriptor	Descriptor type	TypeApplSignature
	Application signature	'SCSN'
Apple Event parameters	Parameter key	'sipk'
	Parameter type	String (*)
Reply Apple Event parameters	Parameter key	'rcpk'
	Parameter type	UInt32

* : 接続装置情報を出力する plist のパスを指定してください。

テキスト認識言語のインストール状態取得（GetSearchableLangInfo）イベントでサポートしている Apple event の属性は、以下のとおりです。

Apple Event Attributes		Content
Event Class		'ssec'
Event ID		'ssid'
Attribute of the target application's descriptor	Descriptor type	TypeApplSignature
	Application signature	'SCSN'
Apple Event parameters	Parameter key	'oipk'
	Parameter type	UInt32 (*)
Reply Apple Event parameters	Parameter key	'rcpk'
	Parameter type	UInt32

* : インストール状態を取得したい言語の値です。SearchableLang キーの値を指定してください。

戻り値

Apple event のリプライで取得できる戻り値は、以下のとおりです。

制御権の取得時

0x00000000	イベント正常終了
0x00000000 以外	エラー
0x00000001	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
0x00000002	登録されていない Bundle identifier のアプリケーションからイベントを受信した
0x00000003	お客様のアプリケーションが制御権を取得済み
0x00000005	パラメーターエラー
0x00000007	ほかのアプリケーションが制御権を取得済み
0x00000099	システムエラー

制御権の解放時

0x00000000	イベント正常終了
0x00000000 以外	エラー
0x00000001	ScanSnap Manager の画面表示中
0x00000002	登録されていない Bundle identifier のアプリケーションからイベントを受信した
0x00000004	制御権解放済み（制御権取得されていない状態でのイベント発行）
0x00000005	パラメーターエラー
0x00000099	システムエラー

読み取り開始時

0x00000000	イベント正常終了 * 読み取りエラー時も含む
0x00000000 以外	エラー
0x00000001	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
0x00000004	制御権未取得
0x00000005	パラメーターエラー
0x00000006	ScanSnap が接続されていない、ScanSnap がモバイル機器で使用 中など読み取り不可状態
0x00000007	e- 文書モード読み取りをサポートしていない ScanSnap が接続され ている、または複数の ScanSnap が接続されている
0x00000008	アプリケーションが e 文書画質をサポートしていない
0x00000099	システムエラー
* 値「0x00000007」「0x00000008」は、ScanSnap Manager V6.3L30 以降の場合に 返されます。	

接続装置情報の取得時

0x00000000	イベント正常終了
0x00000000 以外	エラー
0x00000001	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
0x00000005	パラメーターエラー
0x00000006	ScanSnap が接続されていない
0x00000099	システムエラー

テキスト認識言語のインストール状態取得時

0x00000000	イベント正常終了
0x00000000 以外	エラー
0x00000001	読み取り中、または ScanSnap Manager の画面表示中
0x00000005	パラメーターエラー
0x00000009	指定のテキスト認識言語がインストールされていない
0x00000099	システムエラー

ScanSnap 関連ソフトウェアの状態の チェック方法および操作方法

ここでは、ScanSnap 関連ソフトウェアの状態のチェック方法、および起動や終了操作方法について説明します。

インストールされているかのチェック	235
起動しているかのチェック	235
バージョンのチェック	235
起動の方法	236
終了の方法	237

インストールされているかのチェック

ScanSnap Manager がインストールされているかどうかのチェックは、以下の両方をチェックします。

- /Applications/ScanSnap/ScanSnap Manager.app が存在するか
- Bundle identifier が jp.co.pfu.ScanSnap.V10L10（ScanSnap Manager を指す）の Info.plist の CFBundleShortVersionString が 6.0.10 以上か

起動しているかのチェック

ScanSnap Manager が起動しているかどうかのチェックは、NSWorkspace クラスのメソッド `runningApplications` を使用して、起動中アプリケーション情報リストを取得し、「ScanSnap Manager」がリスト中に存在するかどうかをチェックします。

バージョンのチェック

ScanSnap Manager

ScanSnap Manager のバージョンをチェックするには、Bundle identifier が jp.co.pfu.ScanSnap.V10L10（ScanSnap Manager を指す）の Info.plist の CFBundleShortVersionString を取得します。

CardMinder

CardMinder のバージョンをチェックするには、以下のファイルの CFBundleShortVersionString の値を取得してください。

ファイル：

/Applications/CardMinder/CardMinder.app/Contents/version.plist

起動の方法

ScanSnap Manager を起動するには、NSWorkspace クラスのメソッド `launchApplication`、または `LSOpenApplication()` 関数などを使用します。引数には、パス「`/Applications/ScanSnap/ScanSnap Manager.app`」を指定します。

重要

ログインしているユーザーの権限で起動してください。ログインしているユーザーと違う権限で ScanSnap Manager を起動した場合は、ほかのアプリケーションとの通信が正常に行われません。

終了の方法

ScanSnap Manager を終了するには、OS 標準のアプリケーションを終了する Apple event を送信、または NSRunngingApplication のメソッド terminate を使用します。ScanSnap Manager のプロセス情報は、「[起動しているかのチェック](#)」(235 ページ) で得られた起動中アプリケーション情報リストから取得します。

以下の場合は、ScanSnap Manager を終了できません。

- 読み取り中
- 画面表示中

ScanSnap Manager のメニューの「終了」が無効の場合は、終了できません。

サンドボックス対応について

ここでは、お客様のアプリケーションがサンドボックスに対応している場合の注意事項について説明します。

サンドボックス対応時の注意事項 239

サンドボックス対応時の注意事項

お客様のアプリケーションがサンドボックスに対応している場合の注意事項について説明します。

ファイルアクセスについて

連携設定ファイルの配置方法

ScanSnap Manager / CardMinder

お客様のアプリケーションがサンドボックスに対応している場合、お客様のアプリケーションから直接連携設定ファイルの配置先フォルダーにアクセスしたり、ファイルをコピーしたりできません。

そのため、連携設定ファイルを ScanSnap Manager.app、CardMinder.app に「NSApplication」クラスの「openFiles:filenames:」メソッドで渡してください。

ScanSnap Manager.app、CardMinder.app がお客様の連携設定ファイルを配置先フォルダーにコピーします。

- ScanSnap Manager
~/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/Extension/
- CardMinder
~/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/CardMinder/Extension/

なお、配置先フォルダーにコピーした連携設定ファイルは、お客様のアプリケーションが削除されたら、ScanSnap Manager、CardMinder が削除します。

保存先フォルダーの指定

ScanSnap Manager

連携設定ファイルの「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定した場合、確実に結果ファイルの「FILES」キーに出力されたデータファイルにアクセスできるように、以下のキーを指定してください。

- 「Launch」キーの「SaveFolderMode」キー
「1」を指定
- 「Scanning」キーの「SaveFolder」キー
お客様のアプリケーションがアクセスできる、存在するフォルダー名を指定

キーを指定しない場合、お客様のアプリケーションからアクセスできないフォルダーにデータファイルが出力されることがあります。

設定ファイルにアクセスするための設定

ScanSnap Manager

連携設定ファイルの「Application」キーの「UseAppSetting」キーに「1」を指定し、「Launch」キーの「ResultFileType」キーに「1」を指定した場合、お客様のアプリケーションに連携したときに設定ファイルにアクセスできるように、プロジェクトの Entitlements ファイルに以下を追加してください。

```
<key>com.apple.security.temporary-exception.files.home-relative-path.read-write</key>
<array>
    <string>/Library/Application Support/PFU/ScanSnap/ScanSnap Manager/AppSettings/</string>
</array>
```

結果ファイルおよびデータファイルにアクセスするための設定

CardMinder

お客様のアプリケーションに連携するときに、CardMinder は結果ファイルおよびデータファイルを、ユーザーの一時フォルダーに格納します。これらのファイルにアクセスできるように、プロジェクトの Entitlements ファイルに以下を追加してください。

```
<key>com.apple.security.temporary-exception.files.home-relative-path.read-write</key>
<array>
    <string>/Library/Caches/TemporaryItems/PFU/ScanSnap/CardMinder/Extension/temp/</string>
</array>
```

ScanSnap Manager 制御イベントについて

Apple event を使用するための設定

ScanSnap Manager

Apple event を ScanSnap Manager に発行するために、プロジェクトの Entitlements ファイルに以下を追加してください。

```
<key>com.apple.security.temporary-exception.apple-events</key>
<array>
    <string>jp.co.pfu.ScanSnap.V10L10</string>
</array>
```

接続装置情報の取得イベントで指定する plist ファイルにアクセスするための設定

ScanSnap Manager

接続装置情報の取得イベントで指定する plist のパスにはお客様のアプリケーションがアクセスできるパスを指定してください。

索引

C

CardMinder との連携	
Windows	43
Mac OS	161

S

ScanSnap Manager 制御イベント	
Mac OS	220
ScanSnap Manager 制御コマンド	
Windows	129
ScanSnap Organizer との連携	
Windows	33

か行

開発環境	21
クイックメニューとの連携	
Windows	23
Mac OS	151
結果ファイル	
INI 形式	105
XML 形式の plist ファイル	214

さ行

作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	54
Mac OS	171
サンドボックス対応について	238
サンプルプログラム	
CardMinder	
Windows	51
Mac OS	168
ScanSnap Organizer	
Windows	40

クイックメニュー	
Windows	30
Mac OS	158
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	61
Mac OS	178

実行アプリケーションの作成	
CardMinder	
Windows	44
Mac OS	162
ScanSnap Organizer	
Windows	34
クイックメニュー	
Windows	24
Mac OS	152
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	55
Mac OS	172

設定画面アプリケーションの作成	
CardMinder	
Windows	47
Mac OS	165
ScanSnap Organizer	
Windows	36
クイックメニュー	
Windows	26
Mac OS	154
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	57
Mac OS	174
前提条件	20

た行

データファイル

CardMinder の名刺データファイル	118
ScanSnap Manager	118
ScanSnap Organizer	118

特長	17
----------	----

ら行

レジストリーへの登録

CardMinder	
Windows	49
ScanSnap Organizer	
Windows	38
クイックメニュー	
Windows	28
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	59

連携設定ファイル

INI 形式	65
XML 形式の plist ファイル	182

連携設定ファイルの配置

CardMinder	
Mac OS	167
クイックメニュー	
Mac OS	157
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Mac OS	177

連携設定ファイルの用意

CardMinder	
Windows	48
Mac OS	166
ScanSnap Organizer	
Windows	37
クイックメニュー	
Windows	27
Mac OS	155
作成したアプリケーションから原稿を読み取る	
Windows	58
Mac OS	175

ScanSnap インターフェースガイド
P2WW-3030-12Z0

発行日 2016 年 5 月

発行責任 株式会社 PFU

- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責任を負いません。
- 無断転載を禁じます。